松本市文化財調査報告No.170

長野県松本市

SAKURAGAOKA-KOFUN

桜ヶ丘古墳

－ 再整理報告書 －

信州大学附属図書館
受入印

2003.3

松本市教育委員会

長野県松本市

SAKURAGAOKA-KOFUN

桜ヶ丘古墳

－ 再整理報告書 －

2003.3

松本市教育委員会

例言

1　本書は、昭和29年に発見され、同30年に発掘調査が行われた松本市浅間温泉飯治洞1315番地に所在する桜ヶ丘古墳の出土遺物再整理報告書である。

2　本古墳は、昭和41年に当時の東京都郷土資料館長会員会により発掘調査報告書が刊行されているが、その後の金属製遺物の保存修復処置により、甲冑が復原されたので、再整理し報告するものである。

3　本書の執筆と編集は内堀団が行った。なお、附編として発掘調査報告書と本古墳出土遺物に関する既出論文2編を収録している。

4　本書の作成・編集にあたっての作業分担は以下の通りである。

遺物接合：内堀　団、洞沢文江、片山祐介
遺物データベース作成：内堀　団、洞沢文江
遺物属性観察：内堀　団
遺物実測・トレース
　金属製遺物：内堀　団、片山祐介
　石製遺物：赤羽裕幸、太田圭郁、村山敬枝
　ガラス製遺物：赤羽裕幸、内堀　団、太田圭郁、村山敬枝
図面類スキャニング・画像処理：赤羽裕幸、内堀　団
遺構図トレース：赤羽裕幸、内堀　団
版組：内堀　団

5　本書の作成にあたり多くの方々からご協力、ご教示を頂きました。記して感謝申し上げます。（敬称略）

個人
青木繁夫、尼子奈緒美、岩崎厚志、大森信弘、尾崎　誠、加藤里美、滝沢　誠、樋口林輝、吉田恵二

関係機関
独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所
財団法人元興寺文化財研究所
國學院大學日本文化研究所

6　遺物およびその整理で収集した記録類は松本市教育委員会が保管・管理し、松本市立考古博物館に収蔵されている。
松本市立考古博物館
郵便番号 390-0823　長野県松本市中山3738-1
電話番号 0263-86-4710　FAX番号 0263-86-9189

7　本報告書の入稿及び校正は PDF 形式で実施した。

8　本書の仕様は以下の通りである。

版式：CTP オフセット印刷
出力線数：175 線／インチ
製本：無線綴じ並製本
表紙紙質：レザック 80 つむぎ　Y 目 210kg
表紙紙色：うめ
本文紙質：マットコート 90kg

本文目次

1 はじめに …… 1
2 経過 …… 1
3 再整理の方法 …… 2
　(1) 整理の方針 …… 2
　(2) 記録類の調査 …… 2
　(3) 遺物整理 …… 2
4 記録類調査の成果 …… 3
　(1) 図面記録 …… 3
　(2) 写真記録 …… 3
　(3) 保存修復記録 …… 3
5 遺物再整理の成果 …… 3
　(1) 金属製遺物 …… 3
　(2) 石製遺物 …… 7
　(3) ガラス製遺物 …… 7
6 総括 …… 7

附編

附編1　報告書『信濃浅間古墳』
附編2　論文「松本市桜ヶ丘古墳出土金銅天冠の修復処置」
附編3　論文「長野県松本市桜ヶ丘古墳の再調査」

表目次

第1表　遺物一覧 …… 8

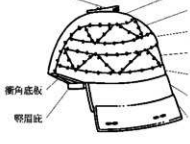
図版目次

第1図　桜ヶ丘古墳と周辺古墳位置図 …… 1
第2図　墳丘・石室実測図 …… 13
第3図　金属製遺物実測図1(天冠・竪櫛・布) …… 14
第4図　金属製遺物実測図2(三角板革綴衝角付冑) …… 15
第5図　金属製遺物実測図3(長方板革綴短甲) …… 16
第6図　金属製遺物実測図4(長方板革綴短甲) …… 17
第7図　金属製遺物実測図5(長方板革綴短甲) …… 18
第8図　金属製遺物実測図6(長方板革綴短甲) …… 19
第9図　金属製遺物実測図7(刀・剣・鉾) …… 20
第10図　金属製遺物実測図8(剣・武具類) …… 21
第11図　金属製遺物実測図9(武具類) …… 22
第12図　金属製遺物実測図10(鏃・武具類) …… 23
第13図　金属製遺物実測図11(鏃・武器・武具類) …… 24
第14図　石製・ガラス製遺物実測図(玉類) …… 25
第15図　鉄鏃参考資料 …… 25
第16図　衝角付冑　破片復原展開図 …… 26
第17図　短甲　破片復原展開図 …… 28

写真目次

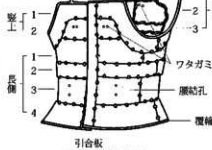
写真1　鉄鏃参考資料 …… 25
写真2　衝角付冑　復原展開レントゲン …… 27
写真3　短甲　復原展開レントゲン …… 29

凡例：甲冑部分名称　（冑・短甲　柳本照男 2001年『倭国の形成と戦争』『季刊考古学』第76号 p18 図3 改変）



三角板革綴衝角付冑

革綴打延類甲



長方板革綴短甲

1　はじめに

桜ヶ丘古墳は昭和29年6月3日、女鳥羽中学校の生徒によって発見されたことに端を発し、國學院大學の大場磐雄教授を調査責任者として昭和30年に発掘調査された。その成果は、昭和41年刊行の『信濃浅間古墳』(以下、「報告書」)として、近接の妙義山古墳群と合わせて報告されている。本古墳の遺物は、金銅製天冠と玉類などの装身具類と、刀、剣、鉾、鏃、甲冑などの武器・武具類の副葬品で構成された中期古墳の様相を備えたものであった。

これら遺物の大半は金属製遺物で占められ、調査当時から銹に覆われていた。多くの金属製遺物は、土中では錆びた状態で一応の安定状態となるが、発掘調査等によって外気に触れることで不安定な状態となり劣化が進行し、最終的には崩れて無くなってしまう。本古墳出土遺物も例外でなく、経年による遺物の劣化、崩壊が始まりつつあった。そこで、本古墳出土の金属製遺物を後世に伝え残すこと、展示に活用することを目的として保存処置の業務委託を段階的に行ってきた。その結果、報告書刊行時は破片での報告となった甲冑は、副葬当時の立体構造が推定できるまでに復原され、金銅製天冠や武器類も保存処置の過程で新知見が得られた。そこで、これら遺物を再整理し、資料提示することを目的として本書を作成した。

なお、発見の経緯や発掘調査が記載されている報告書は、現在入手困難であるため、巻末に附篇1として収録した。また、昭和51年の『保存科学』第15号に発表された青木繁夫氏の受託研究報告第40「松本市桜ヶ丘古墳出土金銅天冠の修復処置」(以下、「青木論文」)は、毛彫り文様について新知見が指摘されていることから附篇2として収録し、昭和63年の『信濃』第40巻第10号に発表された滝沢誠氏の論文「長野県松本市桜ヶ丘古墳の再調査」(以下、「滝沢論文」)は、墳丘の再測量と遺物再実測に基づき、墳丘や遺物の再検討がされていることから附篇3として収録した。

2　経過

古墳が発見されてから現在に至るまでの経過の概要を報告書等に基づき記載する。

昭和29(1954)年

6月3日：女鳥羽中学校の生徒により古墳が発見される。
所在地：松本市浅間温泉飯治洞1315番地
(当時：東筑摩郡本郷村字浅間飯治洞1315番地)

昭和30(1955)年

第1次調査期間：8月29日～9月19日
8月30日：瑞福製勾玉1、ガラス製丸玉9、ガラス製小玉29、滑石製臼玉4、鉄鏃残片等が採集される。
9月1日：石室北西部からガラス製小玉6、滑石製臼玉1が採集される。小副室内の粘土層中から天冠1、鉄剣1を発見し取り上げる。

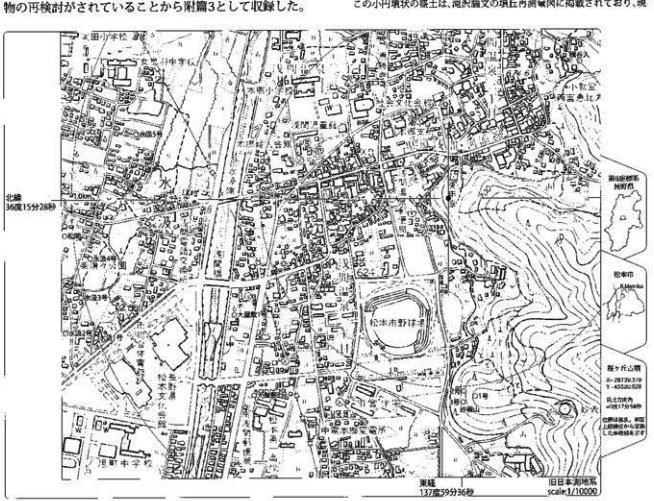
＊上記は、武部修氏が分担した「第1章第2節　調査の経過」の記載による。
令谷克己氏が分担した「第2章第1節2　内部主体」では、「(略)勾玉1顆・丸玉9顆・小玉35顆・臼玉5顆等の装身具類を挙げ得るが、いずれも副室の東北外側より採集されたもので、棺内または埋葬主体に混在した状態は、明らかに後世の人為的な移動によることを物語っていた。これは、かつてこの地に小墓を建てたことがあるというから、その折の破壊によるものであろう。」(報告書p32L6～8)とある。両者で採集位置に異同があるものの、いずれの玉類も原位置を保っていないとみて大過ないようである。

昭和31(1956)年

10月1日～10月7日：第2次調査で妙義山古墳群の発掘調査が実施される。調査後に桜ヶ丘古墳と妙義山1号・2号古墳が復原保存される。

＊「一現状の復元保存については、桜ヶ丘古墳発見以来終始関係のあった地元の女鳥羽中学校職員生徒の協力を願い、封土を積んで小円墳を造りあげ、また、妙義山第2号墳も封土を盛り、かつ墓石を施して同じく円墳とした。」(報告書p25L4～5)

この小円墳状の盛土は、滝沢論文の墳丘再測域図に掲載されており、現



第1図　桜ヶ丘古墳と周辺古墳位置図

在も墳丘上に見ることができる。この盛土については別文献があるので以下に引用する。
「発掘調査の際、横床部の上層土が検査されていたことがわかったので調査後土盛りをして円墳の原型に復している。」
引用文献
原忍藤　1967『桜ヶ丘古墳址とその遺物』『本郷村文化財調査資料(第2集)』本郷村文化財審議委員会 p9.L13～15

昭和41(1966)年
4月29日:報告書『信濃浅間古墳』が発行される。
（編集:本郷村教育委員会　発行:本郷村）

報告書記載の桜ヶ丘古墳遺物内訳
武器類:刀1、剣5、鉾1、鏃数箇
武具類:衝角付冑1、頸甲1、短甲1
装身具類:天冠1、竹櫛1、勾玉1、白玉5、ガラス丸玉9、ガラス小玉35(うち黄色2・淡青色33)

昭和44(1969)年
5月15日:金銅製天冠が、長野県宝に指定される。

昭和49(1974)年
5月1日:松本市と本郷村が合併する。
9月2日:東京国立文化財研究所(現　独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所)へ金銅製天冠と鉄剣1の保存修復を業務委託する。(～昭和50年3月31日)

昭和50(1975)年
5月15日:保存処置を終えた金銅製天冠が、松本市本郷支所へ返却される。
＊5月16日付の信濃毎日新聞紙上で報道される。

昭和51(1976)年
3月31日:雑誌『保存科学』15号で、青木繁夫氏が「受託研究報告　松本市桜ヶ丘古墳出土金銅天冠の修復処置」を発表する。
＊この論文から保存処置後の冠は、復原されシリコンに封入されたものと、接合しない破片が入るシャーレとに分けて返却されていることがわかる。

昭和61(1986)年
8月2日:松本市立考古博物館が開館する。

昭和62(1987)年
10月14日～10月19日:長野県史編纂事業の一環で桜ヶ丘古墳の墳丘測量調査と一部の遺物が実測される。

昭和63(1988)年
3月17日:金銅製天冠を除く桜ヶ丘古墳の出土品一括が松本市重要文化財に指定される。
＊文化財指定に伴う調書の内訳は、衝角付冑1・頸甲1・短甲1・刀1・剣5・鉾1・勾玉2・白玉5・丸玉9・小玉35となっている。勾玉は、報告書では1点とされているので、文化財指定の調査以前の段階で、本古墳以外の勾玉1点が紛在してしまったと考えられる。
参考文献
松本市教育委員会 1988『桜ヶ丘古墳出土品』『松本市の文化財』第6 p19
月日不明:財団法人元興寺文化財研究所へ鉄剣4・鉄鏃1、甲冑、鉄鏃等の保存修復を業務委託する。(～平成元年)
10月1日:雑誌『信濃』第40巻第10号の誌上で、滝沢誠氏が「長野県松本市桜ヶ丘古墳の再調査」を発表される。
＊この論文により、これまで長方板革甲技法とされてきた甲冑は、小小製作技法である革綴で、特に冑は三角板で構成されることが明らかにされた。

平成6(1994)年
11月1日:本郷支所で保管されていた桜ヶ丘古墳を含む旧本郷村の考古資料が松本市立考古博物館へ移管される。

平成11(1999)年
7月29日:財団法人山梨文化財研究所へ直刀1、剣1の保存修復を業務委託する。(～平成12年3月24日)

3　再整理の方法

(1)　整理の方針

本古墳に関する記録類を集成し、発掘調査から保存修復処置を経て今に至るまでの経過・知見を確認すると共に、現在所管する遺物を再実測・再計測する。この両作業を通して本古墳の遺物一覧表と実測図を提示し、その構成と総点数を確定する。

(2)　記録類の調査

松本市教育委員会では、発掘調査の測量図や遺物実測図等の記録を所有していないため、発掘調査と保存修復に伴う関係機関・各位に残される記録を調査した。

(3)　遺物整理

本古墳の遺物は材質により大別できる。そこで、金属製遺と石製遺物(略号:L)、ガラス製遺物(略号:G)に大別した。また、天冠に付着した有機遺物は竪櫛と布に分けてのち、以下の手順で行った。

ア　管理台帳作成

本古墳から出土した遺物の総個体数を確定するため、全ての遺物に対して通し番号で管理番号「ID」を付した。

なお、金属製遺物は、複数の鉄板を革紐で綴じ合わせている甲冑がある。そこで、天冠以外の金属製遺物は、保存処置時の破片番号を基として管理番号「ID」を付し、そのうち接合が確認できたものについては、接合した内で一番若い管理番号「ID」を用いて接合資料番号とし、略号「R」を冠して「R+ID」と表記した。

その後、遺物の属性観察と寸法・重量(0.1g単位)の計測等を行い台帳へ記載・登録をした。

イ　接合作業

現在残されている破片について接合作業を行った。

復原された甲冑については、保存修復前に撮影された破片のレントゲン写真からデジタルに複製したものを画像処理ソフトを用い破片毎に切り抜き、保存修復記録と復原資料を基にドローソフトを用いパソコン画面上で接合状況を確認し、展開レントゲン写真を作成し収録した。(写真2・3)

ウ　個体別照合作業

今回再実測図を作成したが、本古墳の遺物実測図は報告書および滝沢論文による。それらと対照できるよう本作業を行った。特に甲冑は復原されており、前述のレントゲン写真と各掲載実測図の原寸大切り抜きを作成し、重ね合わせることにより特定し、遺物一覧表に記載した。(第1表)

エ　実測・トレース

金属製遺物は0.5g以上を対象とし、石製遺物とガラス製遺物は全て作成した。金属製遺物については、レントゲン写真が所管されておらず、実測図作成段階では肉眼で観察できる情報のみを図化せざるを得なかった。

天冠とそれに付着する竪櫛、布については、アクリル板のケース内に樹脂で封入されているためデジタル写真画像を画像処理ソフトを用いレタッチし、ドローソフトを用いて作図した。

オ　保管方法

天冠と付着する竪櫛と布は、現状のまま保管している。他の金属製遺物のうち、復原された甲冑を構成した以外の破片は、ひとつずつIDを記載したチャック付ポリ袋に封入して保管している。

石製遺物、ガラス製遺物は全て玉類なので、種類毎のIDを記載したタグ(札)を孔に通した上で、同IDを記載したチャック付ポリ袋に封入して保管している。

4　記録類調査の成果

各関係機関・各位の所蔵する記録類を以下、図面記録、写真記録、保存修復記録と分けて記述する。これらの記録類は、各関係機関より、複写・複製データ等で提供いただき収蔵した。

(1) 図面記録

発掘調査当時の原図は発見できなかったが、後述する独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所の保存修復記録中に、本古墳の墳丘・石室実測図と冠等の遺物実測図の複写が保管されている。これらが当時作成された図面類の全てかは不明であるが、入要に貴重な資料となる。

(2) 写真記録

國學院大學日本文化研究所が所蔵する大場磐雄資料の中に、縦ケ丘古墳に関する乾板写真と、幼義山古墳に関する原図・乾板写真が保管されている。

参考文献

2002　國學院大學学術フロンティア事業実行委員会『「考古遺産の再生活用と資料化に関する基礎的研究」事業報告』p188～196

(3) 保存修復記録

独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所に天冠と剣の保存修復記録が保管されている。

財団法人元興寺文化財研究所には、甲冑と刀剣類の一部の保存修復記録、レントゲン写真が保管されている。

財団法人山梨文化財研究所には、刀剣類の保存処置記録、レントゲン写真が保管されている。

5　遺物再整理の成果

(1) 金属製遺物

ア　金銅製天冠（第3図001）

金銅製天冠の「天冠」という用語は、現在では「冠」が一般的であるが、本書では報告書に従って「天冠」とし、文中では「天冠」または「冠」で記載している。なお、冠については近年、毛利光俊彦氏の研究があり、本古墳の冠の型式名称は、鉢巻式帽冠とされている。

発掘調査によって出土した遺物で、本古墳を注目させることとなった遺物である。大冠の出土位置は、副室の踏床上に広がる灰黄色粘土中上である。保存処置がなされ、現状はシリコンに封入されアクリルケースに収められている。青木論文には、接合しなかった破片を納めたシャーレが記載されているが、現在は所在がわからなくなっているが、ID002として登録した。

報告書の実測図は表面のみで、裏面に付着した竪櫛と布（布帛）は図化されていないことから、両面の実測図を作成した。なお、冠の形状や計測値等は、青木論文が詳しいためそれを引用し、鍍金と蹴彫り（毛彫り）について若干の補足をする。また、付着している石機遺物の竪櫛と布についてもここで合わせて詳述する。

青木論文（51頁18～32行、53頁18～20行）

「厚さ約1mmの銅板を切り抜いて造り、鍍金を施したものである。冠帯と同一銅板から成る立挙を中央に有する逆T字形が基本で、左右に同形の立挙を作って冠帯の裏側から鋲留めしてある。

さらに細部を見ると冠帯は、現在長23cm、端末の幅約4cm、中央立挙へ向かうほど緩やかな山形の隆起を見せ、その接触部で幅4.5cmとなっている。中央立挙は長さ18.7cm、基部の幅8.4cm、上端に行くに従って ゆるやかな膨みを描きつつ次第に幅を減じる。上端は中央と左右の三支に分れた花形装飾を呈するが中央のものは折損し、また左右のものも、上方に向かうにしたがい半円を描いていると思われるが、その大部分が折損している。

左右の立挙は、左方が冠帯との接合部の鋲だけ残して欠失している。右方の立挙は、その下端を1mmあまり冠帯裏側に重ね、二本の鋲で留めてある。その形は斜め上方に向って大きく弧状を描き、下方で一度屈曲して先端尖葉形で終るが、その長さは13cm、冠帯との接合部での幅は2.3cmある。

これらの周縁にはすべて二条の毛彫りの並行線と、その間に波状文と珠文を配した単調な文様をいずれも浅く刻んでいる。

冠帯左側裏面には竪櫛、右方立挙裏面には平織の布帛断片が鏽で付着している。」

「クリーニングの結果、報告書に記載されていなかった新知見が得られた。それは毛彫文様のないと思われていた冠帯下縁にも二条の並行線と その間に波状文と珠文を配した単調な毛彫文様が発見されたことである。」

補足1：鍍金について

裏面にも表面ほどではないが金の鍍金が残っていることから、鍍金は表裏全面に施されていることがわかる。また、別作りである立飾（挙）と帯との鋲留される重ね合わせ部分の観察から、鋲留前にそれぞれ別々に鍍金されていることがわかる。

補足2：蹴彫りについて

波状列点文（二条の並行線と、その間に波状文と珠文を配した文様）は、一等辺三角形状をした長さ約1.5mm、幅約0.5mmで、間隔を約0.2mm空けて整が頂部方向に抜け連続して彫られている点線である。冠を正面からみて反時計回り方向で彫られている。このことから、折損した中央立飾の宝珠文形（花形装飾）部分と帯左右端部の縁辺にも、同様の文様が反時計回りで全周して彫られていたと推定される。なお、現状で終始点となろうピッチのズレや切り合いは確認されない。また、右方立飾も同様に、反時計回りで刻まれている。鋲留めのために重ね合わせた下にも蹴彫りが確認でき、鍍金同様に部品の段階で彫られていることがわかる。ただし鋲留位置と文様の関係は鋲が文様に被ることから文様の割り付けは鋲留位置を製作段階で考慮していないとみられる。

参考文献

毛利光俊彦　1995『日本古代の冠-古墳出土冠の系譜-』『文化財論叢Ⅲ』同朋社出版 p65～129

小林謙一　1982『金属技術について-製作工程と技術の系譜-』『考古学論考』平凡社 p403～415

竪櫛（第3図003）

現状では計測できないため、報告書の記載を引用する。

報告書（35頁6～13行）

「径約1mm程度の細割竹8本を並列して中央で半円形状に屈曲させ、縦横に細い数条の繊維を巻いて固定し、これに黒漆を塗布したものと推定される。頭部は長さ1.1cm、幅の接続部で幅1.5cm。」

この計測値は、櫛の部分の数値である。実際には歯の部分も本来の長さは失っているものとみられるが冠に付着して残存している。写真から計測した全長は、約3.3cmを測る。素材は、組織分析されていないが、やはり竹を細割したものとみられる。また、十分な観察結果ではないが、縦条は、細割竹を一括りに結束したものとみられる。また、横条は、糸を巻き上げて結束しているものとみられる。

布（布帛）（第3図004）

素材は、麻と推定される。若干の縒りが観察され、右縒り（S縒り）とみられる。織り方は平織で、付着箇所も青木論文の通りで、天冠の右方立飾裏面のみに部分的にみられ、大きくは2箇所ある。それらはともに経糸が平行であり、同一方向であることから一枚の麻布とみられる。布痕は、立飾の縁にも部分的に観察されるため、裏面全体を覆っていた可能性がある。現状で、表面には布が確認できないが、出土状況から布に包まれていた可能性も残される。

イ 胄(第4・16図)

頭部を保護するもので、頭頂部から前頭の衝角部までを形成した伏板、上下2段の三角形地板と帯金、前垂下となる衝角底板と竪眉庇から構成される部品を革紐で綴じ合わせた三角板革綴衝角付胄である。うち衝角底板は完全に欠損するものの、おおむね各段の部品は揃っている。鎧は残存しない。なお、復原に際して、滝沢論文の詳細な観察結果を基とし、全体形状は大阪府豊中市所在の大塚古墳出土衝角付胄を参考としている。復原された各計測値は、長さ28.0cm、幅18.0cm、高さ18.4cmを測る。長さ:幅:高さの比率は、1.6:1:1であり、上下高が左右幅、前後長に比べて高い。そのため、伏板の湾曲が強い。以下、各構造部位毎に詳述する。

伏板

頭部はおおむね残存するが、衝角先端部から衝角底板が欠損する。各計測値は、伏板の長さ10.6cm、幅8.0cm、衝角部で幅4.0cmを測る。残存する革紐から、地板頂点との直接結合は避けるようにして下段と組織じしていたものとみられる。現状では有機物の付着は観察できず、三尾鉄が付属していた形跡は認められないが、頭部には左右1.5cm、前後3.0cmの長方形の隅に位置するように4孔が穿たれている。

地板第1段

完形の部品はないが、全て残存する。地板は三角形で、後頭部を中央にして正位の三角形地板を1枚配し、その左右は3枚づつ上下交互に計7枚で構成される。高さ4.3cmを測る。伏板との接合箇所は欠損しているため、伏板との結合方法は不明である。地板は斜辺3箇所、底辺4箇所に孔を開けている。内面の綴じ方は、残存状態の比較的良好な左右側面では、斜辺はいずれも下から上に向かって綴じ合わせ、頂点手前の孔で完結している。地板同士の結合は、胴巻板・伏板との結合の前に行われている。

胴巻板

ほぼ全周にわたって残存する。幅2.0cmを測る。内面の綴じ方は、地板第1段とは、左右とも衝角部側から綴じ合わせ、後頭部でともに終了している。地板第2段との結合も衝角部側からはじめ、後頭部や中左寄りで終了している。左側面角部との接合箇所付近では、衝角と地板第1段との結合紐の下に、胴巻板と地板第1段との結合紐が入り込んでいる。また、地板第1段外面との接合付近では、三角板頂点の上に被さるようにして綴じ紐が固されているのに対し、真下の地板第2段との接合箇所では三角板頂点で綴じ紐が地板の下に入り込んでいることから、地板第1段→胴巻板→地板第2段→伏板、の順に綴じられていたものと推定できる。

地板第2段

後頭部から右側頭部にかけた付近、衝角部から右側頭部にかけた付近が欠損する。地板は三角形で、後頭部を中央にして逆位の三角形地板を1枚配し、その左右は4枚づつ上下交互に計9枚で構成される。高さ3.8cmを測る。内面の綴じ方は、残存箇所から、斜辺のみで結合を完結させており、いずれも下から上に向かって革綴じされている。

腰巻板

衝角部側、左側頭部の大半、後頭部の大半を欠損している。幅2.8cmを測る。内面の綴じ方は、左右とも衝角部側から結合されており、地板第2段後頭部の頂点で終了している。地板第2段の左側は、衝角部との接合箇所手前から綴じ始められており、一部に三角板頂点を乗り越えて紐が延びている。

衝角底板

残存していない。

竪眉庇

その大半を欠失するが、一部が残存し、右端に配置して弧状に復原されている。胄本体との結合構造は、上部外側に抉り込みが認められるが、衝角底板が残存しないため不明である。下端は外側へ向かって丸くおさめている。なお、破片の114は、復原部品と同様に下端を外側へ向かって丸くおさめる構造を持つことから竪眉庇と判断した。小破片だが左右に弧状でなく直状に伸びていることから、竪眉庇は正面が直線的になり、全体では台形様になると推定できる。よって、復原された状態とはやや違った状況となろう。

ウ 短甲(第5~8・17図)

上半身を保護するもので、横長鉄板を革紐で綴じ合わせて全形を構成する長方板革綴短甲である。この復原に際しては、滝沢論文の詳細な観察結果を基とし、全体形状は石川県羽咋市に所在する芝垣円山古墳出土の短甲を参考として修復されている。復原された現状の各計測値は、全高が前胴で33.7cm、後胴で42.5cm、左右幅は後胴押付板で45.0cm、腰で31.2cm、裾で37.6cm、前後幅は脇で22.0cm、腰で23.0cm、裾で32.0cmを測る。欠損した地板が多く内面革紐の残存状態も悪いが、前後とも短甲に特徴的な押付板はよく残る。以下、脇のつなぎ目を境に前胴と後胴に分け、各構造部位毎に詳述する。

前胴

復原は、竪上2段、長側4段の6段構成をとる。左前胴は、引合板の上下端と竪上第2段の一部を除いて大半が欠損する。右前胴は、長側第3段を除いておおむね全段が残存しているため、各段の配述は断りのない限り右前胴に基づいている。

引合板

右前胴は、上から下までほぼ完存する。計測値は、最大値で長さ33.7cm、上端幅4.0cm、下端幅4.5cmを測る。隅は丸くおさめており、下部はややや幅広につくられている。上下端の孔に革紐が残存する。左前胴で復原されている部品は、各段との結合も不明瞭であり、引合板ではない可能性もある。また現状で、左前胴合わせになっているが、左前胴長側第3段の地板が変形していることによる歪みで、本来の状態を示していない。

竪上第1段:押付板

おおむね右前胴はほぼ完存する。外面上下幅6.7cm、上端左右幅10cmを測る。縁から1.5cmの箇所に覆輪孔列が開口するが、内外面とも革紐が残存しない。脇の抉りは大きくとられており、前後で径11cm、上下で深さ10cmの弧状を呈している。

竪上第2段:地板

左右とも残存しない。

長側第1段:地板

外面側、竪上第2段との結合箇所付近は比較的よく残っている。外面上下幅6.7cmを測る。竪上第2段との結合に3孔あり、竪上第2段の上から綴じつけられている。また、左脇が残存し、脇との結合に2孔が認められる。

長側第2段:帯金

外面に近い箇所で復原されている。内面のほとんどは観察できない。外面上下幅4.0cmを測る。長側第1段側に2孔が確認できる。

長側第3段:地板

右前胴側は残存せず左前胴が残存するが、遺存状態は悪く、革紐は確認できなかった。内面上下幅6.0cmを測る。

外面長側第2段に近い箇所に1孔と長側第4段側に2孔が確認できる。

長側第4段：裾板

革組覆輪が一部残存するが、遺存状態は悪い。外面上下幅5.5cmを測る。後胴裾板との結合は、上縁から1cmの箇所に1孔が確認できるが、前後を結合する目的の孔は残存状況からこの1孔のみで、全体構造としては覆輪で固定していた可能性が高い。

後胴

復原は竪上3段、長側4段の7段構成をとる。押付板・竪上第2段・裾板はおおむね遺存するものの、他の部材は背面中央を除いてほとんど欠損している。したがって、前後胴を結合する構造は不明であるため、各段の記述は断りのない限り背面中央に基づいている。

竪上第1段：押付板

ほぼ完存し、特に右脇内面の革組覆輪は比較的よく残っている。背面外面上下幅9.0cmを測る。縁から1.5cmに覆輪孔列が開口する。

竪上第2段：地板

竪上第2段を構成する3枚全てが残存する。各計測値は、背面外面上下幅6.2cm、内面上下幅8.0cmを測る。左右で形状が異なる鉄板が使用されており、左の1枚はコーナーの角が残され、台形に近い形状をしているのに対して、右の1枚は丸みを帯びた半月形をしている。内面革紐の残存は悪いが、上縁は右と左で綴じの方向が異なり、左右とも中央に向かって綴じつけられている。地板同士の綴じと、押付板との結合の関係は不明瞭である。なお、レントゲンから左側地板の右上隅近くと右側地板の左上隅近くに、地板の結合と関係しないとみられる穿孔があることから、これがワタガミ懸緒孔と考えられる。

竪上第3段：帯金

残存しない。

長側第1段：地板

中央の1枚と右脇上部が残存する。左脇は前後胴結合箇所に近い部位が残存する。外面の革紐はほとんど欠失しているが、内面は一部に痕跡が残されている。計測値は、外面上下幅5.8cm、内面上下幅7.1cmを測る。綴じの方向は、背面側では上下とも左から右だが、脇では背面から脇に向かって綴じられており、逆向きである。したがって、後胴背面→右脇長側第1段→右前押付板→右前竪上第2段の順に結合されたと考えられる。

長側第2段：帯金

背面中央付近の一部のみが残存する。外面の5箇所に革紐痕が認められる。外面上下幅5.0cmを測る。

長側第3段：地板

背面の3枚が残存するが、遺存状態は悪い。各計測値は、外面上下幅5.2cm、内面上下幅6.2cmを測る。長側第2段との結合方向は、左から右である。

長側第4段：裾板

ほぼ完存するが、革組覆輪より下は欠損する。外面上下幅6.5cmを測る。左右とも前胴との結合用の孔が認められないが、欠損箇所にあった可能性がある。

エ　頸甲（第12・13図）

短甲より上の胸背から頸を防護するためのもので、左右の打ち延ばした板金と前後の引合板の計4枚を革紐で綴じ合わせる革綴打延の甲である。板金のうち、左は背側の破片、右は胸側と肩～背側の破片のみ残る。引合板とみられる破片はあるが、胸側か背側かも含めて断定できない。肩甲は、現状で残された破片中にそれらしいものはみられない。遺存状況が悪いため以下、胸背左右を分けて記述する。なお、胸側の全体形を知ることはできないが、左背が比較的良好に残存するため、頸部から肩までの最短幅値を除いて、この計測値を基本として推定できる。

左板金：胸側

確実なものはない。（第1表の備考欄を参照）

左板金：背側（第12・13図R229）

背側は比較的良好に残存するが、肩の部分は欠損する。計測値は、最大値で高さ12.5cm、背幅8.8cmを測る。打ち延ばして形成された頸部は立ち上がり1cmで、半径5.5cmの弧状をなす。外面に、左右を結合する革紐が残存するが一部であるため、結合方法は不明である。また、右下部に2孔が開口する。位置からすると肩甲を結合する孔と考えられる。

右板金：胸側（第12図R231）

胸幅8.8cmを測る。革紐は付着していない。頸部の大半は残っておらず、立ち上がりは高さ0.8cm程で、ほぼ直角に近い角度で立ち上がる。これについては、復原展開図では図示していない。なお、019と157が左右胸側のいずれかの下部分にあたる破片と考えられる。

右板金：背側（第12・13図R228）

肩付近が比較的よく残る。頸部から肩までの最短幅は3.5cmを測る。左の肩部に2孔が認められ革紐が残存している。位置からすると肩甲を結合する革紐である。なお、この部位は本再整理での接合作業によって、報告書当時の原形にまで復原できたものである。

引合板

確実なものはない。（第1表の備考欄を参照）

参考文献
小林謙一 1974「甲冑製作技術の変遷と工人の系統（上）・（下）」『考古学研究』第20巻4号p48～68・第21巻2号 p37～49
吉谷　毅 1996「古墳時代甲冑研究の方法と課題」『考古学雑誌』第84巻第4号 p58～483

オ　鉾（第9図234）

古墳発見時の採集遺物で出土位置は不明である。鉾身部は鉾先および関にかけての刃部を、穂袋は端部を欠いている。各計測値は現状で、全長28.8cm、鉾身部は長さ11.5cm、幅は最大値で3.0cm、厚さ1.5cmであり、袋部は長さ17.3cm、袋の径は最大で約2.6cm、厚さ0.3cmを測る。鉾身部は狭鋒、断面菱形の鍛造りである。片方を欠いているが有関で、袋部は断面円形の円筒袋である。袋端部は、鉾身鎬の軸上に添うかたちで二角状に切り込まれる山形挟である。袋端部から1.5cmの箇所に直径0.6cmの目釘穴がある。目釘白体は残っていない。袋内部を含めて木質等の有機物も観察されなかった。

カ　刀（第9図281）

古墳発見時の採集遺物で出土位置は不明である。本古墳では唯一の刀である。柄頭・鐔などの刀装具は残存していない。表面はかなり剥離しており、鋒先および大きく刃部を欠く。計測値は現状で、全長102.0cm、刃部は長さ83.4cm、幅は最大値で3.0cm、厚さ0.8cmを測る。刀棟は大刀に分類されるもので、平造りである。形状は、鋒先からふくらが張った刃となり、刃部の2/3辺りから刃部側へ湾曲し始める。湾曲は、関を境に更に強く刃側へ反っている。関は片関で、現状では斜角とも撫角ともとれるが、報告書の写真図版から判断し斜角とする。関部は長さ1.2cmを測り、刃がある。茎は関から茎尻にかけてやや幅

を減じる中細で、茎尻の形状も、丸みを持つことから面取りした隅切尻である。茎の計測数値は、長さ17.4cm、幅2.5cm、厚さ0.9cmを測る。目釘穴は2箇所あり、茎尻から3.3cmの箇所に直径0.3cmの穴、8.5cmの箇所に直径0.4cmの穴がある。目釘孔は残存していない。茎部には有機物の付着がある。材質は同定できないが、木質ではなく布の類とみられる。

キ 剣(第9・10図)

古墳発見時に採取されたもの4本と、発掘調査で出土した1本の計5本がある。大きいものから順に評述する。

剣(第9図282)

古墳発見時の採集遺物で出土位置は不明である。剣身は、鋒先から中程まで表面が剥離し刃部もかなりの部分を欠く。特に茎尻付近は、表裏剥落のため樹脂で補填されており不明な点が多い。計測値は、全長66.4cm、剣身の長さ53.0cm、茎の長さ13.4cmを測る。大振りの鉄剣である。剣身は平造りであり、幅3.4cm、厚さ0.8cmである。関は茎との境が不明瞭な両関撫角である。茎は幅2.4cm、厚さ0.9cmで、茎尻へ向かうほどやや細くなる中細である。報告書の写真図版でみると完形品とみられるが、保存処置前のレントゲンでは茎は目釘穴と茎尻の間で折損した状態で撮影されている。修復作業により接合され欠損部分は補填・復原している。そのため茎の形状は湾曲しているように見えるが、本来の形状は、写真図版からみて関から真直ぐ茎尻へ伸びる。茎尻は、明瞭でないが斜めに切断されているとみられる。目釘穴は1箇所で、茎尻から7.9cmの箇所に直径0.4cmの穴がある。目釘白体は残存していない。茎部の片面には有機物の付着があり、柄の木質の一部が残存したものと推定される。

剣(第9図R236)

古墳発見時の採集遺物で出土位置は不明である。剣身は鋒先から残存しているが、関と その付近にかけての刃部を欠く。茎は茎尻を欠き、形状は知り得ない。計測数値は現状で、全長60.2cm、剣身の長さ46.9cm、茎の長さ13.3cmを測る。剣身は平造りであり、幅3.0cm、厚さ0.8cmである。関は茎との境が不明瞭な両関撫角である。茎部は最大値で幅2.3cm、最小値で幅1.3cm、厚さ0.8cmを測り、茎尻へ向かうほど細くなる。茎は、関から真直ぐ茎尻へ伸びる。目釘穴は2箇所で、茎尻から7.5cmの箇所に直径0.3cmの穴、2.6cmの箇所に直径0.3cmの穴がある。有機物の付着は、剣身の両面と茎部の片面にみられるこれはどちらも木質で、剣身は鞘の一部が、茎は柄の一部が残存したものと推定される。特に、茎に残存している木質の関側端部は、関との境に位置し、直線的であることから柄端部の形状を保持していると推定される。

剣(第10図239)

古墳発見時の採集遺物で出土位置は不明である。剣身は鋒先から刃部の一部を欠く。茎はその大半を欠き、茎形状や茎尻の形状は知り得ない。計測数値は現状で、全長56.8cm、剣身の長さ50.0cm、茎の長さ6.8cmを測る。剣身は両丸造りであり、幅3.0cm、厚さ0.6cmを測る。関は茎との境が不明瞭な両関撫角である。茎は最大値で幅3.0cm、最小値で幅2.0cm、厚さ1.0cmで、茎尻へ向かうほどやや細くなる中細と推定される。目釘穴は残存していない。有機物の付着は、剣身の両面と茎の片面にみられる。剣身は鞘の一部が、茎は柄の一部が残存したものと推定される。茎の関側端部に残存している木質は、関との境付近に位置し直線的であることから柄端部の形状を保持していると推定される。なお、関に幅1.0cm～1.5cmを測るほぼ身を一周する不明付着物があり、材質の同定が必要である。これは、付着位置からすれば剣装具の一部が遺存しているものと考えられる。

剣(第10図238)

唯一、発掘調査で出土した剣である。(第2図)出土位置は、副室の炭黄色粘土中より金銅製天冠と共に出土している。詳細は報告書を参照されたい。全体としては良く残っているが、茎尻を欠くとみられるため、その形状は知り得ない。各計測数値は現状で、全長44.8cm、剣身の長さ33.5cm、茎の長さ11.3cmを測る。剣身は両丸造りであり、幅3.0cm、厚さ0.6cmである。関は両関で、茎との境が直角に抉れ、幅3.2cmを測る。茎は最大値で幅2.6cm、最小値で幅1.9cm、厚さ0.6cmで、茎尻へ向かうほどやや細くなる中細と推定される。目釘穴は2箇所ある。茎尻から計測し、1.8cmの箇所に直径0.4cmの開口した穴と、7.3cmの箇所に約0.6cmの穴跡をレントゲン写真から確認した。有機物の付着は、剣身と茎の両面にみられる。剣身は鞘の一部が、茎は柄の一部が残存したものと推定される。剣身に残存している木質の関側端部は、関との境付近に位置し、直線的であることから鞘端部の形状を保持していると推定される。

剣(第10図235)

古墳発見時の採集遺物で出土位置は不明である。剣身は鋒先から関まで良く残るが、茎はその大半を欠くようにもみえるが、現状でおさめられた茎尻とも推定でき判然としない。計測数値は現状で、全長26.8cm、剣身の長さ23.5cm、茎の長さ3.3cmを測る。器種を確定する上で問題となるのが、明らかに大きさが小さい点にある。大きさから、槍先の可能性が高いと考えられるが、報告書に従い剣としておく。剣身は両丸造りであり、幅2.0cm、厚さ0.5cmである。関は有機物が付着し肉眼での観察は難しいが、レントゲン写真との検討から、両関撫角である。茎は最大値で幅2.0cm、厚さ0.5cmで、茎尻へ向かうほどやや細くなる中細と推定される。目釘穴は確認できないが、茎尻まで残っているとみれば目釘穴がない点が注意される。有機物の付着は、茎の両面にのみあり、柄の一部が残存したものであろう。残存している木質の関側端部は、関との境付近に位置し、直線的であることから柄端部の形状を保持していると推定される。

ク 鏃(第12・13図169・171・240・244・247・R250・251・254・256・257・260・261・263・264・265・R266・271・272・274・275・287・288・298・368・369・375・376・379・383・384・385)

全て古墳発見時の採集遺物で出土位置は不明である。全て欠損所があり、完形個体はない。報告書では5個体、滝沢論文では3個体が掲載されている。経年の劣化が著しく、その多くが接合作業も困難なほど細片となり、保存処置を経ていることから観察結果に違いがある。

まず、報告書と滝沢論文で掲載された個体の対応関係については、前述の状況から照合できたものは滝沢論文実測図の形状や長さ等から判断して報告書の第8図1と滝沢論文の第7図1が対応する個体である可能性が極めて高い。それ以外は不明である。なお、この個体が240に相当するとみられる。報告書と本再整理で付した個体管理番号との対応関係はこれ以外は確定できない。滝沢論文との対応関係は、残る滝沢論文第7図2が385、滝沢論文第7図3が275と考えられる。385の平面形状は、本実測図での表面だけが残存し、裏面となる箇所は刺離し、断面形状等を失っている。275は滝沢論文の再実測当時の形状を保っている。このような状況から、特に滝沢論文での記述が重要と考えられるため、以下に引用する。

滝沢論文(28頁14～20行)

「鉄鏃はいずれも両丸造、両刃式の長頸鏃で、関筈被を有するものと思われる。銹化のために不明瞭ではあるが、鏃身部は関を有さず緩やかに頸部に移行するものとみられる。長頸鏃は中期後半以降急速に普及する鉄鏃だが、本古墳例の場合、鏃身部の形態と片刃式の不在を重視すれば、そ

の年代は中期後半でも著しく時期の下降するものとはなるまい。」

本再整理の結果でも滝沢氏が指摘した通り、樺葉系長頸鏃で占められ、片刃式はないものと判断される。

現状で鏃身の造りを確認できるのは6点あり、256・275が両丸造、271は片丸造、240・R250・385が片鎬造とみられる。なお、240は滝沢論文では両丸造とされていたが、保存処置の結果で明らかになったものか、照合が間違っているか判断がつかない。また関については推定すると留められているが、保存処置の結果から関を有しているとみて良い。鏃身部と関部の間にあたる篦被部の長さは11.2cmを測る。

参考資料(第15図)

なお、國學院大學日本文化研究所所蔵の大場磐雄資料に、報告書の実測図や写真に掲載されていない、桜ケ丘古墳出土と記録された鉄鏃の写真がある。(大場写真資料番号3584　桜ケ丘古墳出土品鉄鏃　昭和30年8月31日)

この鉄鏃については東京文化財研究所に保管されている遺物実測図(複写)のなかに確認することができた。これらの鉄鏃は妙義山古墳群の出土品と誤認したため報告書に掲載されなかった可能性も考えられるので、妙義山古墳群の鉄鏃と照合してみたが一致する個体を確認することはできなかった。そこで、今回これらを桜ケ丘古墳出土の参考資料として提示することとした。

全て長頸鏃とみられ、本古墳の資料としてみても現状の見解に変更はないものと考えられる。

(2) 石製遺物(第14図)

全て玉類である。発掘調査により原位置を保って出土したものはない。現状での個体数は、勾玉2点、臼玉5点である。報告書では勾玉1点が掲載されているが、昭和63(1988)年の市重要文化財指定の段階では、勾玉2点とあり点数が増えている。これは文化財指定の調査以前の段階で、本古墳以外の勾玉が混入してしまったためと考えられる。よって、この勾玉は本整理に際し個体管理番号は与えず、桜ケ丘古墳の遺物総数から除外した。ただし、実測図は掲載することとした。

ア　勾玉(第14図L1)

石材は瑪瑙製で飴色をし、全長は35.4mm、重量9.5gである。形状は、丸い頭部から尾部に向かってC字状に細くなる。全体に研磨され、その両出部の内側は幾分湾曲が強調されて整形されたものとみられる。表面には一部に素材段階とみられる窪みが研磨されずに残された箇所がある。この痕跡が、報告書の写真図版と國學院大學の大場磐雄写真資料で確認できたことから、本資料が本古墳で採取された勾玉と特定した。

イ　臼玉(第14図L2～L6)

石材は滑石製である。計5点で、いずれの重量も0.1gに満たない。報告書掲載の実測図との対照は不明である。

(3) ガラス製遺物(第14図)

全て玉類である。発掘調査により原位置を保って出土したものはない。現状での個体数は、丸玉9点と小玉32点である。うち小玉については、報告書36真の文・表中では黄色2点・淡青色33点の計35点、実測図では34点が図示されている。また、報告書の写真図版第6では1連32点の小玉が掲載されており、報告書の中で点数に異同がある。なお、昭和63(1988)年の市重要文化財指定の段階では小玉35点とあり、文中の点数と同じにしている。報告書の写真図版と大場磐雄写真資料は、モノクロ写真で色を特定することはできないが、糸を通した1連で撮影されており、現在保管されている小玉の点数と一致することから写真図版の小玉が現在の小玉であると考えられる。報告書掲載の実測図との対照は不明である。

ア　丸玉(第14図G01～G09)

計9点あり、全て色調はコバルトブルーである。気泡列の観察から製作技法は、管切り法とみられる。G3には剥離痕がみられるが、風化の具合から製作工程でできた痕跡ではなく、後に生じた衝撃による剥離痕とみられる。

イ　小玉(第14図G10～G41)

計32点あり、全て色調は、スカイブルーである。丸玉同様に、気泡列の観察から製作技法は管切り法とみられる。報告書に記載されている黄色小玉については、現在確認できないことと、また報告書の点数に異同があり、記録に確証が得られないため不明とし、本古墳の遺物から除外した。ただし、淡青色と黄色を誤認することは考えにくく、本来あった可能性の高いことを付記しておく。

6　総括

(1) 遺物総点数

発掘調査により出土位置の明らかなものを「発掘遺物」とし、古墳発見時の採取及び発掘調査中の拾遺」に中採取遺物を「採取遺物」として分けて明らかにし、その総数を確定する。ただし、武具の数に変更はないが、破片は今後に異同や再保存処置によって変更もあろうことから破片として数えた。

ア　発掘遺物点数

装身具類:金銅製天冠1、竪櫛1(冠付着)、布1(冠付着)
武　器　類:剣1

イ　採取遺物点数

装身具類:瑪瑙製勾玉1、滑石製臼玉5、ガラス製丸玉9、ガラス製小玉32
武　器　類:直刀1、剣4、鉾1、鏃31(身部6、篦被17、茎8)
武　具　類:三角板革綴衝角付冑1、長方板革綴短甲1、革綴頸甲1、武具類破片75(＊同一袋内小破片を含まない数)
武器・武具類破片:132(＊同一袋内小破片を含まない数)

ウ　遺物総点数

装身具類:金銅製天冠1、竪櫛1(冠付着)、布1(冠付着)
勾玉1、臼玉5、ガラス丸玉9、ガラス小玉32
武　器　類:直刀1、剣5、鉾1、鏃31(身部6、篦被17、茎8)
武　具　類:三角板革綴衝角付冑1、長方板革綴短甲1、革綴頸甲1、武具類破片75(＊同一袋内小破片を含まない数)
武器・武具類破片:132(＊同一袋内小破片を含まない数)

(2) 遺物について

冠は、毛利光俊彦氏によれば、日本国内の古墳で50基、64例が数えられ、うち鉢巻式帯冠は、本古墳例を含め20例が確認されている。立飾の形状から区分し、本古墳例はVIII+II類の宝珠文A1種・鳥羽形立飾B種付とされ、伽那とのつながりで出現し、5世紀後半から6世紀前半とされる。同類には佐賀県潮見古墳出土金銅製帯冠がある。

武具のうち、三角板革綴衝角付冑は管見で全国に28例、長方板革綴短甲は35例がある。うち本古墳と同様な供伴関係で出土している古墳はわずか7例である。県内では、革綴式の甲冑の分布は、北・中信に限られており、本例を含め7例が確認されている。

全国でも復原された革綴式の甲冑資料は多くない。本例の三角板革綴衝角付冑は比較的残りも良く貴重で、県内での出土例は唯一である。長方板革綴短甲は、県内では中野市の七瀬双子塚古墳と本古墳の2例である。これも県内では復原されたものの唯一である。やや遺失した部分が多く不明な部位もあるが、全体形が推定できる貴重な資料である。これら甲冑の年代は、その特徴から古墳時代中期前半頃とみられる。

I:記以外の遺物には、鉾・刀・剣・鏃・玉類があるが、剣の多さ等に古墳時代前期的な古い様相がみえる。鏃は長頸鏃であり、その特徴から逆にやや新しく古墳時代中期後半頃の5世紀後半とみられる。

なお、今回新たにみつかった鏃の追加資料は、長頸鏃であることは間違いなく、その年代は5世紀後半とみられ、滝沢論文で位置づけられた古墳の年代観をさらに補強するものと考えられる。

(3) まとめ

最後に、本古墳の問題を提起してまとめとする。

その前に、滝沢論文の再測量成果を基本とし本古墳の規模等について再確認する。また、主体部については報告書で確認する。なお、主体部の計測値は調査報告部分と考察部分で値が違うため最小値～最大値で記述する。

立地は、比高差約40mの標高678m付近を測る尾根の先端にある。

第1表　遺物一覧

ID	種別(現位置等)	実測図	報告書	現状法量	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	形状比	形状	穿孔	年代	年代観	備考
001	金銅鈴(不明)	掲載	35巻5図1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	南麓から出土　製鞴(003)・石(004)が付着
002	冷飯型天秤(銅行)	未作成	35巻5図2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保管場所不明
003	鞴	掲載	36巻6図1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	大型(001)に付着
004	石	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	天付(001)に付着
005	須甲(後側壁上第2段:押付板)	掲載	39巻98図2	22巻41図5	-	-	-	-	-	-	R005	○	○	-
006	須甲(後側壁上第1段:押付板)	掲載	39巻98図2	22巻41図5	-	-	-	-	-	-	R005	○	○	-
007	須甲(後側壁上第1段:押付板)	掲載	39巻98図2	22巻41図5	-	-	-	-	-	-	R005	○	○	-
008	須甲(後側壁上第1段:押付板)	掲載	39巻98図2	22巻41図5	-	-	-	-	-	-	R005	○	○	-
009	須甲(後側壁上第1段:押付板)	掲載	39巻98図2	22巻41図5	-	-	-	-	-	-	R005	○	○	-
010	須甲(後側壁上第2段:地板)	掲載	-	22巻41図5	-	-	-	-	-	-	-	○	○	北天部付近東側面の北端部付
011	須甲(後側壁下第2段:地板)	掲載	39巻98図3	22巻41図5	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
012	須甲(左前側壁前部第1段:地板)	掲載	39巻98図10	-	-	-	-	-	-	-	R012	○	○	-
013	須甲(右前側壁上第1段:押付板)	掲載	39巻98図5	-	-	-	-	-	-	-	R013	○	○	-
014	須甲(後側壁下第4段:腰板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-
015	須甲(右前側引台板)	掲載	39巻98図12	22巻41図9	-	-	-	-	-	-	R015	○	○	-
016	須甲(右前側引台板)	掲載	39巻98図29	22巻41図13	-	-	-	-	-	-	R015	○	○	-
017	須甲(右前側引台板)	掲載	39巻98図34	22巻41図13	-	-	-	-	-	-	R015	○	○	-
018	須甲(後側壁長側面2段:神分)	掲載	39巻98図26	22巻41図8	-	-	-	-	-	-	R018	○	○	-
019	武具類(不明)	掲載	39巻98図30	-	7.3	3.4	0.3	33.7	2:11	板状	-	-	-	横甲板金具関係?
020	須甲(右前側壁側面2段:神分)	掲載	39巻98図31	22巻41図11	-	-	-	-	-	-	R020	○	○	小形鉄棒1点が付着
021	須甲(右前側引台板)	掲載	-	22巻41図10	-	-	-	-	-	-	R015	○	○	-
022	須甲(後側壁長側面3段:地板)	掲載	39巻98図11	23巻5図19	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
023	須甲(後側壁長側面1段:地板)	掲載	39巻98図12	23巻5図14	-	-	-	-	-	-	R023	○	○	-
024	須甲(前方上側面1段:地板)	掲載	39巻98図9	23巻5図21	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
025	須甲(右前側壁上第1段:押付板)	掲載	39巻98図3	22巻41図4	-	-	-	-	-	-	R013	○	○	-
026	須甲(右前側壁下第1段:押付板)	掲載	39巻98図3	22巻41図3	-	-	-	-	-	-	R013	○	○	-
027	須甲(右前側壁上第1段:押付板)	掲載	39巻98図3	22巻41図2	-	-	-	-	-	-	R013	○	○	-
028	須甲(左前側引台板)	掲載	39巻98図13	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
029	須甲(右前側引台板)	掲載	39巻98図5	22巻41図1	-	-	-	-	-	-	R015	○	○	-
030	須甲(後側長側面3段:地板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R030	○	○	-
031	須甲(後側壁上側面1段:地板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R023	○	○	-
032	須甲(後側長側面2段:神分)	掲載	39巻98図36	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
033	須甲(後側壁下第2段:地板)	掲載	39巻98図20	23巻5図18	-	-	-	-	-	-	R033	○	○	-
034	須甲(右前側長側面1段:地板)	掲載	39巻98図21	23巻5図16	-	-	-	-	-	-	R034	○	○	-
035	須甲(後側上側面3段:地板)	掲載	39巻98図24	23巻5図15	-	-	-	-	-	-	R030	○	○	-
036	須甲(後側長側面3段:地板)	掲載	39巻98図14	23巻5図17	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
037	須甲(右前側引台板)	掲載	39巻98図27	22巻41図7	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
038	須甲(右前壁長側面1段:地板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R034	○	○	-
039	須甲(後側光側面4段:腰板)	掲載	39巻98図18	23巻5図25	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-
040	須甲(後側長側面4段:腰板)	掲載	39巻98図23	23巻5図20	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-
041	須甲(後側光側面4段:腰板)	掲載	39巻98図13	23巻5図23	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-
042	須甲(左前側長側面3段:地板)	掲載	39巻98図4	23巻5図22	-	-	-	-	-	-	R042	○	○	-
043	須甲(右前側側面3段:地板)	掲載	39巻98図4	23巻5図22	-	-	-	-	-	-	R042	○	○	-
044	須甲(後側長側面4段:腰板)	掲載	39巻98図17	23巻5図24	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-
045	須甲(右前側引側面4段:腰板)	掲載	39巻98図18	23巻5図25	-	-	-	-	-	-	R045	○	○	-
046	須甲(後側長側面4段:腰板)	掲載	-	23巻5図27	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-
047	須甲(後側第1段～腰部板:金具)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R047	○	○	-
048	須甲(後側第1段～腰板部板:飾金)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R048	○	○	-
049	武具類(不明)	掲載	-	-	4.3	3.7	0.4	9.5	1:9	板状	-	-	-	-
050	武具類(不明)	掲載	-	-	8.4	3.5	0.3	9.7	1:7	板状	-	○	-	-
051	武具類(不明)	掲載	-	-	3.6	2.8	0.4	5.5	1:7	板状	-	-	-	-
052	須甲(右前側引台側第4段:腰板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R045	○	○	-
053	須甲(後側第1段～腰部板:金具)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R047	○	○	-
054	武具類(不明)	掲載	-	-	2.8	1.4	0.1	1.2	2:11	板状	-	-	○	-
055	武具類(不明)	掲載	-	-	4.1	3.7	0.3	7.9	1:14	板状	-	○	○	-
056	須甲(後側第1段～腰部板:金具)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R047	○	○	-
057	武具類(不明)	掲載	-	-	3.3	3.0	0.3	5.0	1:11	板状	-	○	-	-
058	武具類(不明)	掲載	-	-	2.1	1.9	0.3	1.6	1:7	板状	-	-	-	-
059	武具類(不明)	掲載	-	-	3.5	3.5	0.3	3.5	1:12	板状	-	-	-	-
060	須甲(右前側引台板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R015	○	○	-
061	武具類(不明)	掲載	-	-	3.0	2.9	0.2	4.0	1:15	板状	-	-	-	-
062	須甲(後側上側面4段:腰板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-
063	武具・武具類(不明)	未掲載	-	-	1.8	1.8	0.3	1.0	1:5	板状	-	-	-	-
064	須甲(後側壁下第2段:地板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R033	○	○	-
065	須甲(左前側長側面3段:地板)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	-	R042	○	○	-
066	武具類(不明)	掲載	-	-	2.9	2.8	0.2	4.9	1:13	板状	-	-	-	-
067	武具類(不明)	掲載	-	-	3.5	2.0	0.2	3.2	2:9	板状	-	○	○	-

墳丘規模は、直径約30m、高さ約5mの円墳である。

主体部は、遺存が悪く判然としないが、竪穴式石室の系統であって、主室と副室に分かれる。主室の内法は、推定で長さ2.5m、幅1.2～1.3mを測る。副室は礫棺とされ、内法で長さ1.8～1.85m、幅約0.6mを測る。ここから、冠と剣1本が木質遺材を混有する灰黄色粘土に覆われて出土している。

本古墳の年代は5世紀後半とみられているが、既に述べたように、副葬遺物の年代にかなり幅が存在する。これについては、滝沢論文で指摘の通り、主室と副室の関係、構築方法や構造、埋葬方法など、墳形を含め再考する必要があろう。だが、副室での確実な供伴関係にある遺物は、唯一、冠と剣1本である。甲冑類を含まない点に主・副の問題を含め、本古墳の埋葬状況、年代、性格等を再考する上で非常に重要な問題であろう。

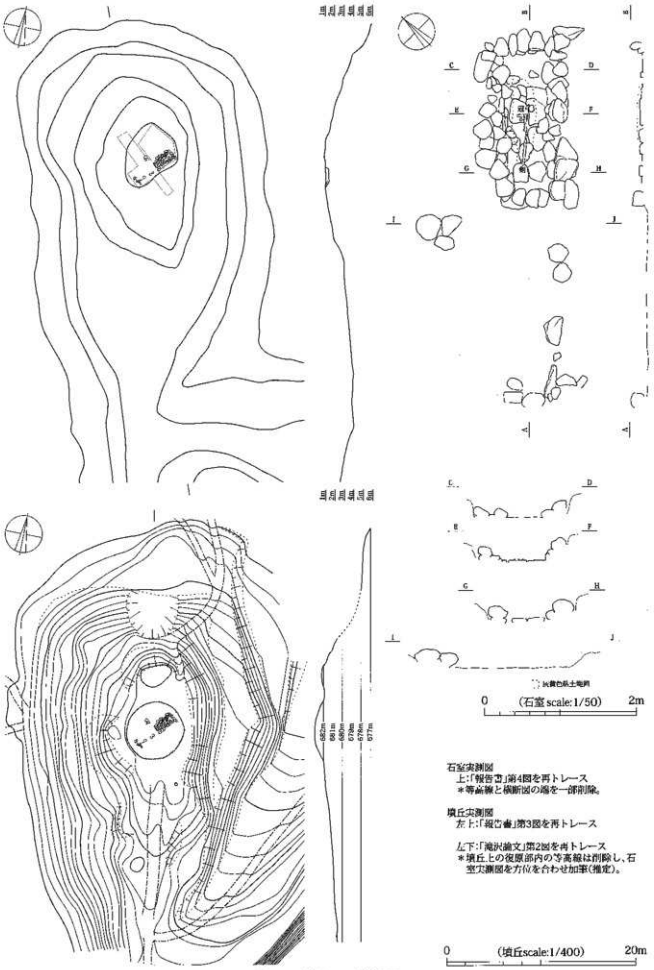
末筆ながら、記録類の調査にあたり、全面的にご協力いただいた諸機関・諸氏に対し、心から御礼申し上げます。

ID	遺跡(調査等)	遺構所	報告書	縄文設定	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	形状比	形状	縁辺形	穿孔	基部	未製品	備考
068	堅川(強調遺跡調査4段)-層転	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-	
069	青(地蔵原1段-一般発掘(上部)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R047	○	○	-	
070	堅川(強調遺跡調査2段)-包蔵	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R033	○	○	-	
071	青(地蔵原1段-一般発掘(強調)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R048	○	○	-	
072	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	3.5	3.3	0.2	2.1	1.18	板状	-	-	-	-	
073	堅(強調)(2)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R073	-	-	-	
074	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	3.1	2.1	0.3	4.4	1.48	板状	-	○	○	-	
075	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	4.4	2.6	0.3	6.5	2.9	板状	-	○	○	-	077と接続,堅川(左右)板並か　総重量10.9g
076	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	4.4	2.0	0.2	-	2.9	板状	-	-	-	-	076と接続,堅川(右)板か　総重量10.9g
077	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	3.5	2.9	0.2	-	1.19	板状	-	○	○	-	
078	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	3.2	2.9	0.3	3.6	1.11	板状	-	-	-	-	
079	堅甲(行政調査(強調4段)-包蔵	遺構	-	-	-	-	-	-	-	-	R045	○	○	-	
080	青(地蔵原1段(2)-層	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R080	○	○	-	R080が石不明(剥性)点が接合
081	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	2.9	2.5	0.2	4.5	1.13	板状	-	-	-	-	堅(?)合板か
082	堅甲(強調遺跡調査4段-層	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-	
083	堅甲(強調遺跡調査3段)-完全	遺構	-	-	-	-	-	-	-	-	R018	○	○	-	
084	青(地蔵原1段-一般発掘(大部)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R047	○	○	-	
085	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	3.0	2.9	0.2	3.4	1.12	板状	R085	-	○	-	強(?)合板か
086	青(地蔵原2段-一般発掘-与(原)	遺構	-	-	-	-	-	-	-	-	R068	○	○	-	
087	武(1段(小部)	包蔵	-	-	3.7	1.5	0.2	2.3	2.7	板状	-	-	-	-	
088	武蔵(第4段)	遺構	-	-	2.4	1.7	0.2	1.3	1.10	板状	-	○	-	-	
089	堅甲(強調遺跡調査4段)-強(敷)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R045	○	○	-	
090	武蔵(第4段)	遺構	-	-	3.4	3.0	0.3	5.0	1.11	板状	-	-	-	-	
091	武(1段(小部)	包蔵	-	-	3.6	2.9	0.3	5.4	1.11	板状	-	○	○	-	
092	武蔵(第4段)	遺構	-	-	4.6	3.0	0.3	6.6	1.6	板状	-	○	○	-	同一個内に他小破片1　総重量8.7g
093	武(2)-武(1段(小部)	表作成	-	-	0.9	0.7	0.1	0.1	1.5	板状	-	-	-	-	
094	武蔵(第4段)	遺構	-	-	3.6	2.2	0.2	4.0	2.9	板状	-	○	-	-	
095	武(1段(小部)	遺構	-	-	2.7	1.5	0.2	1.1	1.4	板状	-	-	-	-	
096	武蔵(第4段)	遺構	-	-	3.0	2.2	0.3	2.6	1.8	板状	-	-	-	-	
097	青(調査(前)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R097	○	○	-	
098	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
099	武(1段(小部)	包蔵	-	-	3.0	2.8	0.2	3.3	1.13	板状	-	-	-	-	
100	武蔵(第4段)	遺構	-	-	3.4	2.9	0.2	3.5	1.15	板状	R085	-	○	-	強(?)合板か
101	武(1段(小部)	包蔵	-	-	2.8	1.8	0.3	2.4	2.5	板状	-	-	○	-	同一個内に他小破片1　総重量2.5g
102	武蔵-武蔵(第(不明)	表作成	-	-	0.9	0.6	0.2	0.2	1.4	板状	-	-	-	-	
103	武(1段(小部)	包蔵	-	-	2.8	1.8	0.3	2.2	1.3	板状	R103	-	-	-	
104	武蔵(第4段)	遺構	-	-	2.7	2.5	0.2	3.1	1.12	板状	-	○	○	-	
105	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
106	武蔵-武(1段(小部)	表作成	-	-	1.8	1.1	0.6	1.0	1.1	略状	-	-	-	-	
107	武蔵(第4段)	包蔵	-	-	2.6	1.5	0.5	2.0	2.3	棒状	-	-	-	-	
108	武蔵(第4段)	遺構	-	-	2.3	1.6	0.2	1.3	1.8	板状	-	-	-	-	
109	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
110	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
111	堅甲(強調遺跡調査4段-包蔵	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R045	○	○	-	
112	武蔵(第4段)	遺構	-	-	2.4	1.5	0.2	1.1	1.3	板状	-	-	-	-	
113	武蔵-武蔵(第(不明)	表作成	-	-	2.1	1.3	0.1	0.6	1.6	板状	-	-	-	-	
114	青(調査(前)	遺構	-	-	2.9	2.4	0.2	2.7	1.10	角状	-	-	-	-	未製品(破片　同一個内に他小破片1　総重量2.5g
115	武蔵-武蔵(第(不明)	表作成	-	-	0.7	0.6	0.2	0.1	1.3	板状	-	-	-	-	
116	武(1段(小部)	包蔵	-	-	2.0	1.5	0.3	1.1	1.6	板状	-	-	-	-	
117	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	2.0	1.7	0.2	1.2	1.9	板状	-	-	-	-	
118	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
119	堅甲(行政調査(2)-包	遺構	-	-	-	-	-	-	-	-	R015	○	○	-	
120	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
121	武(1段(小部)	包蔵	-	-	1.6	1.5	0.2	1.1	1.7	板状	-	-	-	-	
122	武蔵-武蔵(第(不明)	未使用	-	-	2.3	0.9	0.2	0.9	2.5	板状	-	-	-	-	
123	青(地蔵原1段-一般発掘(大部)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R047	○	○	-	
124	青(調査(前)	遺構	-	-	-	-	-	-	-	-	R073	-	-	-	
125	武(1段(小部)	包蔵	-	-	2.1	1.4	0.3	1.9	2.5	板状	-	○	○	-	
126	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	3.4	2.1	0.2	2.3	1.6	板状	-	-	-	-	
127	武(1段(小部)	包蔵	-	-	2.4	2.0	0.2	1.8	1.9	角状	-	○	-	-	
128	武蔵-武蔵(第(不明)	未使用	-	-	1.8	1.2	0.1	0.8	1.10	板状	-	-	-	-	
129	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
130	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	3.5	2.1	0.2	2.2	1.9	板状	-	-	-	-	
131	堅甲(強調遺跡調査4段)-層転	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-	
132	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
133	武(1段(小部)	包蔵	-	-	2.9	1.3	0.2	1.2	1.3	板状	-	-	-	-	
134	堅甲(強調(2)-包蔵	遺構	39図版12	-	-	-	-	-	-	-	R023	○	○	-	
135	武(1段(小部)	包蔵	-	-	3.0	2.6	0.2	2.9	1.12	板状	-	-	-	-	
136	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	2.9	2.2	0.2	2.4	1.13	板状	R136	○	○	-	
137	武(1段(小部)	包蔵	-	-	1.2	1.3	0.2	0.5	1.6	板状	R136	○	○	-	
138	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	2.3	1.7	0.2	1.9	1.7	板状	-	-	-	-	
139	武蔵-武蔵(第(不明)	未使用	-	-	2.4	1.1	0.2	0.9	2.7	板状	-	-	-	-	
140	青(地蔵原2段-一般発掘(右部)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R089	○	○	-	
141	堅(地蔵原1段-一般発掘(強調)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R045	○	○	-	
142	組合不明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理記録中にあるが,組合不確
143	武蔵-武蔵(第(不明)	未使用	-	-	2.2	1.6	0.1	1.0	1.12	板状	-	-	-	-	
144	青(調査(前)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	
145	堅甲(強調遺跡調査4段-地蔵	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R034	○	○	-	
146	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	2.5	1.2	0.2	1.7	2.5	板状	-	-	-	-	
147	青(地蔵原1段-右部)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R080	○	○	-	R080が石不明(剥性)点が接合
148	武蔵(第4段)	遺構	-	-	2.8	2.0	0.5	3.2	1.4	板状	R103	-	-	-	
149	武(1段(小部)	包蔵	-	-	3.1	2.3	0.2	4.7	1.9	板状	-	-	-	-	
150	青(地蔵原1段-一般発掘(強調)	包蔵	-	-	-	-	-	-	-	-	R046	○	○	-	
151	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	2.4	1.6	0.2	1.5	1.4	板状	-	-	-	-	
152	武(1段(小部)	包蔵	-	-	3.3	3.0	0.2	2.7	1.14	板状	-	-	-	-	
153	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	2.2	1.9	0.2	2.5	1.9	板状	-	○	○	-	
154	武(1段(小部)	包蔵	-	-	2.9	2.6	0.2	1.8	1.14	角状	-	-	○	-	
155	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	2.8	2.6	0.3	2.8	1.10	板状	-	-	-	-	
156	武(1段(小部)	包蔵	-	-	3.0	2.3	0.4	5.1	1.5	板状	-	-	-	-	背面凹部か
157	武蔵(第(不明)	遺構	-	24図版8	6.5	4.4	0.3	16.7	1.15	板状	-	-	-	-	堅(?)金色無部か青銅か
158	武(1段(小部)	包蔵	-	-	3.5	3.0	0.2	3.1	1.20	板状	-	-	-	-	背孔か
159	武蔵(第(不明)	遺構	-	-	3.4	1.6	0.2	2.0	1.4	板状	-	-	-	-	
160	武(1段(小部)	包蔵	-	-	2.9	1.7	0.3	1.9	2.7	板状	-	-	-	-	

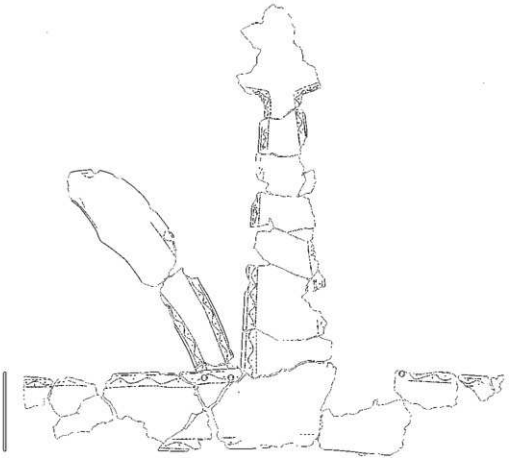
ID	種別(組成等)	実測値	報告書	実測値文	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	形状比	推定ID	穿孔	半環	未穿孔	備考
161	剥(側縁形/右側)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R161	○	○		
162	武器類(不明)	掻破	-	-	2.7	2.4	0.3	2.8	1.8	板状	-	-		
163	剥(赤平明破片	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		保存処理処理中にあるが、照合不能
164	武器類(不明)	掻破	-	-	2.7	2.2	0.3	2.5	1.9	板状	-	-		
165	武器類(不明)	掻破	-	-	3.9	1.8	0.3	4.5	2.7	板状	○	○	-	
166	剥(側縁/右側)+剥(側縁/背側)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R048	○	○	-	
167	剥(側縁)+剥(側縁/右側)	掻破	39百08115	21百3805	-	-	-	-	-	R086	○	○	-	
168	剥平(側縁/右側)+剥(側縁/左側)	掻破	39百9509	-	-	-	-	-	-	R168	○	○	-	
169	剥(側縁/一部欠)	掻破	-	-	7.3	0.9	0.6	5.2	4.1	棒状	-	-	○	
170	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
171	剥(側縁欠)	掻破	-	-	9.2	0.8	0.6	5.8	12.1	棒状	-	-	-	
172	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.8	0.4	0.3	0.1	2.4	棒状	-	-	-	同一袋内に他小破片6 総重量0.2g
173	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.6	0.2	0.2	0.1以下	4.1	棒状	-	-	-	
174	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.4	0.2	0.1	0.1以下	3.2	棒状	-	-	-	
175	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.5	0.1	0.1	0.1以下	3.2	棒状	-	-	-	
176	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.3	0.1	0.1	0.1以下	2.1	棒状	-	-	-	
177	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.3	0.1	0.1	0.1以下	1.1	棒状	-	-	-	
178	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.3	0.1	0.1	0.1以下	3.2	棒状	-	-	-	
179	剥平(側縁/平面1段)+剥(側縁)	掻破	39百0202	22百4309	-	-	-	-	-	R005	○	○	-	
180	剥平(小破/側縁上段)+剥(側縁)	掻破	39百9903	-	-	-	-	-	-	R013	○	○	-	
181	加平(小破/側縁上側面4段/側縁)	掻破	-	23百5202	-	-	-	-	-	R045	○	○	-	
182	剥平(全破/側縁側面1段/地図)	掻破	39百0309	-	-	-	-	-	-	R012	○	○	-	
183	剥(側縁/右側)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R161	○	○	-	
184	武器類(不明)	掻破	-	-	3.1	2.4	0.7	4.3	1.3	板状	R184	-	-	
185	武器類(不明)	掻破	-	-	3.2	2.8	0.5	4.8	1.6	板状	R184	-	-	
186	武器類(不明)	掻破	-	-	2.3	1.3	0.2	0.7	2.9	板状	R184	-	-	
187	剥(側縁)1段+装飾板/方側)	掻破	-	21百3827	-	-	-	-	-	R047	○	○	-	出入研保管実測図の未記載図
188	武器類(不明)	掻破	-	-	4.3	3.4	0.2	7.0	1.15	板状	-	-	-	
189	武器類(不明)	掻破	-	21百3803	5.8	3.1	0.2	10.7	2.13	板状	-	-	-	照明目出有か
190	武器類(不明)	掻破	-	-	4.4	2.9	0.2	8.7	2.13	板状	-	-	-	
191	武器類(不明)	掻破	-	-	3.2	2.4	0.3	2.2	1.10	板状	-	-	-	同一袋内に他小破片1 総重量2.2g
192	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.7	0.4	0.1	0.1以下	2.5	板状	-	-	-	
193	剥(側縁形/右側)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R080	○	○	-	R080中に小破(側縁)と接合
194	剥(側縁)1段+剥	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R080	○	○	-	R080中に不明破片1点と接合
195	武器類(不明)	掻破	-	-	5.3	2.6	0.2	5.4	2.11	板状	-	-	-	
196	剥(側縁2段+装飾板/方側)	掻破	39百9915	-	-	-	-	-	-	R086	○	○	-	
197	剥(側縁)1段+装飾板/表側)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R048	○	○	-	
198	剥(側縁)1段+装飾板/地図)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R048	○	○	-	
199	剥(側縁)1段+裏面板/左側)	掻破	-	21百3807	-	-	-	-	-	R047	○	○	-	
200	剥(伏板)	掻破	-	21百3801	-	-	-	-	-	R200	○	○	-	一周跡あり
201	剥(伏板)	掻破	39百0903	21百3805	-	-	-	-	-	R200	○	○	-	
202	剥(伏板)	掻破	39百9903	21百3802	-	-	-	-	-	R200	○	○	-	
203	剥(裏側板)	掻破	-	21百3804	-	-	-	-	-	-	○	○	-	
204	剥(伏板)	掻破	-	21百3803	-	-	-	-	-	R200	○	○	-	一周跡あり
205	剥(側縁)1段+裏面板(後側)	掻破	39百9904	21百3806	-	-	-	-	-	R048	○	○	-	
206	剥(伏板)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R200	○	○	-	一周跡あり
207	剥(側縁)1段+裏面板(左側)	掻破	-	21百3817	-	-	-	-	-	R047	○	○	-	
208	武器類(不明)	掻破	-	-	4.6	2.9	0.8	11.2	1.2	板状	-	-	-	同一袋内に他小破片2 総重量11.9g
209	武器-武具類(不明)	未処理	-	-	1.9	1.2	0.2	0.6	1.3	板状	-	-	-	
210	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.6	0.6	0.1	0.1以下	1.5	板状	-	-	-	
211	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.9	0.5	0.1	0.1以下	2.5	板状	-	-	-	
212	加平(側縁/長側面1段/地図)	掻破	39百9905	-	-	-	-	-	-	R168	○	○	-	
213	剥(側縁)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R097	○	○	-	
214	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
215	剥(伏板)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R200	○	○	-	三周跡あり
216	剥平(側縁/長側面4段/裏板)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-	
217	剥平(側縁/長側面4段/裏板)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R014	○	○	-	
218	武器類(不明)	掻破	-	-	4.3	3.2	0.4	9.3	1.8	板状	-	○	-	
219	武器類(不明)	掻破	-	-	3.3	3.1	0.4	5.8	1.9	板状	-	○	-	
220	剥平(側縁/長側面1段/地図)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R023	○	○	-	
221	剥(全不明破片)	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保存処理処理中にあるが、照合不能
222	武器類(不明)	掻破	-	-	4.5	2.5	0.3	5.2	1.5	板状	-	○	-	
223	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
224	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
225	武器類(不明)	掻破	-	-	3.9	3.1	0.4	5.1	1.9	板状	-	-	-	
226	加平(側縁/長側面4段/地図)	掻破	-	21百3903	-	-	-	-	-	R030	○	○	-	出入研保管実測図の未記載図
227	武器類(不明)	掻破	-	-	4.0	3.8	0.3	9.5	1.13	板状	-	○	-	
228	剥平(側金/右作図)	掻破	-	-	4.8	3.7	0.3	11.2	1.11	板状	R228	-	-	
229	剥平(側金/左側)	掻破	39百9837	24百6908	15.1	8.5	0.3	93.2	1.17	板状	R229	○	-	
230	剥平(側金/方作図)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	-	R229	○	-	
231	剥平(側金/右側)	掻破	-	24百6908	10.9	6.7	0.3	48.7	1.12	板状	R231	-	-	東文研保管実測図の未記載図
232	剥(側縁/第1段~装飾板/表側)	掻破	-	-	-	-	-	-	-	R048	○	○	-	
233	剥平(側金/右側)	掻破	-	24百6908	14.0	9.1	0.3	83.5	1.15	板状	R228	○	-	
234	例	掻破	37百7207	-	28.8	3.4	1.5	260.7	8.2	棒状	-	-	-	甘切穴
235	例	掻破	37百7906	-	26.8	2.0	0.5	70.7	13.4	棒状	-	-	○	根木質 穂先の可能性が高い
236	例	掻破	37百7904	-	60.2	5.0	0.8	367.2	5.1	棒状	R236	○	○	甘切穴 柄・柄木質
237	例	掻破	-	-	-	-	-	-	-	-	R236	○	○	甘切穴 柄・柄木質
238	例	掻破	37百7902	-	41.8	3.2	0.6	243.1	14.5	棒状	-	-	○	頭部から先端上位部穴 柄・柄木質
239	例	掻破	37百7905	-	56.8	3.0	1.0	342.8	18.5	棒状	-	-	○	柄・柄木質
240	鏃(身一茎)破	掻破	38百8801	28百7701	14.1	1.1	0.5	13.5	13.2	棒状	-	-	-	
241	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.5	0.4	0.2	0.1以下	1.3	板状	-	-	-	同一袋内に他小破片2 総重量0.1g
242	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.4	0.4	0.1	0.1以下	1.3	板状	-	-	-	
243	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	0.4	0.3	0.1	0.1以下	1.3	板状	-	-	-	
244	鏃(茎破)	掻破	-	-	7.7	0.7	0.9	7.7	11.1	棒状	-	-	-	
245	武器-武具類(不明)	掻破	-	-	2.4	0.7	0.4	1.3	3.2	棒状	-	-	-	同一袋内に他小破片1 総重量1.4g
246	武器-武具類(不明)	未作成	-	-	1.0	0.5	0.2	0.1	2.3	板状	-	-	-	
247	鏃(茎破)	掻破	-	-	7.1	0.8	0.9	7.1	9.1	棒状	-	-	-	
248	武器-武具類(不明)	掻破	-	-	4.3	1.1	0.2	1.8	4.7	板状	-	-	-	
249	武器-武具類(不明)	未処理	-	-	0.9	0.9	0.2	0.6	1.4	板状	-	-	-	
250	鏃(身一茎)破	掻破	-	-	11.8	1.2	0.7	13.7	5.1	棒状	R250	-	-	
251	鏃(茎破~破)	掻破	-	-	2.1	1.0	0.8	2.5	2.1	棒状	-	-	-	同一袋内に他小破片2 総重量2.8g
252	武器-武具類(不明)	未処理	-	-	1.4	0.5	0.3	0.3	3.2	板状	-	-	-	
253	武器-武具類(不明)	未処理	-	-	0.9	0.5	0.3	0.1	1.1	板状	-	-	-	

ID	種別(器種名)	実測図	個数番	遺存度	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	形状比	形状	穿孔ID	穿孔	写真	未実測	備考
254	鏃(茎部欠)	掲載	-	-	3.9	0.7	0.5	2.1	6:1	棒状	-	-	-	-	
255	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	1.4	0.7	0.4	0.8	1:1	板状	-	-	-	-	
256	鏃(身～茎破損)	掲載	-	-	10.9	1.1	0.8	13.1	10:1	棒状	-	-	-	-	
257	鏃(脚部～茎部)	掲載	-	-	8.0	0.8	0.7	8.7	12:1	棒状	-	-	-	-	
258	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	2.8	0.7	0.2	1.0	4:5	板状	-	-	-	-	
259	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
260	鏃(茎部欠)	掲載	-	-	3.7	0.7	0.6	2.1	6:1	棒状	-	-	-	-	
261	鏃(茎部)	掲載	-	-	2.4	0.5	0.4	1.1	4:1	棒状	-	-	-	○	木質でない可能性あり
262	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
263	鏃(茎部欠)	掲載	-	-	5.2	0.8	0.6	6.2	6:1	棒状	-	-	-	-	
264	鏃(茎部)	掲載	-	-	3.7	0.5	0.4	1.7	7:1	棒状	-	-	-	-	
265	鏃(茎部)	掲載	-	-	3.8	0.5	0.5	1.7	8:1	棒状	-	-	○	-	
266	鏃(脚部～茎部)	掲載	-	-	2.7	1.1	0.6	1.8	1:1	長板	B266	-	-	-	
267	鏃(身～茎破損)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	棒状	B250	-	-	-	
268	鏃(脚部～茎部)	掲載	-	-	4.9	0.7	0.4	3.0	4:1	棒状	B266	-	-	-	
269	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.5	0.3	0.2	0.1	1:1	塊状	-	-	-	-	
270	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
271	鏃(身～茎破損)	掲載	-	-	3.4	1.1	0.5	2.9	3:2	塊状	-	-	-	-	
272	鏃(茎部欠)	掲載	-	-	4.9	0.9	0.4	4.3	3:1	棒状	-	-	-	-	
273	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	1.2	0.7	0.2	0.2	1:2	板状	-	-	-	-	
274	鏃(茎部欠)	掲載	-	-	7.0	0.9	0.6	7.7	4:1	棒状	-	-	-	-	
275	鏃(身部)	掲載	-	28x47g3	1.9	1.2	0.3	1.1	1:2	板状	-	-	-	-	
276	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	2.5	0.5	0.4	0.9	5:1	棒状	-	-	-	-	
277	武器・武具類(不明)	掲載	-	-	5.9	0.9	0.3	2.7	2:1	棒状	-	-	-	-	
278	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	1.7	0.5	0.3	0.5	4:1	棒状	-	-	-	-	同一個内に粘小破片2　総重量0.9g
279	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	1.0	0.5	0.4	0.4	2:1	棒状	-	-	-	-	
280	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.6	0.4	0.1	0.1	2:3	板状	-	-	-	-	
281	刀	掲載	37尺7頁1	-	102.0	3.0	0.9	639.1	34:3	棒状	-	○	-	○	目打穴
282	剣	掲載	37尺7頁3	-	95.4	3.4	0.9	338.2	5:1	板状	-	○	-	○	目打穴　柄木質
283	鞘尻(後期型上面1段/背付板)	掲載	39尺9頁2	22x14g5	-	-	-	-	-	B205	○	○	-	-	
284	鞘尻(後期段側面1段/地板)	掲載	39尺9頁6	-	-	-	-	-	-	B168	○	○	-	-	
285	鞘尻(後期段側面1段/背板)	掲載	39尺9頁6	-	-	-	-	-	-	B168	○	○	-	-	
286	鞘尻(金金具/台側面)	掲載	-	-	-	-	-	-	-	B231	-	-	-	-	
287	鏃(茎部欠)	掲載	-	-	8.2	0.9	0.3	3.8	3:1	棒状	-	-	-	-	
288	鏃(茎部欠)	掲載	-	-	5.7	0.7	0.4	1.9	4:1	棒状	-	-	-	-	
289	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	1.6	1.5	0.3	0.9	1:6	板状	-	-	-	-	
290	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	1.6	1.5	0.3	0.9	1:5	板状	-	-	-	-	
291	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	2.3	0.8	0.3	0.6	1:1	塊状	-	-	-	-	
292	武器・武具類(不明)	未掲載	-	-	1.4	0.8	0.2	0.6	2:3	塊状	-	-	-	-	
293	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	2.6	0.9	0.3	0.7	3:4	棒状	-	-	-	-	同一個内に粘小破片74　総重量17.7g
294	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	2.6	1.0	0.3	0.8	2:3	板状	-	-	-	-	
295	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	2.4	0.7	0.3	0.7	1:1	棒状	-	-	-	-	
296	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.4	1.9	0.4	0.6	1:3	板状	-	-	-	-	
297	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.9	0.7	0.3	0.8	3:2	板状	-	-	-	-	
298	鏃(茎部欠)	未掲載	-	-	1.4	0.7	0.7	1.2	2:1	棒状	-	-	-	-	
299	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	2.2	0.7	0.3	0.5	3:1	棒状	-	-	-	-	
300	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.7	0.8	0.3	0.6	2:3	板状	-	-	-	-	
301	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.7	0.6	0.3	0.5	3:2	板状	-	-	-	-	
302	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.2	0.9	0.3	0.5	1:3	板状	-	-	-	-	
303	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.0	0.7	0.6	0.5	1:1	塊状	-	-	-	-	
304	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.9	0.7	0.4	0.4	1:2	板状	-	-	-	-	
305	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	0.9	0.8	0.3	0.5	1:3	板状	-	-	-	-	
306	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.5	0.6	0.3	0.4	1:1	塊状	-	-	-	-	
307	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.0	0.6	0.4	0.3	1:1	塊状	-	-	-	-	
308	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.8	0.5	0.3	0.4	3:2	塊状	-	-	-	-	
309	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.2	0.6	0.2	0.3	2:3	板状	-	-	-	-	
310	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.4	0.8	0.2	0.4	2:3	板状	-	-	-	-	
311	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.2	0.7	0.3	0.2	2:3	板状	-	-	-	-	
312	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.0	0.7	0.4	0.4	1:2	板状	-	-	-	-	
313	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.9	0.4	0.2	0.3	2:1	棒状	-	-	-	-	
314	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.2	0.6	0.3	0.3	1:1	塊状	-	-	-	-	
315	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.5	0.4	0.3	0.3	2:1	棒状	-	-	-	-	
316	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	0.9	0.4	0.4	0.3	2:1	棒状	-	-	-	-	
317	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.5	0.6	0.2	0.3	1:1	塊状	-	-	-	-	
318	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.3	0.4	0.4	0.2	3:1	棒状	-	-	-	-	
319	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.3	0.5	0.3	0.2	3:2	塊状	-	-	-	-	
320	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.8	0.7	0.2	0.1	1:4	板状	-	-	-	-	
321	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.4	0.5	0.3	0.2	3:2	塊状	-	-	-	-	
322	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.1	0.6	0.1	0.1	2:5	板状	-	-	-	-	
323	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.4	0.6	0.2	0.2	2:3	板状	-	-	-	-	
324	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.1	1.0	0.1	0.2	1:7	板状	-	-	-	-	
325	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.1	0.4	0.2	0.2	3:2	塊状	-	-	-	-	
326	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.2	0.3	0.2	0.1	4:1	棒状	-	-	-	-	
327	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.0	0.6	0.2	0.2	2:3	板状	-	-	-	-	
328	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.0	0.5	0.3	0.2	1:1	塊状	-	-	-	-	
329	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.0	0.7	0.1	0.2	2:5	板状	-	-	-	-	
330	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.9	0.5	0.3	0.1	1:4	塊状	-	-	-	-	
331	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	0.8	0.8	0.1	0.1	1:6	板状	-	-	-	-	
332	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.9	0.5	0.2	0.1	1:1	塊状	-	-	-	-	
333	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.7	0.5	0.3	0.1	1:2	板状	-	-	-	-	
334	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.9	0.5	0.3	0.2	1:1	塊状	-	-	-	-	
335	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.5	0.4	0.2	0.1	4:3	棒状	-	-	-	-	
336	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.6	0.5	0.1	0.2	3:4	板状	-	-	-	-	
337	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.7	0.3	0.3	0.2	5:1	棒状	-	-	-	-	
338	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.2	0.3	0.3	0.1	4:1	棒状	-	-	-	-	
339	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.2	0.3	0.3	0.2	4:1	棒状	-	-	-	-	
340	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.0	0.6	0.2	0.1	1:2	板状	-	-	-	-	
341	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	0.9	0.8	0.2	0.1	1:6	板状	-	-	-	-	
342	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.8	0.7	0.2	0.1	1:4	板状	-	-	-	-	
343	武器・武具類(小破)	未作成	-	-	1.1	0.4	0.2	0.1	1:1	塊状	-	-	-	-	
344	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.9	0.6	0.2	0.1	2:3	板状	-	-	-	-	
345	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	0.5	0.4	0.3	0.1	1:1	塊状	-	-	-	-	
346	武器・武具類(不明)	未作成	-	-	1.0	0.3	0.3	0.1	3:1	棒状	-	-	-	-	

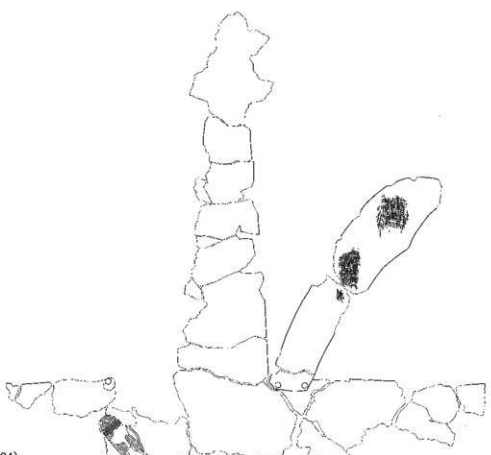
ID	種別(部位等)	実測値	推定値	縦方向(cm)	横方向(cm)	最大横(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	相対比	形状	側面形	穿孔	基部	木質痕	備考
347	武器-武力加(小型)	未欠損	-	0.9	0.4	0.1	0.1	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
348	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.1	0.4	0.1	0.1	3.4	0.91	板状	-	-	-	-	
349	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.7	0.4	0.2	0.1	1.1	0.29	棒状	-	-	-	-	
350	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.5	0.3	0.2	0.1	2.1	0.56	棒状	-	-	-	-	
351	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.5	0.3	0.3	0.1	2.1	0.56	棒状	-	-	-	-	
352	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.8	0.3	0.2	0.1	3.2	0.85	棒状	-	-	-	-	
353	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.0	0.3	0.1	0.1	3.2	0.85	板状	-	-	-	-	
354	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.7	0.4	0.2	0.1	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
355	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.9	0.6	0.1	0.1以下	1.2	0.32	棒状	-	-	-	-	
356	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.7	0.3	0.1	0.1以下	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
357	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.8	0.3	0.1	0.1以下	1.1	0.29	棒状	-	-	-	-	
358	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.6	0.4	0.1	0.1以下	1.4	0.37	板状	-	-	-	-	
359	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.7	0.4	0.1	0.1以下	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
360	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.7	0.3	0.1	0.1以下	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
361	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.7	0.3	0.1	0.1以下	3.2	0.85	板状	-	-	-	-	
362	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.5	0.5	0.1	0.1以下	1.3	0.35	板状	-	-	-	-	
363	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.9	0.4	0.1	0.1以下	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
364	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.6	0.4	0.2	0.1以下	1.9	0.51	棒状	-	-	-	-	
365	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.7	0.2	0.2	0.1以下	3.1	0.83	棒状	-	-	-	-	
366	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.5	0.4	0.1	0.1以下	1.6	0.43	板状	-	-	-	-	
367	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.4	0.2	0.2	0.1以下	2.1	0.56	棒状	-	-	-	-	
368	鏃(長頸鏃)	鏃身	-	4.3	0.6	0.4	2.6	7.2	0.96	三角	-	-	-	-	
369	鏃(長頸鏃)	脚端	-	2.7	0.8	0.4	1.4	2.1	0.28	平板	-	-	-	-	
370	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.2	0.5	0.2	0.2	3.2	0.43	板状	-	-	-	-	
371	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.3	0.6	0.3	0.8	2.3	0.31	棒状	-	-	-	-	
372	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.1	0.7	0.3	0.6	1.1	0.15	板状	-	-	-	-	
373	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.4	0.7	0.2	0.6	2.3	0.31	棒状	-	-	-	内—鏃内に他小破片2	総重量0.8g
374	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.0	0.7	0.2	0.2	1.3	0.18	板状	-	-	-	-	
375	鏃(長頸鏃)	脚端	-	7.8	0.9	0.7	6.1	9.1	0.48	平板	-	-	-	-	
376	鏃(長頸鏃)	鏃身	-	2.3	0.8	0.3	1.3	1.1	0.06	棒状	-	-	-	-	
377	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.8	0.9	0.5	0.9	1.1	0.06	板状	-	-	-	-	
378	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.3	0.8	0.4	0.4	2.1	0.11	棒状	-	-	-	-	
379	鏃(長頸鏃)	脚端	-	2.3	0.8	0.4	1.5	3.2	0.16	三角	-	-	-	内—鏃内に他小破片3	総重量3.7g
380	武器-武具類(小型)	未鏃軸	-	1.7	1.1	0.3	0.8	1.4	0.74	板状	-	-	-	-	
381	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.7	0.8	0.3	0.8	1.1	0.58	板状	-	-	-	-	
382	武器-武具類(小型)	未鏃軸	-	1.8	1.1	0.3	0.6	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
383	鏃(長頸鏃)	脚端	-	4.1	0.8	0.4	3.3	5.2	0.82	三角	-	-	-	-	
384	鏃(定型—茎鏃)	鏃身	-	5.6	1.0	0.3	3.8	5.3	0.84	棒状	-	-	-	-	
385	鏃(定—茎鏃)	脚端	28月7日2	6.3	1.4	1.5	5.3	5.1	0.81	棒状	-	-	-	-	
386	武器(小型)	鏃身	-	3.6	2.5	0.2	2.2	1.17	0.61	三角	-	○	-	内—鏃内に他小破片2	総重量3.0g
387	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.4	1.4	0.3	0.7	1.5	0.78	板状	-	-	-	-	
388	武器(小型)	鏃身	-	4.5	3.8	0.2	5.9	1.16	0.61	三角	-	-	-	内—鏃内に他小破片4	総重量6.1g
389	武器-武具類(不明)	未欠損	-	1.2	0.6	0.2	0.2	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
390	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.5	0.4	0.1	0.1以下	1.4	0.61	板状	-	-	-	-	
391	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.4	0.3	0.1	0.1以下	2.3	0.61	板状	-	-	-	-	
392	武器-武具類(不明)	未欠損	-	0.3	0.2	0.1	0.1以下	1.3	0.61	板状	-	-	-	-	
L1	勾玉	勾玉	36年6月2	3.54	2.06	1.07	0.5	2.2	0.82	三角	○	-	-	-	
L2	勾玉	勾玉	36月6日5	0.46	0.45	0.27	0.1	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
L3	勾玉	勾玉	36月6日5	0.32	0.33	0.14	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
L4	勾玉	勾玉	36月6日5	0.28	0.26	0.19	0.1以下	1.1	0.56	棒状	○	-	-	-	
L5	勾玉	勾玉	36月6日5	0.38	0.40	0.25	0.1以下	1.1	0.56	板状	○	-	-	-	
L6	勾玉	勾玉	36月6日5	0.35	0.35	0.17	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G01	丸玉	鏃身	36月6月3	0.61	0.62	0.56	0.3	1.1	0.56	板状	○	-	-	-	
G02	丸玉	脚端	36月6月3	0.78	0.72	0.46	0.4	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G03	丸玉	脚端	36月6日3	0.56	0.60	0.56	0.3	1.1	0.56	板状	○	-	-	-	
G04	丸玉	脚端	36月6月3	0.50	0.55	0.37	0.2	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G05	丸玉	脚端	36月6日3	0.58	0.58	0.42	0.2	1.1	0.56	棒状	○	-	-	-	
G06	丸玉	脚端	36月6月3	0.55	0.56	0.54	0.3	1.1	0.56	板状	○	-	-	-	
G07	丸玉	脚端	36月6日3	0.73	0.76	0.65	0.3	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G08	丸玉	脚端	36月6月3	0.61	0.57	0.43	0.3	1.1	0.56	棒状	○	-	-	-	
G09	丸玉	脚端	36月6日3	0.65	0.68	0.52	0.4	1.1	0.56	板状	○	-	-	-	
G10	小丸	脚端	36月6日4	0.32	0.32	0.21	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G11	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.20	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G12	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.34	0.22	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G13	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.33	0.18	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G14	小丸	脚端	36月6日4	0.35	0.33	0.17	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G15	小丸	脚端	36月6日4	0.35	0.34	0.23	0.1以下	1.3	0.65	板状	○	-	-	-	
G16	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.22	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G17	小丸	脚端	36月6日4	0.32	0.32	0.22	0.1以下	1.3	0.65	板状	○	-	-	-	
G18	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.20	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G19	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.33	0.19	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G20	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.33	0.19	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G21	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.33	0.18	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G22	小丸	脚端	36月6日4	0.32	0.32	0.21	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G23	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.21	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G24	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.20	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G25	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.34	0.18	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G26	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.18	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G27	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.34	0.16	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G28	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.20	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G29	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.33	0.18	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G30	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.34	0.21	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G31	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.19	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G32	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.18	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G33	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.21	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G34	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.18	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G35	小丸	脚端	36月6日4	0.35	0.34	0.22	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G36	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.32	0.20	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G37	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.34	0.20	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G38	小丸	脚端	36月6日4	0.33	0.33	0.22	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G39	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.33	0.20	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G40	小丸	脚端	36月6日4	0.34	0.33	0.20	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	
G41	小丸	脚端	36月6日4	0.36	0.34	0.22	0.1以下	1.2	0.61	板状	○	-	-	-	


C
D
E
F
G
H
I
J
A
B
0
(石室 scale:1/50)
2m
石室実測図
上:「報告書」第4図を再トレース
＊等高線と横断図の線を一部削除。
墳丘実測図
左上:「報告書」第3図を再トレース
左下:「滝沢論文」第2図を再トレース
＊墳丘上の復原部内の等高線は削除し、石室実測図を方位を合わせ加筆(推定)。
0
(墳丘scale:1/400)
20m

第2図　墳丘・石室実測図



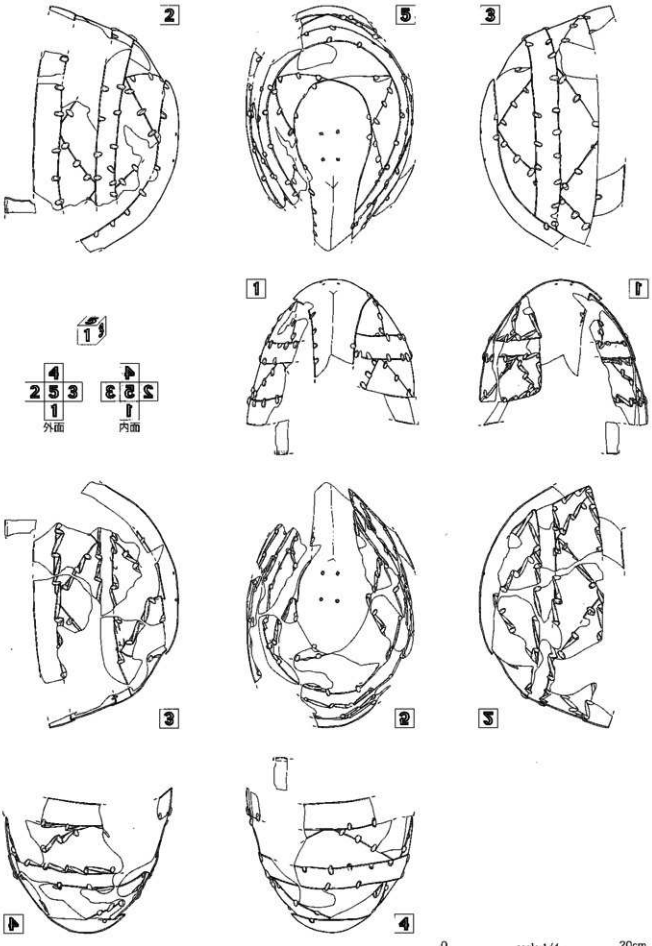
001/表面



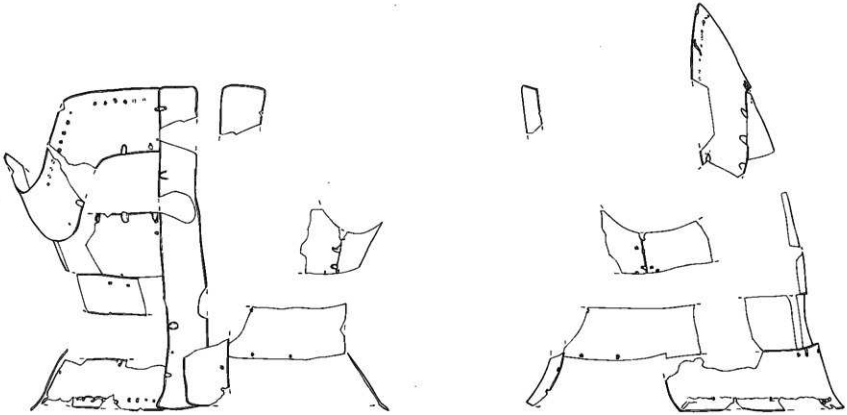
001/裏面
（竪櫛003，布004）

0 scale:1/2 10cm

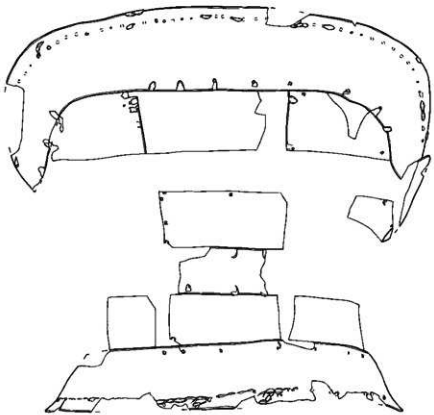
第3図　金属製遺物実測図1（天冠・竪櫛・布）



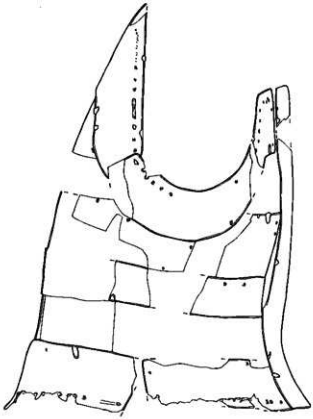
第４図　金属製遺物実測図２（三角板革綴衝角付冑）



第５図　金属製遺物実測図３（長方板革綴短甲）



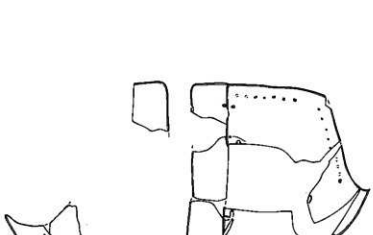
後胴(外面)



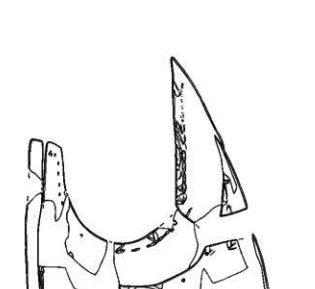
右側(外面)

0 scale:1/4 20cm

第6図　金属製遺物実測図4（長方板革綴短甲）



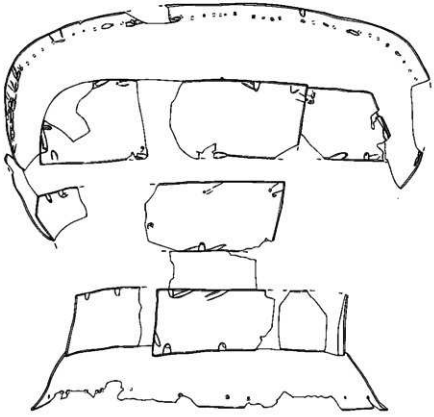
前胴(内面)



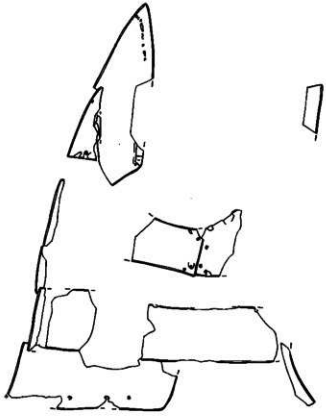
右側(内面)

0 scale:1/4 20cm

第７図　金属製遺物実測図５（長方板革綴短甲）



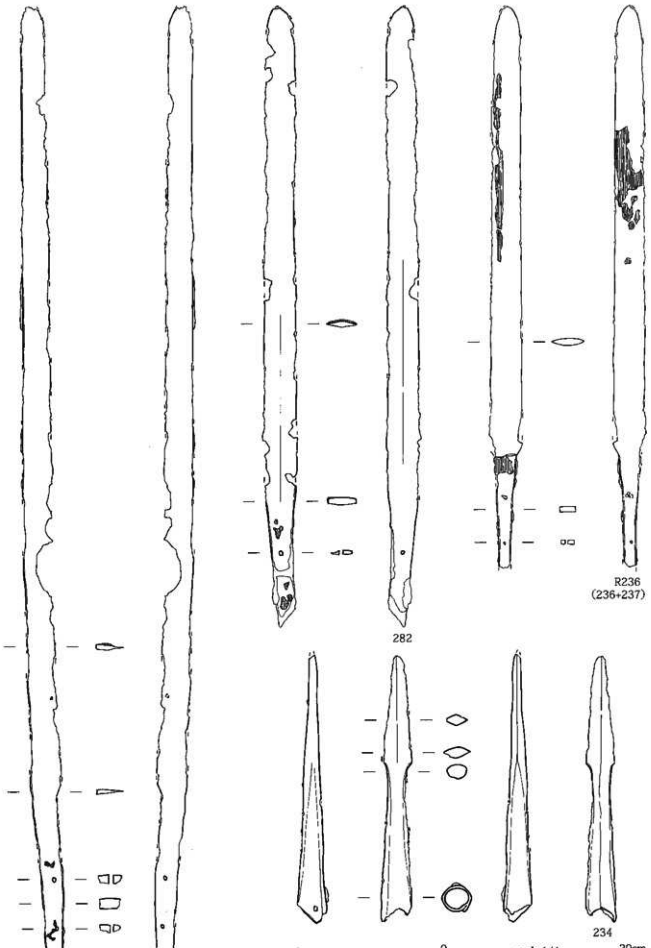
後胴(内面)



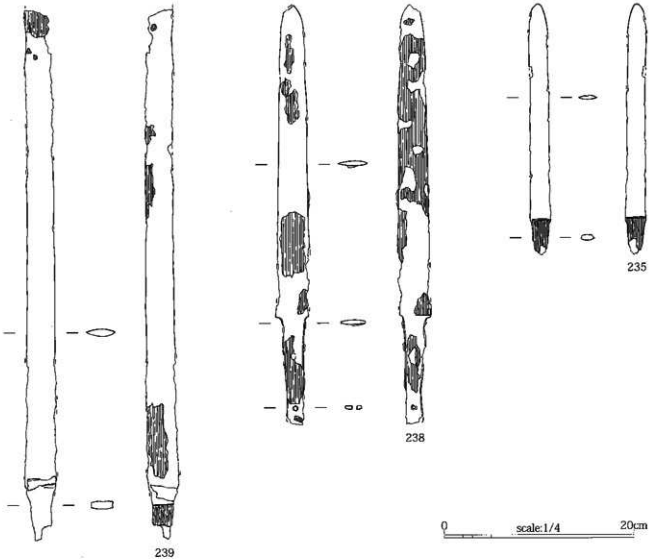
左側(内面)

0 scale:1/4 20cm

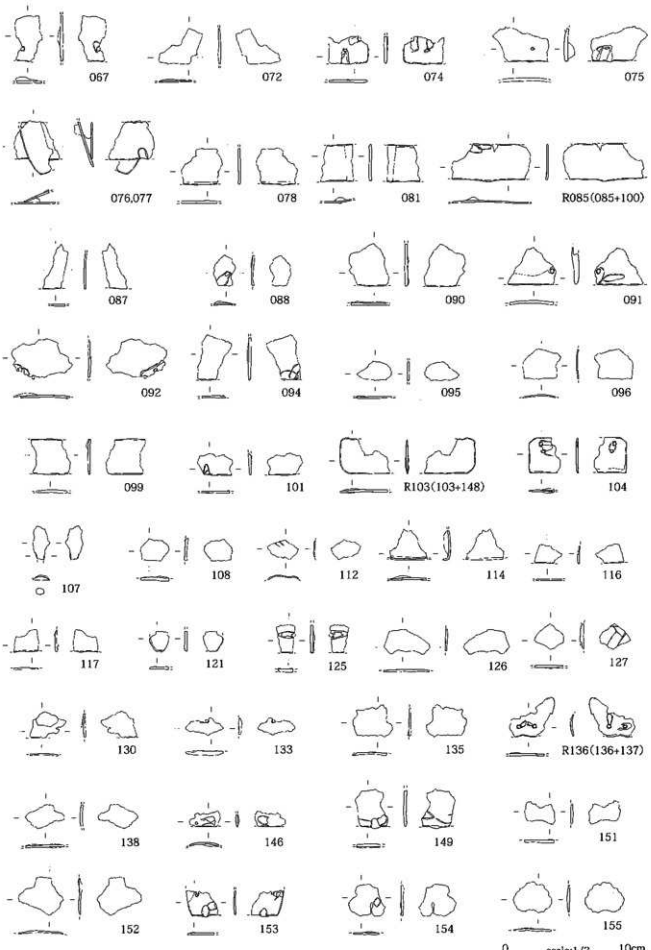
第8図　金属製遺物実測図6（長方板革綴短甲）



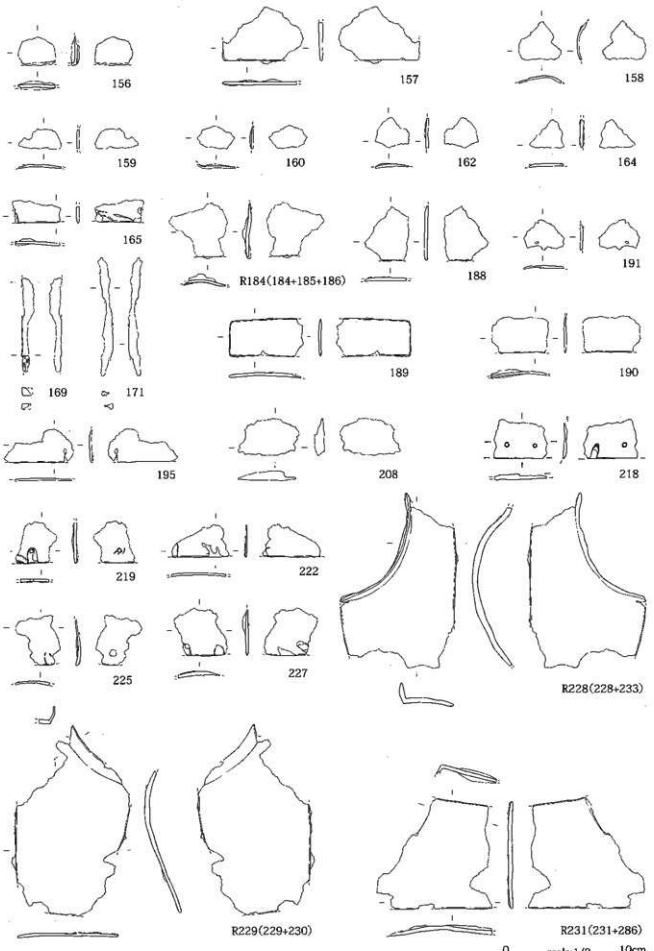
第9図　金属製遺物実測図7（刀・剣・鉾）



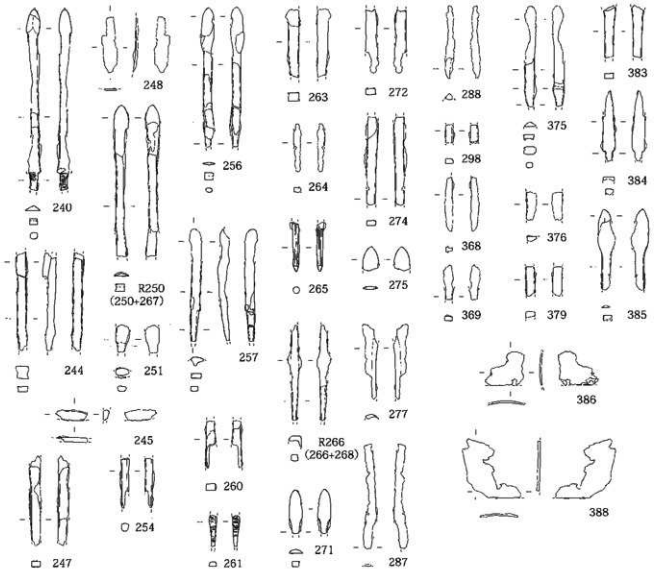
第10図　金属製遺物実測図8（剣・武具類）



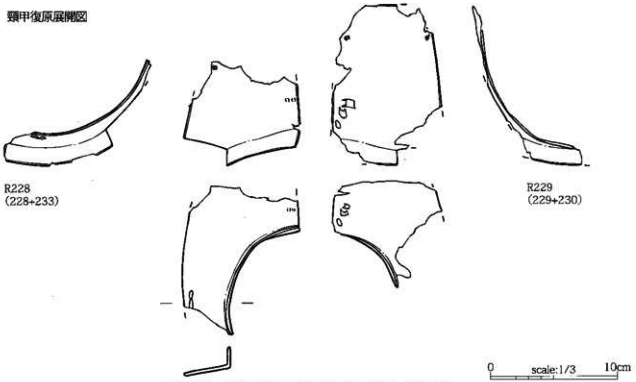
第11図　金属製遺物実測図9（武具類）



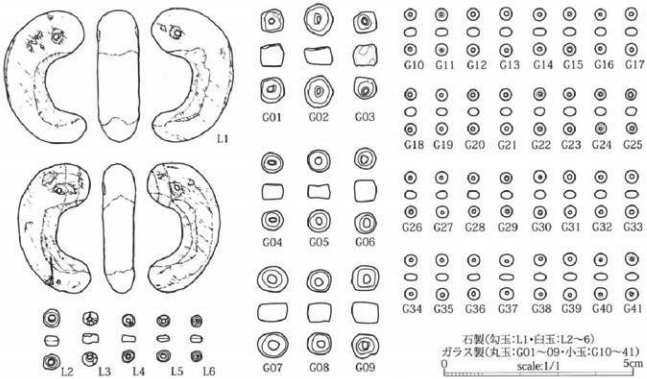
第12図　金属製遺物実測図10（鏃・武具類）



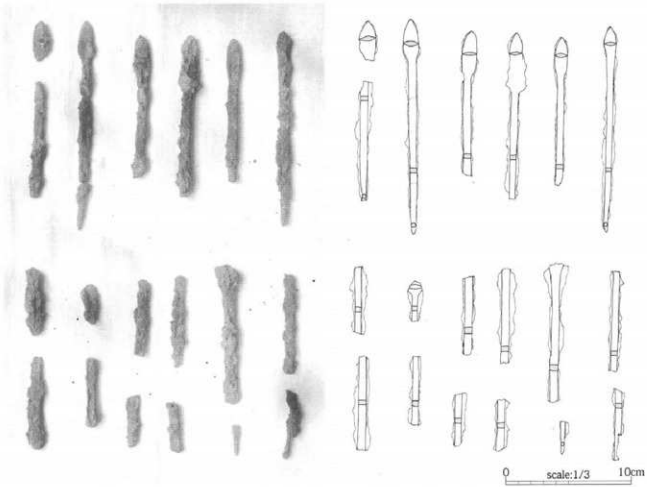
頸甲復原展開図



第13図　金属製遺物実測図11（鏃・武器・武具類）



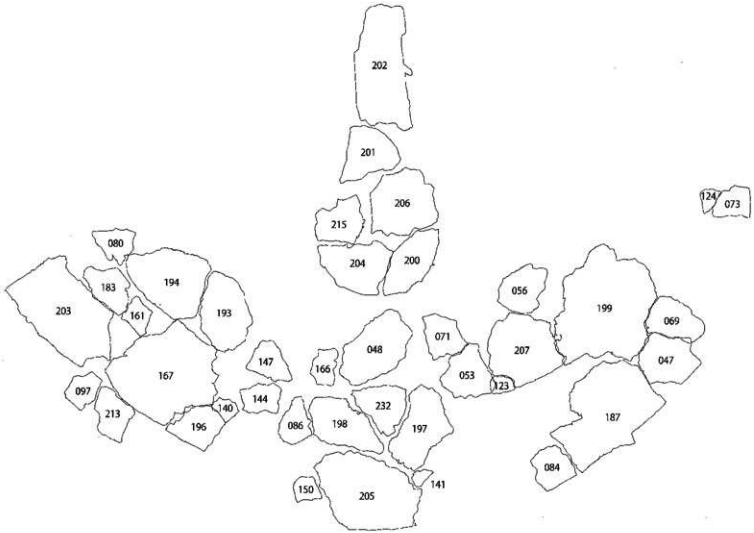
第14図　石製・ガラス製遺物実測図（玉類）



大場磐雄写真資料　整理番号3584
「桜ヶ丘古墳出土品　鉄鏃　昭和30年8月31日」
写真提供:國學院大學日本文化研究所

金谷克巳氏作成　桜ヶ丘古墳出土鉄鏃実測図
報告書未掲載のためトレースし左写真に対照配置
実測図提供:独立行政法人 文化財研究所 東京文化財研究所

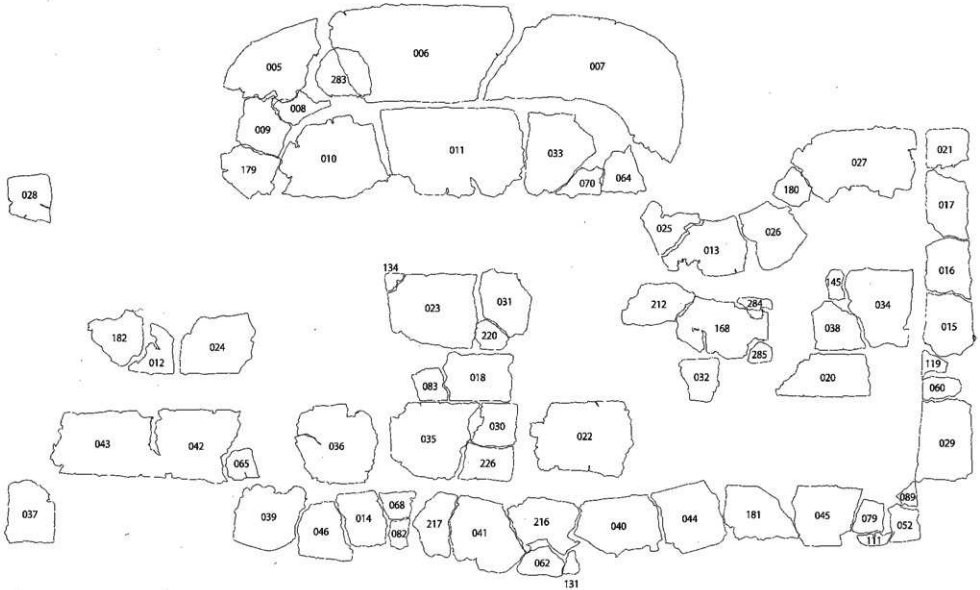
写真1・第15図　鉄鏃参考資料



scale:1/3

第16図　衝角付冑　破片復原展開図

写真2　衝角付冑　復原展開レントゲン



scale:1/4

第17図　短甲　破片復原展開図

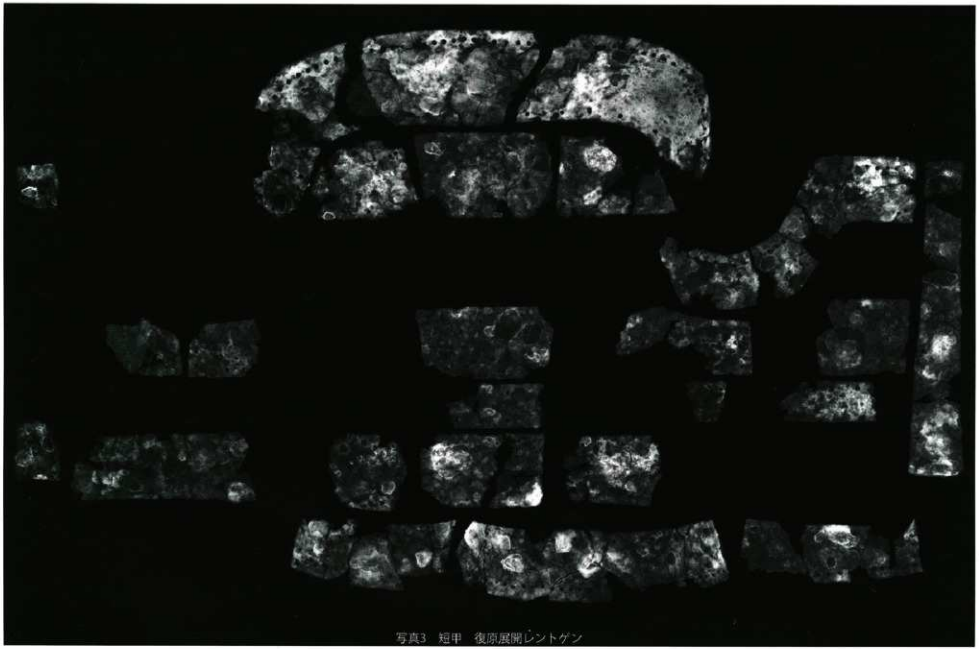


写真3　短甲　復原展開レントゲン

附編3

論文 「長野県松本市桜ヶ丘古墳の再調査」

1988年『信濃』第40巻第10号 p17～30 信濃史学会

滝沢 誠

1 はじめに

松本市街地の周辺、その北西部に突き出た城山丘陵と南麓部の中山丘陵に囲まれた地域は、松本平の中でも数多くの古墳が分布することで知られている。今回ここに取り上げる桜ヶ丘古墳はその北麓の一角に位置し、貴重な副葬品の内容から松本平の代表的な古墳の一つに数えられている。

桜ヶ丘古墳は、昭和29年、付近の中学生が墳頂で偶然に八頭時代の武器・武具類を発見したことから存在が知られるようになった。そこで翌昭和30年、國學院大學教授大場磐雄博士を中心として発掘調査が実施され、刷窯をもつ型式式有蓋土器(1)などが新たに鉄身鉄鏃等の遺物が発見された。そのほかも、副室から出ました金銅製冠は桜ヶ丘古墳の名を大いに高めることとなった。この発掘調査の成果については、昭和41年、『信濃浅間古墳』(2)として報告書が刊行されている。

そのような桜ヶ丘古墳についてはかねてより、松本平の古墳文化を考える上で欠くことのできない資料として注目していた。と同時に、調査から30有余年を経過した今日の研究状況に照らして、その事実関係の一部に多少の疑問を抱かぬわけではなかった。ありしも長野県では、県史編纂事業の一環として既存考古資料の再調査が行われ、学究の用に資する努力が重ねられていた。桜ヶ丘古墳もその例にもれず、今回率い長野県史刊行会の協力のもとに、梱原健先生の御指導を得ての再調査を実施する機会に恵まれた。調査は、昭和62年10月14～19日の6日間、墳丘の測量、出土遺物(3)の実測をおこなった。以下はその調査報告である。

2 立地と現状

桜ヶ丘古墳は松本市浅間飯沼周に所在する。(第1図2)筑摩山地に源を発する薄海は、北から女鳥羽川・薄川となって松本市街地を貫流し、南方からの用川に注いだのち奈良井川に合流し、松本市の北東方で盆地を北流する押川にいたる。その女鳥羽川と薄川は、松本市の東方に扇状地を発達させ、現市街地の上に扇頂している。女鳥羽川が形成する扇状地の先端には、古代「宗潤の遺」とも目される浅間温泉が湧出し、山田沢の浸蝕によって西方に長く突出した桜ヶ丘の尾根がその南縁を画している。古墳はその複尾根の先端、標高678m付近に立地し、周囲との比高差は約40mを測る。

本古墳はその立地から単独墳としてのあり方を示すが、周辺には古墳が少なくない。本古墳の北方、同様に浅間温泉を望む傾斜地には、鉄刀剣を出ました横谷入古墳(第1図)が存在する。また、本古墳の南方に突出した尾根の先端には、同時に発掘調査がおこなわれ、鉄身鉄・武器・馬具等を出ました妙義山1～3号墳(同3)が築かれている。一方、女鳥羽川の右岸に目を転じれば、その段丘上には横石塚を主体とする水路古墳群(同6)が南北に展開している。そしてその西方、城山の中腹から山麓台地にかけては、唐石腰刀等を出ました熊銅塚古墳(同11)、眉庇付青を出ました鉄光寺廻き松古墳(同12)、石製鋼等を出ました勢多賀神社薬古墳(同13)など5世紀以前に遡る単独墳が点在している。

すでに述べたように、本古墳は扇状地に長く突出した尾根の先端に立地している。その状況からの眺めは絶佳で、往時は北方面下に浅間の温泉郷、西方遥かに北アルプスの峰岳を望むことができた。かくして大正年間には尾根に桜を植え、墳頂を削平して四阿屋が建てられたため墳丘は改変を被った。もとよりその付近は、第三紀内村累層の上層泥岩地帯で地盤が脆く、松を植林して保全を図っているほどで、それでなくとも経年の変化は防ぎようもなかった。現在、墳頂とそれに通じる道を除き墳丘は草木に覆われ、周囲には木種が設けられている。

3 調査の成果

墳丘 今回の測量調査の結果は第2図の通りである。本古墳は扇状地に向かって突出する尾根の先端に位置するが、微細にみると、その東側に北から小さな谷が入り込み、古墳を囲く尾根は北方に伸びる複尾根状を呈している。

東側傾斜面は等高線が東端的に走り、尾根斜面との境界が明瞭でない。これはその立地による封土の流出が原因と思われ、必ずしも旧状を反映したものではあるまい。北寄りには標高677.5m付近に傾斜変換点が認められ、墳幅がわずかに残存している。

北側傾斜面は比較的旧状を留めているようである。ただし、東寄りは墳頂に通じる道により改変され、また中央部は大きく円形に陥没して現在丸太が積み込まれている。墳丘を呈する頂部は、標高677.3～678.1mに傾斜変換点が求められ、東寄りが高い。

西側傾斜面は後世入為的に削られ2段の壁が形成されており、まったく旧状を留めていない。

尾根との境界を画する南側傾斜面は明瞭でない。墳頂に通じる道を設ける際土を盛った可能性も考えられ、東寄りの標高680.25m付近に認められる傾斜変換点、あるいは西寄りの等高線がわずかにくびれるあたりが墳裾と思われる。また、地表面下に埋葬施設が発見されるまでに墳頂部が削平されたことも、墳斜面を不明瞭にした一因であろう。いずれにせよ、尾根との切断部は本来さほど画然としたものではなかったらしい。

墳頂部はすでに削平され、旧状を留めていない。中央部には現在、直径6m、高さ0.8m程の人為的なマウンドが築かれている。その部分を除くと、高芝が生成して標高682.2mを測る。

以上の事実から旧状を察するに、本古墳は従来通り円墳とするのが穏当であろう。その墳形は整然としたものではないが、直径は30m前後、高さは北側で最も高く5m近くと推定される。もっとも尾根との切断部は不明瞭で、そこに円丘部以外の墳丘を想定する見方もあろう。しかし、本古墳の立地する尾根は北側ですぐに向きを変えることを思い起こせば、にわかにその想定にはしたがい難い。墳形・墳域の正確な把握は、それを目的とした将来の発掘調査に俟つほかはない。

なお、本古墳では今回も、葺石・埴輪の存在は確認されていない。

出土遺物 『信濃浅間古墳』によれば、本古墳から出ました遺物には次のものがある。昭和29年中学生が発見したものに、鉄刀1、鉄剣4、鉄鏃1、鉄鏃数点、模倣板鉄留衝角付冑1、一角鉄鎧留冠甲1、短甲1があり、これらはその出土位置から主室内に副葬されていたものとみられる。また昭和30年の発掘調査で発見されたものに、金銅製冠1、鞍橋1、鐙1、環鏡製品1、ガラス製丸玉9、ガラス製小玉35、滑石製白玉5があり、前三者は副室内から、その他は副室北西部の堆積土中から出ました。

これらの出土遺物のうち今回再調査の対象としたのは、その型式認定に疑問がもたれた半胄類についてである。その結果従来の知見とは以為り、衝角付冑は三角板革綴式、短甲は挂方板革綴式であることが判明した。

衝角付冑(第3図) 遺有の段構成をもつ二角板革綴衝角付冑である。遺存状態は悪く錆片と化している分、鍛革の残りは比較的良い。1・2は伏板、3は調整板または前胄板の遺部、4は左側頭部地板第2段衝角部遺存、5は左側側頭部調整板～地鼻第2段、6は後頭部地板第2段～腰巻板、7は右側側部地板第1段～腰巻板である。

伏板は数片の破片にわかれ、頂辺・衝角基部を欠失する。衝角部は幅5cm程の先端を徐に直角に折り曲げて形成する。地板第1段は左側頭部に若干遺存するのみ。最も衝角寄寄りには斜辺が伏板と鋲角に交わる地板を配する。そこから後頭部に向かって上下交互に下重ねされる三角板は、地板第2段と対称形をなす。地板第2段は、最も衝角部寄りに斜辺が胴巻板と鋲角に交わる地板を配する。そこから後頭部に向かっては、高さ5cm、底辺13～14cm程の三角板を左右それぞれに下重ねしている。後頭部中央には両斜辺がともに下重ねされる下向きの二角板を配する。破片の残り油率と三角板の大きさから、地板第1段は7枚、第2段は9枚の地板構成と推定される。胴巻板は幅2.2～2.6cm、腰巻板は幅2.9cmを測る。

遺存する鋲基からは、各地板の斜辺3ヶ所で鋲留して地板各段を形成したのち、それらを胴巻板・腰巻板に連結した製作工程を窺うことができる。また、胴巻板と地板第2段の連結は衝角部左右から後頭部に向かう革綴によるのに対し、その連続性は定かでないが、地板第1段と胴巻板、地板第2段と腰巻板の連結はそれぞれ内胴から見て左回り、右回りの革綴によってなされる。

なお、衝角底板・帽眉庇はすでになく、伏板、腰巻板も衝角基部付近を欠失することからその連結方法は不明である。鐙は、右側頭部腰巻板にそれともみられる破片が鋲着するが定かでない。また、三尾鋲についてはそれも確認しえない。

短甲(第4・5図) 上・下縁に革綴覆輪を施す長方板革綴短甲である。すでに多くの破片と化しており、全体像は推量は定かでない。また、帽輪・鎧革の遺存状態は総じて悪く、その手法の仔細は明らかにしえない。

1は右前胴引合板の幅部である。下端は緩やかな弧状を呈し、幅5.9cmを測る。

2～4は右前胴竪上第1段である。上端幅11cm程、引合板寄りで幅6.8cmを測る。上縁には1.0cmの間隔で縦孔が並び、幅1.5cmの革紐覆輪が施される。

5は遺難した後胴竪上第1～2段を復元したものである。竪上第1段の押付板は、上縁に前胴引綴の覆輪が施され、左右幅45.5cm、中央部幅10.2cmを測る。竪上第2段は地板3枚構成で、中央部幅9.0cmを測る。なお、6は押付板左脇端部で、先端幅5cm程と推定される。

7～13は帯金である。幅5cm前後のもの(7～9)と幅4.5cm前後のもの(10～13)がある。

14～21は地板である。14は最大幅7.8cmを測り、下縁における鍛革の遺存状況と、上・側縁の裁断状況から、左前胴竪上第2段の地板と考えられる。またこのことから、前胴竪上は2段構成と考えられる。15～18は部位不詳の地板である。いずれも幅8.0cmを測る。19～21は長側面上段の脇部地板である。上縁は竪上第1段のカーブにあわせて斜めに裁断されており、その斜辺と長さおよび端部の幅から、前胴長側面1段は左右それぞれ1枚の地板で構成されていた可能性が高い。19は中央部幅7.0cm、20は端部幅5.6cm、21は端部幅5.5cm(推定)を測る。

22～28は長側第4段の裾板で、幅6.3～7.3cmを測る。下縁には1.0～

1.5cm程の間隔で縦孔が並び、約1.0～1.5cm程の革組織輪が施される。

鐔甲(第6図)　正面立面形が逆台形を呈する打延革綴製甲である。引合板を合め小体の平分以上がすでに失われている。肩部は下降し、下縁部は一直線に揃えられていない。同部幅は20cm前後と推定され、襟部長は1.2cmを測る。

4　甲胄類の編年的位置

ここで述べた知見を踏た甲胄鎧について、その編年的位置を探っておきたい。

三角板革綴衝角付冑は、本古墳例を含め、現在24古墳から31例の出土が知られる。製作技術のうえから衝角付冑としては最古の位置付けがなされ(4)、その初見は、群馬県伝蟹玉製鼻飾鋲と銘々装飾品が共存する時期の大阪府・黄金塚古墳素環例(5)等に求めることができる。

古墳時代の終末期作品は、当時の鉄器生産技術の粋を集めたものであり、機能性、生産性の向上はかぎぬきの発展に支えられていたといえよう。とくに冑れた冑の製品であるために、その技術力は鍛造技術に端的に示され、衝角付冑や短甲はその遺風にともなう地板の大形化＝地板枚数の減少、という基本的な変化の方向性を有していたと考えられる。そこでいま、地板枚数という点から三角板革綴衝角付冑の類型を試みれば、地板第1・2段で計24枚以上のもの(以下I式)と計20枚以上のもの(以下II式)に二人別される(第1表)。

もちろん地板枚数の変化は漸移的なもので、両者を区分する確たる指標とはなりえない。しかしそれに加えて、両者は地板構成という点でも内容を異にしている。

I式に属するものは、大阪府大塚古墳2号例(6)を除き、いずれも地板両段の一角板が対称形を呈している。もっとも大塚古墳2号例は地板両段の一角板が対称形を呈し、I式とすることへの疑問も生じよう。しかしそれを含め、いまのところI式に属するものはどれひとつとして地板構成を等しくするものがなく、II式の大部分が地板第1・2段で9・11枚もしくは7・9枚という構成をとるのとは対照的なあり方を示している。したがって現状では、新山の事業を認めつつも大塚古墳2号例はII式とし、同者に定形化前と後という弄僅を与えておきたい。このII式から II式への変遷は、付属具である板鎧の変遷(10)とも手伝って、作品遺物からとらえられるそれぞれの上限年代によっても検証しうる。

本古墳例は地板両段の一角板が対称形を呈し、地板枚数は第1段が7枚、第2段が9枚と推定される。したがって今述べたII式に該当し、三角板革綴衝角付冑としては新しい一群に属する。

また、本古墳例は地板第1・2段の最も衝角部寄りに、斜辺が伏板・側巻板と餌角で交わる地板を配する。これと同じ地板構成・枚数をもつものには、京都府久御山車塚古墳4号例(11)、滋賀県新開1号墳例(12)がある。これらはともに鉄留技法導入期の中興と伸出し、また、新開1号墳例に付属する幅の狭い1枚板鎧には鉄留背からの影響も想定される。(13)おそらく、地板枚数という点からみても、本古墳例を含めたそれらはII式の中でより新出のものとともえられ、その製作時期は鉄留技法導入期に近い頃もしくはそれに下るものとされよう。

長方板革綴短甲は、本古墳例を含め、現在37古墳から38例の出土が知られる。方形板革綴短甲に後続する蓋式(14)で、上下・左右方向に略直せた短上胴1段および裾金をともなう構造は、古墳時代中期の代表的遺物である短甲の基本形を出蓋したものである。その初見は、奈良県池ノ内5号墳例(15)等に求められ、三角板革綴衝角付冑と同時期に遡る。

長方板革綴短甲においても、鍛造技術の進展にともなう地板枚数の減少が指摘できる。その場合、後期は一挙して地板3枚構成をとることから、変化は前期に集約される。

奈良県池ノ内5号墳例、大阪府大塚古墳例(16)は、前期の長側第1・3段が左右それぞれ2枚の地板で構成される。また、大阪府鳥塚古墳例は地板が方形板に近く枚数も多いとされる。(17)それらは後述のものに比べ地板枚数が多く、長方板革綴短甲としては相対的に古式に属するものとみられる。このことは、池ノ内5号墳例の長側が5段に構成され、その製作に試行的状況が窺えることからも首肯しうる。

他方、奈良県兵庫12号墳(18)、滋賀県新開1号墳(19)、岐阜県瑞穂門寺1号墳(20)、石川県円山1号墳(21)から出土した蓋例は、いずれも前側長側第1段が左右それぞれ1枚の地板で構成される。これらは地板製作のうえで先の一群とは区別され、より進んだ技術のもとで向種化された新式の製品と理解される。ただし、前開長側第3段の地板は円山1号墳例が左右2枚ずつで、他が1枚ずつであるのとは異なる。これが時期差によるものなのか、工人差によるものなのかは判らかでないが、いまは長側第1段の状況から新出の要素を確認するにとどめたい。

このように長方板革綴短甲は、地板枚数という点から少なくとも新古とも前の二分が可能である。そのことは両者の伴出遺物からもある程度検証しうる。ただし、新式に属する瑞門寺1号墳例は、三角縁四神四獣、碧玉製鼎、滑石製石玉等と伴出しその年代は中期初頭に遡ることから、古式とした一群の製作はごく初期の段階に限られるようである。

すでに述べたように、本古墳例は前提段例第1段が左右それぞれ1枚の地板からなると推定される。(22)したがってそれは、兵庫12号墳例以下の諸例と同じく、長方板革綴短甲としては定形化した段階の新式の製品とみなされる。

打延革綴短甲は正面立面形が逆台形を呈するもので、それは正面立面形が長方形を呈するものから機能上の要請にもとづいて変化したものとされる。(23)現在知りうる範囲で短甲との関係をみれば、後期の大多数が長方板革綴短甲(古・新)または三角板革綴短甲(古)(24)とセットをなすのに対し、前者は本古墳と新開1号墳で長方板革綴短甲(新)とセットをなすほかは、いずれも三角板革綴短甲もしくは新個短甲とセットをなしている。このことから、正面立面形が逆台形を呈する短甲の導入期は、鉄留技法導入期を中心とした時期としてよかろう。

以上、甲胄類個々の編年的位置について検討してみた。それによれば、甲胄類はいずれも革綴の製作になるものの、衝角付冑と短甲は新出の要素を具備しており、また短甲も初期の製品とみることはできない。もっとも、これらがセットとして鉄留に時代幅を反映したものなのかについては、製作期間との関わりで甲胄類各型式の細かな推移をさらに明確する必要がある。ともあれ本古墳の場合、衝角付冑と短甲からみて、セット関係自体の形成は鉄留技法導入期を大きく遡ることなく、その年代は中期前半でもより新しい時期に求められよう。

5　築造年代

前節での検討結果を踏まえ、本古墳の築造年代について述べておくことしよう。それには甲胄類以外の出土遺物についていま少しの言を要しよう。

金銅製冠は細帯式に属し、正面に3本の立飾をもつ。良好な類例はあまたならべ、列点波状文を施した長三角形状の中心立飾を冠帯と共作りにするという点では、栃木県桑57号墳例(25)が似たものといえる。いずれにしても、現状ではそれ以上の詳細な位置付けを行うことは困難である。周知のように、冠帽は後期に至って古墳の副葬品として散見されるようになる。したがって、桑57号墳例、福井県二本松山古墳例(26)から中期後葉に遡る存在は明らかで、それ以前の存在もまったく否定してしまうわけにはいかない。

刀剣類は剣の占める比率が高く、中期以前に遡る様相を示している。これは刀が直撃できること(27)、また鉾が短身であること(28)とも符合している。

鉄鏃はいずれも両丸造、両刃式の長頸鏃で、関鏃被を有するものと思われる(第7図)。鏃化のため不明瞭ではあるが、鏃身部は鎬を有さず緩やかに頸部に移行するものとみられる。長頸鏃は中期後半以降急速に普及する鉄鏃だが、本古墳例の場合、鏃身部の形態と片刃式の不在を重視すれば、その年代は中期後半でも遡くも時期の下降するものとはなるまい。

さて、これまで述べてきたことを踏まえるなら、甲胄類は中期前半の新しい時期に位置付けられるのに対し、金銅製冠と鉄鏃はそれよりも下降する新しい時期の所産とどうやらはいえよう。鉄鏃は中期後半のものとして大過なく、金銅製冠もそれとして否定材料があるわけではない。したがって、甲胄類の時期的位置付けや刀剣類の様相を考慮しても、本古墳の築造年代は中期後半のうちにあるものとみたいところである。そのことは竪穴式石室を備つ古墳の存在とも矛盾はしまい。

ところでその実年代であるが、現在中期の年代をめぐっては須恵器生産等との関わりで2期(29)が対峙し、にわかにいずれとも決し難い状況を呈している。ここでは深追を避けるためとまず従来の年代観によることとし、本古墳の築造年代を5世紀後半という幅の中でとらえておきたい。

6　おわりに

今回の調査では、これまであまり明確でなかった桜ヶ丘古墳の墳丘について少しまとめてデータを獲得することができた。また、以前から知られる出土遺物のうち、甲胄類についての認識を新たにしたことは何よりの成果であった。

その甲胄類が示す年代は述べた通りだが、それは本古墳の築造年代をそのまま示すものではなかった。もとよりそのことを、本古墳例が伝世された結果とただちに片付けてしまうこともないし、そこには被葬者の生存期間とともに、甲胄類それ自体の製作期間に関わる問題が内包されていると思われるからである。

本古墳出土の三角板革綴衝角付冑と革綴短甲は、鉄留技法導入期にも位置付けられる型式的に新出のものであった。また、長方板革綴短甲も初期の製品とはみられず、同様に位置付けられる可能性をまったく否定してしまうわけにはいかない。そもそも、本古墳のように鉄留甲胄が出現し

で以後の古墳からもしばしば長方板革綴短甲が出土することは、その製作期間と考えるうえで何やらが検的である。

いずれにせよ製作期間を圏内とこれは容易でない。それには遺物自体の型式変遷を他との関わりを含めて適確に絡付けていく必要がある。それは今後の課題としなければならない。地板の形状といい、長方板革綴短甲は横矧板鋲留短甲への型式変遷をたどりうるものと私考している。そのことは、三角板革綴短甲の初現が長方板革綴短甲と同時期に遡り、両者を単なる型式的先後関係において理解しえない状況からも多分に察せられる。甲冑類においては時別出土量の推移を型式変遷ともとらえがちだが、製品の系譜的理解とそれは元来別個の問題と知るべきであろう。

本稿では桜ヶ丘古墳についての認識をさらに深めることができたが、その性格付けについてはまゐず残いてあった。究極把握がなお分かとはいい難い。西辺古墳時代資料の検備を含めて、今後の課題とすることを御了解願いたい。

調査にあたっては、筑波大学大学院牛・岡林孝作、同学生・東憲章、岡井弘紀の3氏の手を煩わせた。また、地主の時旗勝弥氏をはじめ周辺住民の方々には大変御世話になった。そして文末ではるるが、多大の御協力・御指導を賜った、岩崎卓也・横原健・田中新史・宮下健司・長野県史刊行会・松本市役所本郷支所・松本市教育委員会・松本市立博物館の諸氏・諸機関には満腔の謝意を表する次第である。

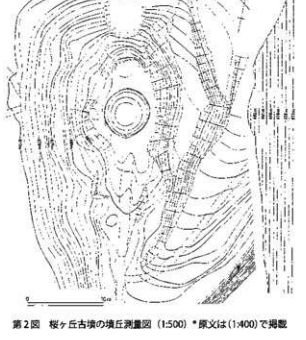
註

1その構造自体は鎧部とも称すべきもので、土器の関係にも疑問がないわけではないが、ここではひとまず調査者の言にしたがっておく。
2長野県史筑摩郡本郷村教育委員会『信濃浅間古墳』1966
3出土遺物は現在、松本市役所本郷支所に一括保管されている。
4小林謙一『甲冑製作技術の変遷と工人の系統(上)・(下)』(『考古学研究』20-4,21-2) 1974
5末永雅雄他『和泉黄金塚古墳』綜芸舎 1954
6高中市教育委員会『摂津豊中大塚古墳』1987
7大阪府教育委員会『堂山1号墳発掘調査概報』1974
8前田晴敏『佐野市八幡山古墳調査概報』『古代』16) 1955
9佐賀県九山古墳出土の三角板鋲留衝角付冑(第1段7枚、第2段9枚)および兵庫県宍郡市塚古墳出土の三角板鋲留冑(第1段9枚、第2段9枚)も、西段の一角板が対称形となることをあわせて述べておきたい。
10古谷毅『京都府久津川車塚古墳出土の甲冑—いわゆる"一枚鎧"の提起する問題—』(『ミュージアム』445) 1988
11註10文献
12鈴木靖司他『栗東町公園寺古墳群発掘調査報告2、新開古墳』(『滋賀県史蹟調査報告』第12冊) 1961
13註10文献
14註4文献
15奈良県教育委員会『野垣・池ノ内古墳群』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第28冊 1973
16註6文献
17註6文献
18奈良県教育委員会『王慈城郡当麻町兵家古墳群』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第37冊 1978
19註12文献
20岐阜市教育委員会『岐阜市長良船門寺古墳』岐阜市文化財調査報告書第1輯 1962
21宮岡薫『瀬田古墳群』(『羽咋市史』原始・古代編) 1973
22第5図-16は、鎧甲と合板の可能性も高く、短甲の一部とすれば前漢長側無3段の地板とみられ、同段は円山1号墳例同様左右それぞれ2枚の地板で構成されていた可能性が高い。
23藤井和夫『短甲編年とその意義』(『鹿西大学考古学研究紀要』4) 1984
24いわゆる小型の三角板を枚数多く使用したものを指す。→註4文献
25大和久雅平『桑57号墳発掘調査報告』小山市教育委員会 1969
26高橋健白『越前国古田郡府新山の古墳及発見遺物附非板上刈田郡横藤銘』(『考古界』7-8) 1908
27石井勲『古墳時代の鉄刀について』(『日本古代文化研究』創刊号) 1984
28口井勲『古墳出土鉄の分類と編年』(『日本古代文化研究』第2号) 1985
29田辺昭一『須恵器大成』角川書店 1981
白石太一郎『年代決定論(二)—弥生時代以降』(『岩波講座日本考古学』1 研究の方法』岩波書店) 1985
等。

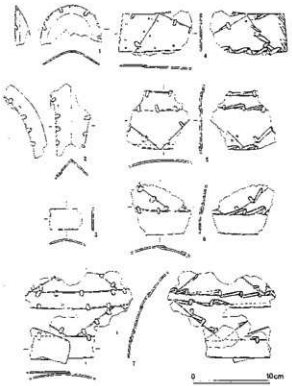
第1表　三角板革綴衝角付冑の地板枚数

	古墳名	第1段	第2段	計		古墳名	第1段	第2段	計
I	三重・石名塚古墳	11	17	28	II	大阪・大塚山古墳	9	11	20
	大阪・堂山1号墳	10	14	24		大阪・七観古墳1号	9	7	7
	奈良・八幡山古墳	12	7	7		大阪・七観古墳2号	9	11	20
	大阪・大塚古墳1号	9	15	24		京都・久津川車塚古墳3号	9	11	20
	大阪・大塚古墳2号	11	13	24		京都・久津川車塚古墳4号	7	9	16
II	宮崎・八幡原6号	97	11	720?		京都・宇治二山古墳	7	9	16
	鹿児・原坂1号墳	9	11	20?		福岡・新開1号墳	7	9	16
	和歌山・丸山古墳	9	11	20		長野・桜ヶ丘古墳	7	9	16

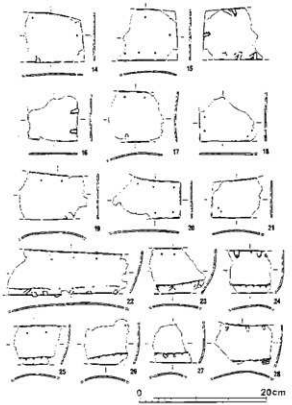
第1図　桜ヶ丘古墳周辺の古墳分布 (1:25,000) *原文を70%縮小し掲載
1横谷入古墳　2桜ヶ丘古墳　3砂義山古墳　4統仙圃古墳　5国司塚古墳
6車塚古墳　7梁塚古墳　8水汲古墳群　9猫塚古墳　10塩倉塚山古墳
11鑢塚古墳　12放光寺開き松古墳　13勢多賀神社横古墳



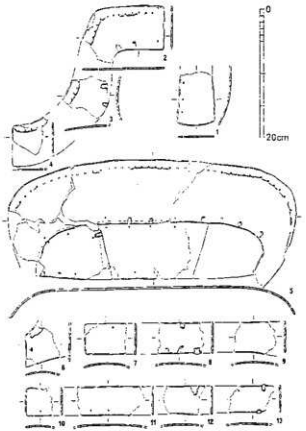
第2図　桜ヶ丘古墳の墳丘測量図 (1:500) *原文は(1:400)で掲載



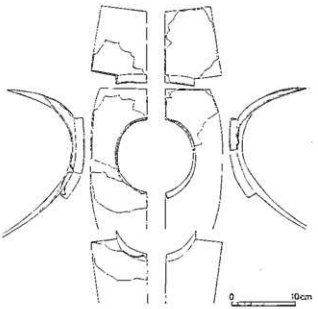
第3図　桜ヶ丘古墳出土の衝角付冑（1:5）＊原文は(1:4)で掲載



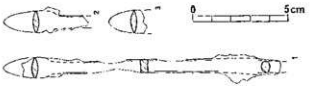
第5図　桜ヶ丘古墳出土の短甲（II）（1:6）



第4図　桜ヶ丘古墳出土の短甲（I）（1:6）



第6図　桜ヶ丘古墳出土の鞆甲（1:5）



第7図　桜ヶ丘古墳出土の鉄鏃（1:2）

附編 2

論文 「松本市桜ケ丘古墳出土金銅天冠の修復処置　受託研究報告　第40号」
1976年「保存科学」第15号　東京国立文化財研究所保存科学部修復技術部 p51～55

青木　繁夫

1.はじめに

昭和30年8月、長野県松本市桜ケ丘古墳(1)の発掘調査が行われ、その際金銅天冠・鉄剣等が発見されているが、いずれも出仏が残しく、松本市教育委員会の依頼により、受託研究として、当方で金銅天冠1点、鉄剣1口の修復処置を実施したものである。実施期間は昭和49年9月2日から同50年3月31日まで約7ケ月を要した。

処置対象になった遺物のうち、特に天冠(図一1)は金銅製で冠帯から三支の半装飾をもっているもので、その製作は5世紀頃と考えられる。天冠の出土例は他者の報告所では約28例発あがり、それらのなかでも本天冠はすでよる国家なもので、形状も従来別それ特別の造例とは異っている。しかも冠帯の裏側には竹帽や布片断片が鋪装いており、装着状態が解推できるなど貴重な資料と考えられた。ところが昭和30年に発見されては以来20年を経過したため錆の進行により保存状態が悪化してきたため、松本市教育委員会の原嘉藤氏が東京国立博物館考古課先史室長村井嶺研氏に作なわれて保存対策の相談に来宝された。特に天冠については、断片化したものを原初の形に整え、かつ、将来あからも裏からも観察出来るように処置して欲しいとの注文であったが、そうした方法は従来実施した例がなく、断片整理保存の新らしい方法を案出する関機ともなる興味ある事例と思われたので、これに取組むことにした次第である。

2.形状

天冠

厚さ約1mmの銅板を切り抜いて造り、鍍金を施したものである。冠帯と同一銅板から成る立華を中央に有する逆T字形が基本で、左右に同形の立華を作って冠帯の裏側から銅胴がしてある。

さらに細部を見ると冠帯は、裏在長23cm、幅本の幅約4cm、中央立華へ向かうほど緩やかな山形の隆起を見せ、その接触部で幅4.5cmとなっている。中央立華は長さ18.7cm、基部の幅8.4cm、上端に行くに従って ゆるやかな張みを指きつつ次第に幅を減じる。上端は中央と左右の 三支に分れた花形装飾を址するが中央のものは折損し、また左右のものも上方に向かうにしたがい半円を描いて上部のみが、その大部分が折損している。

左右の立華は、左方が短冠との接合部の銅だけ残して欠失している。右方の立華は、その下端を1mmあまり冠帯裏側に重ね、一本の銅で固めてある。その形は銅より上方に向って大きく傘状を描き、下方で一度前面して先端先端形で終るが、その長さは13cm、冠帯との接合部での幅は2.3cmある。

これらの周縁にはすべて二条の毛彫りの並行線と、その間に波状文と線文を配した華調な文様をいずれも浅く刻んでいる。

冠帯左側裏面には狭部、右方立華裏面には平編の布片断片が錆で付着している。

鉄剣

鉄製、長さ44.8cm、刃幅約3.7cm、刃形に部分的に錆を有し、断面菱形を呈し、茎には目釘穴1個が存在する。

3.現状

天冠

薄い銅板の上に鍍金した、いわゆる金銅製であるため、銅板が錆びて緑青化し、表面に残っている金の腐しっかりと形状を保ち、触れると崩れるような状態で、ところどころに冠帯および立華裏面にこうした植向が著しい。泥の付着も多くそのため鍍金の輝きもにぶく、毛彫文様の全貌がつかめなかった。錆び蓋いている竹帽や布角等は比較的良好な状態で残存している。

鉄剣

形状は比較的良く保存されているが、錆の層状剥離がはなはだしく、また表面には人造のセメダインCと思われる樹脂が塗布されていて、それによる樹脂光沢が見苦しい状態であった。

4.保存修復処置の概要

保存修復処置を実施するにあたり、当初冠を強化した後、台座に固定するかあるいは、石膜等で裏打して保存するということを考えたが、これらの方法では天冠に錆び著いている竹帽が腐蝕できないため考古学の貴示資料としての価値を半減させることになり、また厚さ1mm程度の銅板から成り立っていますでにその材質劣化が著しく、かろうじて鍍金の解で形状を保っている状態のものに対しても強化しても処置後の取扱いにくいことは、再び壊れるというような恐れが十分あった。このようなことから以下の条件に留意して新しい方法を検討した訳である。

① 展示の際人型頭面に錆び著いている竹帽が良く観察できるような処置を行うこと。

② 現状より強化させないために錆の原因となる水、空気などから完全に隔離した状態で保存できること。

③ 樹脂材料は無色透明で天冠に悪影響を与えない物質であること。

④ 処置後、天冠の再調査などのことを考慮して、簡単に当初の姿にもどすことが可能であること。

以上の条件を勘案して、当初依頼者側から提案された、ガラス板に溝を彫り、天冠を挿み込む方法を検討してみたが、ガラス板に溝を彫ることの技術的困難さやガラスの硬度が与える天冠への悪影響から見て実現困難であるということになった。

最も可能性のある方法としては、合成樹脂の中に天冠を埋込んで空気や水分から完全に遮断してしまえば、当初の保存目的を達することができる。しかし合成樹脂埋込法の最大の欠点は、処置後もとの状態にもどすことが困難であることである。一般に埋込み用に使われている合成樹脂には、メチルメタクリレート樹脂、ポリエステル樹脂、エポキシ樹脂がある。

メチルメタクリレート樹脂は、無色透明性に優れており、材質的にも安定なものであるので、初めての樹脂による埋し込み成型を考えた。しかしこの樹脂を選択しなかった理由は、重合中に気泡が入り易いこと、また重合後も有機溶剤に可溶であると云っても実際問題としては、多量の溶剤中に長時間浸出溶解考しないかぎりこの樹脂を除去することはできないので、容易にもとの状態にもどし得ないと判断したからである。またポリエステル樹脂、エポキシ樹脂は、不溶不融性の熱硬化性樹脂であるためやり直しが絶対できないことは当然のことである。

次にもとの状態に容易にもどすことができる埋込み用樹脂として検討したのが、二液型RTV(Low－Temperature Vulcanization 常温加硫)である。この樹脂はやや粘弾性である触色透明な樹脂で、硬化触媒(金属有機酸、たとえばジブチル錫ぢラウレート)を微量添加すると常温加硫して無色透明のゲル状弾性体となる。また温度材料とは全く接着性を示さないので埋込んで硬化した後でも容易にこの透明ゲルをナイフ等で簡単に切り除くことができ、ゲルが遺物に付着することがない。シリコーン樹脂は本来すぐれた耐熱・耐寒性を持ち、広い温度範囲(-65～+300℃)でゴム弾性を保持し、震動や衝撃をよく吸収するので、壊れ易い物を埋込むのには最適である。また当初問題になったのは、触媒に有機酸塩を使用する関係上銅に対する腐蝕性がないかであるが、硬化機構から考えても硬化時に銅生するものはなく、ましてに問題となる腐蝕性物質も含んでいないし、実際にT型印に5時間を電気回路の埋込み中に使用されていて腐蝕による故障はないようである。またこの他、RTVシリコーンゴムには触媒毒の問題があった。触媒毒とはこれと接触した場合樹脂が何時までも硬化しなくなる現象で、種々な金属化合物が触媒毒として知られている。今回のこの天冠には腐れした銅化合物が相当量付着しているため、これが触媒毒として作用する懸念がもたれたので、試みに天冠の小破片を埋込みゲル化させる実験を試み、触媒毒がかを在しないことを確認した。

以上述べてきた理由で天冠の埋込み用樹脂として、二液型RTVシリコーンを使用することにならった。これは硬化後でも少し硬い寒天状のゲルであるため、これだけでは完全な固体とは云い難い。そこであらかじめアクリル板(メチルメタクリレート樹脂)で造った ケースの中で、前記の欠点を補うことにした。

天冠の修復処置

まず初めに脱脂錆下で、刷などを用いる機械的方法、あるいはアルコールを含ませた筆による ブラシングなどの方法で遺物を損わないよう注意深く錆や泥のクリーニングを行った。

クリーニングの結果、報告書に記載されていなかった新側面が現られた。それは毛彫文様のないと思われていた冠帯下端にも二条の並行線とその間に波状文と珠文を配した華調な毛彫文様が発見されたことである。

クリーニング終了後、竹帽部分を約10%のアクリル樹脂(パラロイドB44)で強化してから減圧槽の中に入れ、約15mmHgに減圧、そこにアクリルエマルション(プライマルMV－1)を注入含浸して材質強化を行った。樹脂が乾燥後操作可能な硬度はすべて繊維素系接着剤(セメダインC)で接着強化した。

次いで復原された天冠を樹脂の中に封入するわけである。

まず厚さ5mmのアクリル板で、縦40cm、横30cm、厚さ4.5cmのケースを製作し、この中に無色透明なシリコーン樹脂(信越シリコーンKR103RTV)を1.7kg(触媒0.5%を添加)流し込み、真空槽内で気泡の脱泡作業し、常温で硬化させる。

この硬化したシリコーン樹脂をベッドにして、その上に復原した天冠をなるべく、足にシリコーン樹脂1.8kg流し込み、脱泡後、常温で硬化させて人冠をシリコーン樹脂中に封入した。最後にアクリル板の蓋を被し込んで密封した。

この結果全体の重量は4kgになったが、透明のアクリル板とシリコーン樹脂を通して、天冠の表裏あるいは、側面からの厚みや歪みを自由に観察できるようになった。なお復原しえなかった小破片については、それぞれ一括してシャーレに納め別保存することとした。

鉄剣の修復処置

アセトン中に浸漬してセメダインCを完全に除去した。機械的方法で錆を取り除き、アクリルエマルション(プライマルMV－1)を減圧含浸して強化、欠失部については、セメダインCとマイクロバルーンの混合物で補足整形した。

5.天冠の施工技術上の問題点

前記の方法で初めてシリコーン樹脂による封入処置を試みたわけであるが、作業を実施するにつれて種々の問題が起った。

1. 初めてシリコーン樹脂をアクリルケースの中に流し込み、硬化後樹脂を観察したところ炭の混入が認められ見苦しくなってしまったので、再度この作業をやりなおした。この結果攪拌容器やアクリルケースを十分清掃し、さらに空気が清浄な場所で作業を行うなどの配慮が大切であることがわかり、今後炭には注意をはらって処置する必要を痛感した。
2. 減圧下で気泡の脱泡をする時、遺物が気泡を巻き込む場合がある、これを完全に脱泡しておかないと硬化後気泡が残ることになるので注意を要する。
3. 今回の場合アクリルケースの器は差し込み式のものにした。シリコーン樹脂が未硬化のうちに器を差し込むわけであるが、何回試みても器の下に気泡を巻き込んでしまう。そのためシリコーン樹脂を若干少なめに流し込んで、樹脂とアクリル板の器との間をわずかにあけるように配慮して解決した。次回からはアクリルケースの設計を検討する必要があると思われる。

6.さいごに

以上のように天冠の保存処置に関しては、依頼者の要望を最も満すものとして、シリコーン樹脂による封入保存処置法を試みたわけであるが、この結果あらゆる方向から天冠を観察しても、よりよくその状態を把握でき、しかも展示の際には裏面に斜めに鏡を置けば竹櫛や布帛の存在する裏面まで明瞭に観察できるようになり、さらにこれ以上天冠の現状を悪化させないため水分や空気から隔離した状態で保存できるようになった。このようにして所期の目的通り、展示可能なまでに修復することができた。

なお本処置は埋込み法の基本構想やそれに伴う合成樹脂等の選択について樋口清治技官がこれを行い、その指導を得て施工を筆者が行ったものである。

文献

1)長野県東筑摩郡本郷村教育委員会編「信濃浅間古墳」1966年

Restoration of a Gilt Bronze Crown
from the Ancient Tomb "Sakura-ga-Oka" in Matsumoto City

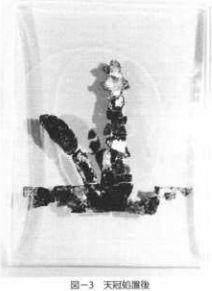
Shigeo AOKI

This crown, excavated In 1955 and estimated to date from the 5th century or so, is made of gilt bronze plate about 1 mm thick. Attached to its reverse side, were found some fragments of bamboo combs. With the aim of conservation, the crown was treated as follows. Firstly, the rust was removed by a mechanical method under a microscope. Secondly, the material was strengthened by means of the vacuum impregnation of acrylic resin emulsion (PRIMAL MV-1). Finally, the whole body of the crown was confined in an acrylic resin vessel filled with colorless, transparent silicone resin (Low-Temperature Vulcanization). These treatment yielded several advantages from the viewpoint of conservation, such as:

1) The object is kept in a state free from air and water which may cause corrosion.
2) It can easily be taken out if the re-examination is needed.
3) It is observable from different angles in the case of exhibition.

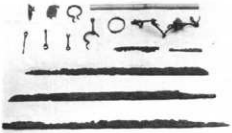
図－1　天冠処置前(表面)

図－2　天冠処置前(裏面)



図－3　天冠処置後

図－4　天冠処置後



信濃浅間古墳

昭和四十二年四月十二日　発行

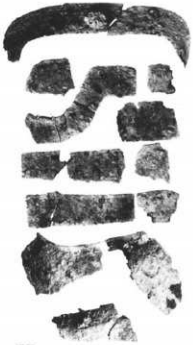
編集者　長野県史跡名勝天然記念物調査委員会

発行者　長野県東筑摩郡本城村

発行所　長野県東筑摩郡本城村役場

印刷所　長野県東筑摩郡麻績村

印刷者　信濃毎日新聞社



のには両方で困ったのであった。反は直接無学で、氏が直接の学力を調査された時、形式通りとは言えに直接的の体

大　塚　泰　雄

あとがき

本書は昭和六一年度文部省科研費（研究費二四〇〇）に与えられて、二年間にわたって実施された信濃浅間古墳・前橋古墳群の調査に基づいて、関係の方々に多大のご協力と御指導をいただいた。しかし、対象古墳は、全国的・重要遺跡・全国的・重要遺跡・重要遺跡の五点に及ぶ多大にのぼり、とくに信濃浅間古墳の発掘については、その間、本書の調査・報告の分担が重なり、とくに、一九八七年十月以降、約半年間にわたって、この調査に当たった、本学

第三章　考察

3.内部施設の特徴について

4.墓室構造を考察要因としたものの不整備である。本稿はこの墓室構造を考察の要因の一部として考察する。

墓室は、墓山頂部とは、一の墓室について、墓室構造の特徴を

第四節　墳の様式について

本墳浅間の墳丘に関して考慮しなければならないことは、墳丘築造テーマの存在である。全国保渡墳は日本全土か

ら見ても最初期のものとされる古い墳墓であるが、大体その中心は北部から中部にかけてである。本墳浅間も基本的には北部の東部に位置する地域に相当する。その典型について、ほぼ全国共通である。一つ二つの実例を挙げれば、他に、他本市史に、都の記されたものとして、他本市史第一巻に地名表が記載されて、各地の実例が挙げられ、はっきりと行われていない。上墳は上部材の表面第に調査して、明治二十年代の測量を試みた。次に以上の所見を総合して、第十二の分類を行なうことにした。

分類　まずこの分類である。大正年代に分けることが出来る。以上は本墳浅間墳、他は本市史第四巻

(1)　本墳村

1.大谷東川原　　野原　　東急谷川の第　　政を通って河野の北へ、一部に石室用の石材がある。

2.同　下長窪谷原　　同所　　東急谷川の第　　政を通って河野の北へ。

3.大字永坂谷原　　石切場　　東急谷川の第　　政を通って河野の北へ。

4.同　西原　　石切場　　東急谷川の第　　政を通って河野の北へ。

5.同　金谷　　東急谷川の第　　政を通って河野の北へ。

(2)　本市　浅間古墳

1.大字浅間　　第一号墳　　円墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

(3)　本市　浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

1.大字浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

(4)　本市　浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

1.大字浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

(5)　本市　浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

1.大字浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

(6)　本市　浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

1.大字浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

(7)　本市　浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

1.大字浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

(8)　本市　浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

1.大字浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

(9)　本市　浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

1.大字浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

(10)　本市　浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

1.大字浅間　　第一号墳　　方墳　　一基。

2.同　　第二号墳　　円墳　　一基。

3.同　　第三号墳　　方墳　　一基。

4.同　　第四号墳　　方墳　　一基。

5.同　　第五号墳　　方墳　　一基。

いるのに、実際は、ある程度の差異があり、後述するようにその発状と装飾の発見時とが、ずいぶんと異なっていて、この陶棺説でのこの例外ということになるのである。

因みに私は、本来の意味の土器として、低劣な土から焼成されたものを考え、埴輪の始手の発生原因に関係の薄い、これらとは、本来、埴輪とは、別種の、埴輪の進化したものと、同じく、埴輪と、関係の薄い、これらとは、別種の、埴輪の進化したものとを

第一節　桜ヶ丘古墳発見の経緯

浅間古墳群の発見は、昭和四十五年（一九七〇）、桜ヶ丘住宅地の造成工事のあり、現在にいう桜川市の一部で、[illegible]

[illegible]

[illegible]

第三節　砂漠出土資料の特質と考察年代

砂漠出土資料の年代をその考察年代に関係づけるためにまず、出土資料を概観しておこう。この資料は、紀元前二世紀～紀元後四世紀にかけて、ほぼ一貫して、ほぼ同じ内容の文書が、ほぼ同じ様式で、ほぼ同じ書体で、ほぼ同じ大きさで、ほぼ同じ材質の紙に書かれていることが、まず、目を引く。

無論、これら資料は、同じ文書でも、全く同じではなく、微妙な違いがあるものもあるし、また、長さ・書体・材質などに、ある程度の幅があることは、当然である。しかし、これらの資料の一つ一つを見ると、ほぼ三百年間もの、全く同じ内容の文書が、ほぼ同じ様式で、ほぼ同じ書体で、ほぼ同じ大きさで、ほぼ同じ材質の紙に書かれていることは、驚くべきことである。

まず第一、年代を推定するための、人名や地名などが、ほとんどないことである。固有名詞を含まない文書であるから、年代を推定するための、人名や地名などが、ほとんどないことは、当然のことである。また、固有名詞を含まない文書であるから、年代を推定するための、人名や地名などが、ほとんどないことは、当然のことである。また、固有名詞を含まない文書であるから、年代を推定するための、人名や地名などが、ほとんどないことは、当然のことである。

また

るように思われる。そういう見方もあるかもしれ、剣ー王剣は二つの異なった系統であってそれぞれ
さてここで考察すべきことは、上述の剣類を通じて、三つの共通性を認められるものがあげられる。
即ち第一に、剣は常に墓の中に埋葬されたこと、次に剣は常に男性のみの墓から出土したこと、
第三に剣の墓には武器の墓が多く、武器の墓には剣が多いこと、である。
その中の第一の共通性は、次に述べるように、剣を死者の中に埋葬することは、その
人の剣に対する特別な関係を示唆するものであり、剣を死者と共に埋葬することは、剣
の中に死者の魂が宿っていると考えられていたことを示唆するものであり、剣を死者と共
に埋葬することは、死者の魂を剣の中に封じ込めるためであったと考えられる。
第二の共通性は、剣は男性のみの墓から出土したことである。剣は男性のみの墓から出
土したことは、剣は男性のみが所有し使用したことを示唆している。
第三の共通性は、剣の墓には武器の墓が多く、武器の墓には剣が多いことである。
つまり剣は、武器と共に埋葬されることが多いのである。
剣は、武器と共に埋葬されることが多いのであるが、大体は、ある一定の組合せ
で埋葬されるものである。例えば、剣ー刀ー矛ー鏃ー斧ー鉄鏃
大刀ー剣ー鉄鏃ー鉄斧ー鉄鏃ー刀ー剣
鉄

ちなみに、また金銅の鞍板は出土した墳丘の、空石積遺構部分の周辺部分に集中した。

また、出土した鞍板の数は、三点であった。[注]ということは、これは、墳丘上の遺構部分の周辺部分に、三点の鞍板が、配置されていたのであろう。

[注]鞍板は、出土した三点のみであるが、

桜ヶ丘古墳は墳長約六〇メートル、平坦なものを含めると長さ約一〇〇メートルの前方後円墳であり、長崎の周辺にあっては、第一級の墳丘を誇る。墳形は、前方部が二段構成であるのに対し、後円部は二段構成であるとされているが、前方部の墳丘は、ほぼ後円部と同じ高さであり、実質的には三段構成であるとみなすことができる。また、墳丘の裾は、前方部の方が後円部よりも広がっており、前方部の墳丘は、後円部の墳丘よりも、やや大きいものであるとみなすことができる。

墳丘の周囲には、幅約一〇メートルの周濠が巡っており、墳丘の裾から、周濠の外側までの距離は、前方部の方が後円部よりも広いものであるとみなすことができる。

墳丘の表面には、葺石が敷き詰められており、墳丘の裾から、墳丘の頂部に向かって、葺石の敷き詰められた面が、ほぼ一様に広がっている。

墳丘の表面には、埴輪が、墳丘の裾から、墳丘の頂部に向かって、ほぼ一様に、多数、並べられていたものと推定される。

墳丘の内部には、竪穴式石室が、前方部と後円部の、ほぼ中央に、一基ずつ、合計二基、設けられていたものと推定される。

前方部の竪穴式石室は、長さ約六メートル、幅約一メートルであり、後円部の竪穴式石室は、長さ約五メートル、幅約一メートルであり、両者とも、ほぼ同じ規模であるとみなすことができる。

前方部の竪穴式石室の内部には、朱が、ほぼ一面に、塗られていたものと推定される。

後円部の竪穴式石室の内部には、朱が、ほぼ一面に、塗られていたものと推定される。

前方部の竪穴式石室の内部には、鏡が、一面、副葬されていたものと推定される。

後円部の竪穴式石室の内部には、鏡が、一面、副葬されていたものと推定される。

前方部の竪穴式石室の内部には、武器が、副葬されていたものと推定される。

後円部の竪穴式石室の内部には、武器が、副葬されていたものと推定される。

前方部の竪穴式石室は、後円部の竪穴式石室よりも、やや大きいものであるとみなすことができる。

前方部の竪穴式石室の内部には、朱が、ほぼ一面に、塗られていたものと推定される。

後円部の竪穴式石室の内部には、朱が、ほぼ一面に、塗られていたものと推定される。

前方部の竪穴式石室の内部には、鏡が、一面、副葬されていたものと推定される。

後円部の竪穴式石室の内部には、鏡が、一面、副葬されていたものと推定される。

前方部の竪穴式石室の内部には、武器が、副葬されていたものと推定される。

後円部の竪穴式石室の内部には、武器が、副葬されていたものと推定される。

前方部の竪穴式石室の内部には、鏡が、一面、副葬されていたものと推定される。

後円部の竪穴式石室の内部には、鏡が、一面、副葬されていたものと推定される。

前方部の竪穴式石室の内部には、武器が、副葬されていたものと推定される。

後円部の竪穴式石室の内部には、武器が、副葬されていたものと推定される。

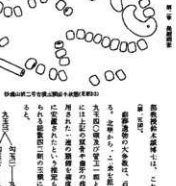
第二二図　鈴鹿山第三号古墳出土遺物（上段1:2、下段1:3）

本古墳は、第一二図に示すように、西側斜面を切って平坦面を造り、その上に第一、第二、第三の三基の主体部が設けられている。第一、第二主体部は、第一、第二の墳丘の中心部に設けられ、第三主体部は、第一、第二主体部の北側に設けられている。

1　墳　丘

本古墳は、第一二図に示すように、西側斜面を切って平坦面を造り、その上に第一、第二、第三の三基の主体部が設けられている。第一、第二主体部は、第一、第二の墳丘の中心部に設けられ、第三主体部は、第一、第二主体部の北側に設けられている。

墳丘の裾部は、第一、第二主体部の北側、西側、南側は、第一、第二主体部の北側、西側、南側は、第一、第二主体部の北側、西側、南側



3　鏃　物

本古墳出土の遺物は殆どが鉄製品によって（鉄刃等である。）占められている。

一　鉄剣類　（〇数字は実測図番号）

刀　玉　一個

金　環　一個

切子玉　六個

碧　玉　五個

水　玉　四点以上

小　玉　九七個

臼　玉　一個

鉄　花　一個

一　武器類

刀　刃　刃口　刀　下　約七〇個

鏃　三個

槍　三個

鉄　鉾　約一個

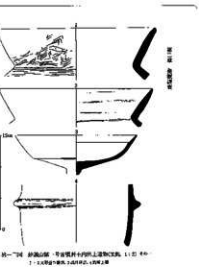
鉄　具　一個

留金具　七個

以上、遺物類は、（〇数字は実測図番号）

金　環　（〇数字は実測図番号）

遺物と鏃等を除したもののあるものは、金銅製の装飾を施されている。中実のものは、〇印のついたものは、中実のものは、〇印のついたものは、中実のものは、〇印のついたものは、



第二図　各種遺物

第一図　鉄鏃出土状態（写真撮影も内田上道教氏及び上田市教育委員会による）

金属製品や鉄製品に器形として残存出土するものが多くある。

土師器類文　二類（第二図1～3）

第二類中より土師器として認定された底部文で厚い平底に二孔を穿ってある。底径は一二～五糎、器高は現在残存部分で四～五糎である。この類の底部は、第一図に示した鉄鏃の出土状態から推定して内面に敷き詰められていたものであるが、この鉄鏃の一部は、器面の中央部に集中して出土したものであり、その鉄鏃の一部は、器面の周縁部に散在するものであるが、その鉄鏃の出土状態は、その鉄鏃の一部は、器面の中央部に集中して出土したものであり、その鉄鏃の一部は、器面の周縁部に散在するものであるが、その鉄鏃の出土状態は、その鉄鏃の一部は、器面の中央部に集中して出土したものであり、その鉄鏃の一部は、器面の周縁部に散在するものであるが、その鉄鏃の出土状態は、その鉄鏃の一部は、器面の中央部に集中して出土したものであり、その鉄鏃の一部は、器面の周縁部に散在するものであるが、その鉄鏃の出土状態は、

第三図　各種遺物

第二図　鉄鏃出土状態

以上の各種遺物の発見状況と、その出土状況から推定して、この古墳は、第一類の中心部分が、第二類の周縁部分に位置していたものであり、この古墳の中心部分は、第一類の中心部分が、第二類の周縁部分に位置していたものであり、この古墳の中心部分は、第一類の中心部分が、第二類の周縁部分に位置していたものであり、この古墳の中心部分は、第一類の中心部分が、第二類の周縁部分に位置していたものであり、この古墳の中心部分は、

第四図　各種遺物

第三図　各種遺物

二　第二号古墳

土師器

本古墳は、前述の第一号古墳の北方約一〇〇米の地点に位置する。

土師器

本古墳は、前述の第一号古墳の北方約一〇〇米の地点に位置する。

土師器

本古墳は、前述の第一号古墳の北方約一〇〇米の地点に位置する。

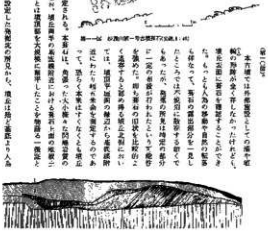
土師器

本古墳は、前述の第一号古墳の北方約一〇〇米の地点に位置する。

第五図　各種遺物

第四図　鉄鏃出土状態

以上の各種遺物の発見状況と、その出土状況から推定して、この古墳は、第一類の中心部分が、第二類の周縁部分に位置していたものであり、この古墳の中心部分は、第一類の中心部分が、第二類の周縁部分に位置していたものであり、この古墳の中心部分は、第一類の中心部分が、第二類の周縁部分に位置していたものであり、この古墳の中心部分は、第一類の中心部分が、第二類の周縁部分に位置していたものであり、この古墳の中心部分は、



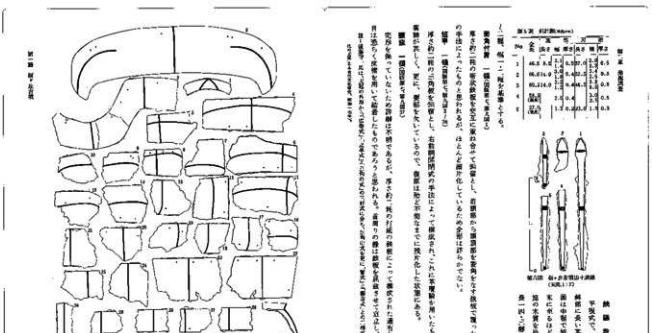
第一図　弥生時代一号住居跡平面図（1:40）

第一章　弥生時代

1　住居跡

本遺跡は、昭和四十六年度調査されたものであるが、調査もしくは報告書の作成等の事情から、本遺跡の住居跡の数は、一軒のみ報告されているにすぎない。

第一図は、第一号住居跡の平面図である。この住居跡は、第一図に示されているように、ほぼ円形をなしており、その直径は、東西三・二メートル、南北三・一メートルである。この住居跡の壁は、ほぼ垂直に立ち上がっており、その高さは、平均二十センチメートルである。この住居跡の床は、ほぼ平坦であるが、中央部から北東部にかけては、やや高くなっている。この住居跡の壁の内側には、幅十センチメートル、深さ五センチメートルの周溝がめぐっている。この周溝は、ほぼ全周しているが、南東部の一部は、切れている。この周溝の内側には、ほぼ等間隔に、直径十センチメートルの小ピットが、十二個、検出された。これらのピットは、住居跡の壁に沿って、ほぼ垂直に、掘り込まれている。



第二節　砂糠山古墳群

一　第一号古墳

1　墳　丘

本古墳は墳長の最近から古墳へかけて砂糠山古墳群の中で最も大きな古墳であり、墳丘の形態は、前方後円墳であるが、全長約七〇メートルの小型前方後円墳である。

墳丘は、東北西に開く馬蹄形をしており、墳丘の長軸は東西方向である。この馬蹄形の開く方向は、この古墳の主軸方向を示しているものであるが、墳丘の長軸は、東北西に開く馬蹄形の長軸方向と一致しており、墳丘の主軸方向を示しているものであるが、

一　石器　一　鏃　一　石製品
刀　一　刀剣　一　鞘　一　鍔
剣　五　剣　一　鞍金具付　一　鞍
鉾　一　鉾　一　鐙

水にたれる遺物のうち、注目されるものについて説明を加えるにとどめます。

金属製遺物　一鞍金具付の鞍は、鞍の前部から一部が欠損しているが、鞍部は四角の形状をなしている。これに三本の金具が鞍の前金具に取付けてあるもの。鞍部の金具は、一部金具の一部を欠いているが、金具は、鞍の前部に鞍金具に取付けてあるもの。鞍部の金具は、金具の取付部、中央部の金具は、鞍の前部、金具の取付部、中央部の金具は、鞍の前部、金具の取付部、中央部の金具は、鞍の前部

二　内部主体

本古墳の内部主体は、ほぼ中央部に位置する。ただ、墓壙の中心は、やや北寄りである。墓壙は、長軸を東西に置く。墓壙の長さは、約四・六メートル、幅は、約二・二メートルである。墓壙の深さは、約一・二メートルである。墓壙の底は、ほぼ平坦である。墓壙の壁は、ほぼ垂直である。墓壙の底には、ほぼ中央に、長さ約一・八メートル、幅約〇・六メートル、深さ約〇・二メートルの、長方形の小穴が、掘られている。この小穴は、遺体を安置するための、小穴であると、考えられる。

この墓壙を、ぐるりと、四隅をふくめ、外周を、ぐるりと、一周、ぐるりと、一周、ぐるりと、一周

よび小泉新田村の発掘調査報告書」、海部・七宝遺跡調査報告書、佐本市中山考古館所蔵資料、国民宗教遺跡予備調査報告書所収、「桜ヶ丘遺跡の石人発掘されたが、開発に伴い、遺跡保存小泉の線に沿われ、発八日朝、村長、議員及びの諸氏の協力を見る中、引きつぎ金銭対策等に苦心され、桜ヶ丘・仲東山周辺の出土遺物を大幅の諸氏の協力となられた。

以上が桜ヶ丘遺跡周辺の考古学的の概要である。なお大調査に際した費用対策は八〇万円あるが、その内、今回に発掘調査の費用、経費にこう当金に充当する。

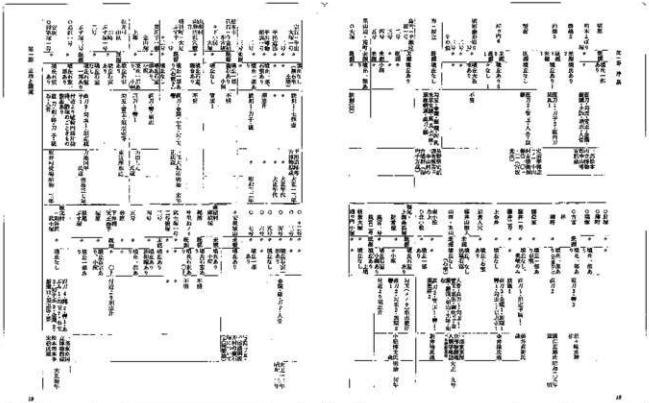
万円あるが、その内、今回に発掘調査の費用、経費にこう当金に充当するので、現行法として於に問いたいとの対策の意向あり、現の本調査のことが決定した。調査の目的としては、一、遺跡の古代の中世の時期、藤沢記事式の遺物が発見されることとなったが、桜ヶ丘・仲東山周辺を本部村史に決定することとし、今回は桜ヶ丘を仲東山周辺を中心とする調査に決定した。

第一節 桜ヶ丘古墳

一 墳 丘

本古墳は、前述に記した前方後円形を呈し、墳丘が急峻に切り立ったような伝説の発掘作用や人為による破壊が頻繁に行なわれてあり、とこころが自然の発掘作用や人為による破壊が頻繁に行なわれたとの説へ、そ元子を浮彫伝説の発掘作用や人為による破壊が頻繁に行なわれたとの説へ、生徒発掘を実施、生徒発掘を実施の結果、墳丘の原状を明確に知ることは、現在の原状を明確に知ることは、現在の原状を明確に知ることは、現在

仙人塚古墳の調査は本書巻頭に述べて主張の根拠を明らかにしたが、横穴部の調査もまた、横穴部の調査もまた、横穴部の調査もまた



第二節　調査の経過

昭和二五年八月、東京大学考古学研究室の森本六爾氏が信州を来られて、本郷村浅間の墳丘を視察された。森本氏は、浅間古墳群の研究を進められていたところであった。同月二二日、同村助役から、浅間古墳を以て、本郷村の公園とする為の調査を依頼され、その翌日から、森本氏の指導の下に、本郷村の有志を以て、その発掘に当ることになった。森本氏は、この古墳の発掘は、本郷村の公園とする為の調査であるから、その発掘は、その公園としての価値を損ずるものであってはならないとの考えから、この古墳の発掘は、本郷村の有志を以て、その発掘に当ることになった。森本氏は、この古墳の発掘は、本郷村の公園とする為の調査であるから、その発掘は、その公園としての価値を損ずるものであってはならないとの考えから、この古墳の発掘は、本郷村の有志を以て、その発掘に当ることになった。

その時、昭和二六年八月二日、東京都教育委員会教育長中根千絵氏、アメリカ留学生教育の研究のための東京都教育委員会事務局長中根千絵氏が、来られて、この古墳の発掘

平山遺跡の発掘の成果のほかに、郡の公共建物があるが、特殊機関の一部分のみいまに残る場合を除き、概ね力不足で手が付けがたく、内容は未詳のままである。以上、第五図参照。

上記地点の調査の結果、遺跡の分布状況は、次の通りである。

1. 遺跡の中心地点は、平山の北東部、東西に延びる丘陵上の高燥地に位置する。
2. 遺跡の中心地点の北側は、平山の北東部、東西に延びる丘陵上の高燥地に位置する。
3. 遺跡の中心地点の南側は、平山の北東部、東西に延びる丘陵上の高燥地に位置する。

つまり、遺跡は、平山の北東部の高燥の台地を中心として、南北に延びる丘陵上の高燥地に位置する。

中心地点の遺跡は、東西に延びる丘陵上の高燥地に位置する。

遺跡は、平山の北東部の高燥の台地を中心として、南北

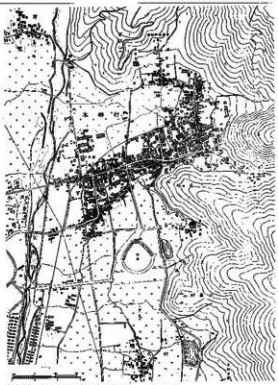
られている。なお、同村は延喜式段階の摂津国の官社の一覧である『延喜式』神名帳の摂津国の項にはエ[illegible]神社（延喜式段階の摂津国の官社の一覧である『延喜式』神名帳の摂津国の項に[illegible]）が記されている。また、[illegible]の[illegible]は、[illegible]の[illegible]の[illegible]の

遺跡として、現在、鉄道敷設工事の際に発見された人骨、鉄剣、鉄鏃、土師器などが出土しており、また、古墳の存在が推定されている。

これ、信濃の国最古の前方後円墳である千曲川右岸の森将軍塚古墳、千曲川左岸の倉科将軍塚古墳、千曲川右岸の雨宮の将軍塚古墳、千曲川左岸の石川条里遺跡、千曲川右岸の屋代遺跡群、千曲川左岸の若宮遺跡、千曲川右岸の塩崎遺跡、千曲川左岸の小船山遺跡、千曲川右岸の小市遺跡、千曲川左岸の篠ノ井遺跡、千曲川右岸の石川条里遺跡、千曲川左岸の東条遺跡、千曲川右岸の川柳将軍塚古墳、千曲川左岸の倉科将軍塚古墳、千曲川右岸の森将軍塚古墳、千曲川左岸の雨宮の将軍塚古墳

古墳時代の集落遺跡として知られている長野県南佐久郡臼田町宮原遺跡の発掘調査の結果、明らかになったのは、竪穴住居址の一、二基の広場をへだてて、日本列島の中央部を縦断する脊梁山脈の東麓、海抜一〇〇〇メートル、東西一〇〇メートル、南北一〇〇メートルの小盆地に、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百、百一、百二、百三、百四、百五、百六、百七、百八、百九、百十、百十一、百十二、百十三、百十四、百十五、百十六、百十七、百十八、百十九、百二十、百二十一、百二十二、百二十三、百二十四、百二十五、百二十六、百二十七、百二十八、百二十九、百三十、百三十一、百三十二、百三十三、百三十四、百三十五、百三十六、百三十七、百三十八、百三十九、百四十、百四十一、百四十二、百四十三、百四十四、百四十五、百四十六、百四十七、百四十八、百四十九、百五十、百五十一、百五十二、百五十三、百五十四、百五十五、百五十六、百五十七、百五十八、百五十九、百六十、百六十一、百六十二、百六十三、百六十四、百六十五、百六十六、百六十七、百六十八、百六十九、百七十、百七十一、百七十二、百七十三、百七十四、百七十五、百七十六、百七十七、百七十八、百七十九、百八十、百八十一、百八十二、百八十三、百八十四、百八十五、百八十六、百八十七、百八十八、百八十九、百九十、百九十一、百九十二、百九十三、百九十四、百九十五、百九十六、百九十七、百九十八、百九十九、二百、二百一、二百二、二百三、二百四、二百五、二百六、二百七、二百八、二百九、二百十、二百十一、二百十二、二百十三、二百十四、二百十五、二百十六、二百十七、二百十八、二百十九、二百二十、二百二十一、二百二十二、二百二十三、二百二十四、二百二十五、二百二十六、二百二十七、二百二十八、二百二十九、二百三十、二百三十一、二百三十二、二百三十三、二百三十四、二百三十五、二百三十六、二百三十七、二百三十八、二百三十九、二百四十、二百四十一、二百四十二、二百四十三、二百四十四、二百四十五、二百四十六、二百四十七、二百四十八、二百四十九、二百五十、二百五十一、二百五十二、二百五十三、二百五十四、二百五十五、二百五十六、二百五十七、二百五十八、二百五十九、二百六十、二百六十一、二百六十二、二百六十三、二百六十四、二百六十五、二百六十六、二百六十七、二百六十八、二百六十九、二百七十、二百七十一、二百七十二、二百七十三、二百七十四、二百七十五、二百七十六、二百七十七、二百七十八、二百七十九、二百八十、二百八十一、二百八十二、二百八十三、二百八十四、二百八十五、二百八十六、二百八十七、二百八十八、二百八十九、二百九十、二百九十一、二百九十二、二百九十三、二百九十四、二百九十五、二百九十六、二百九十七、二百九十八、二百九十九、三百、三百一、三百二、三百三、三百四、三百五、三百六、三百七、三百八、三百九、三百十、三百十一、三百十二、三百十三、三百十四、三百十五、三百十六、三百十七、三百十八、三百十九、三百二十、三百二十一、三百二十二、三百二十三、三百二十四、三百二十五、三百二十六、三百二十七、三百二十八、三百二十九、三百三十、三百三十一、三百三十二、三百三十三、三百三十四、三百三十五、三百三十六、三百三十七、三百三十八、三百三十九、三百四十、三百四十一、三百四十二、三百四十三、三百四十四、三百四十五、三百四十六、三百四十七、三百四十八、三百四十九、三百五十、三百五十一、三百五十二、三百五十三、三百五十四、三百五十五、三百五十六、三百五十七、三百五十八、三百五十九、三百六十、三百六十一、三百六十二、三百六十三、三百六十四、三百六十五、三百六十六、三百六十七、三百六十八、三百六十九、三百七十、三百七十一、三百七十二、三百七十三、三百七十四、三百七十五、三百七十六、三百七十七、三百七十八、三百七十九、三百八十、三百八十一、三百八十二、三百八十三、三百八十四、三百八十五、三百八十六、三百八十七、三百八十八、三百八十九、三百九十、三百九十一、三百九十二、三百九十三、三百九十四、三百九十五、三百九十六、三百九十七、三百九十八、三百九十九、四百、四百一、四百二、四百三、四百四、四百五、四百六、四百七、四百八、四百九、四百十、四百十一、四百十二、四百十三、四百十四、四百十五、四百十六、四百十七、四百十八、四百十九、四百二十、四百二十一、四百二十二、四百二十三、四百二十四、四百二十五、四百二十六、四百二十七、四百二十八、四百二十九、四百三十、四百三十一、四百三十二、四百三十三、四百三十四、四百三十五、四百三十六、四百三十七、四百三十八、四百三十九、四百四十、四百四十一、四百四十二、四百四十三、四百四十四、四百四十五、四百四十六、四百四十七、四百四十八、四百四十九、四百五十、四百五十一、四百五十二、四百五十三、四百五十四、四百五十五、四百五十六、四百五十七、四百五十八、四百五十九、四百六十、四百六十一、四百六十二、四百六十三、四百六十四、四百六十五、四百六十六、四百六十七、四百六十八、四百六十九、四百七十、四百七十一、四百七十二、四百七十三、四百七十四、四百七十五、四百七十六、四百七十七、四百七十八、四百七十九、四百八十、四百八十一、四百八十二、四百八十三、四百八十四、四百八十五、四百八十六、四百八十七、四百八十八、四百八十九、四百九十、四百九十一、四百九十二、四百九十三、四百九十四、四百九十五、四百九十六、四百九十七、四百九十八、四百九十九、五百、五百一、五百二、五百三、五百四、五百五、五百六、五百七、五百八、五百九、五百十、五百十一、五百十二、五百十三、五百十四、五百十五、五百十六、五百十七、五百十八、五百十九、五百二十、五百二十一、五百二十二、五百二十三、五百二十四、五百二十五、五百二十六、五百二十七、五百二十八、五百二十九、五百三十、五百三十一、五百三十二、五百三十三、五百三十四、五百三十五、五百三十六、五百三十七、五百三十八、五百三十九、五百四十、五百四十一、五百四十二、五百四十三、五百四十四、五百四十五、五百四十六、五百四十七、五百四十八、五百四十九、五百五十、五百五十一、五百五十二、五百五十三、五百五十四、五百五十五、五百五十六、五百五十七、五百五十八、五百五十九、六百、六百一、六百二、六百三、六百四、六百五、六百六、六百七、六百八、六百九、六百十、六百十一、六百十二、六百十三、六百十四、六百十五、六百十六、六百十七、六百十八、六百十九、六百二十、六百二十一、六百二十二、六百二十三、六百二十四、六百二十五、六百二十六、六百二十七、六百二十八、六百二十九、六百三十、六百三十一、六百三十二、六百三十三、六百三十四、六百三十五、六百三十六、六百三十七、六百三十八、六百三十九、六百四十、六百四十一、六百四十二、六百四十三、六百四十四、六百四十五、六百四十六、六百四十七、六百四十八、六百四十九、六百五十、六百五十一、六百五十二、六百五十三、六百五十四、六百五十五、六百五十六、六百五十七、六百五十八、六百五十九、六百六十、六百六十一、六百六十二、六百六十三、六百六十四、六百六十五、六百六十六、六百六十七、六百六十八、六百六十九、六百七十、六百七十一、六百七十二、六百七十三、六百七十四、六百七十五、六百七十六、六百七十七、六百七十八、六百七十九、六百八十、六百八十一、六百八十二、六百八十三、六百八十四、六百八十五、六百八十六、六百八十七、六百八十八、六百八十九、六百九十、六百九十一、六百九十二、六百九十三、六百九十四、六百九十五、六百九十六、六百九十七、六百九十八、六百九十九、七百、七百一、七百二、七百三、七百四、七百五、七百六、七百七、七百八、七百九、七百十、七百十一、七百十二、七百十三、七百十四、七百十五、七百十六、七百十七、七百十八、七百十九、七百二十、七百二十一、七百二十二、七百二十三、七百二十四、七百二十五、七百二十六、七百二十七、七百二十八、七百二十九、七百三十、七百三十一、七百三十二、七百三十三、七百三十四、七百三十五、七百三十六、七百三十七、七百三十八、七百三十九、七百四十、七百四十一、七百四十二、七百四十三、七百四十四、七百四十五、七百四十六、七百四十七、七百四十八、七百四十九、七百五十、七百五十一、七百五十二、七百五十三、七百五十四、七百五十五、七百五十六、七百五十七、七百五十八、七百五十九、七百六十、七百六十一、七百六十二、七百六十三、七百六十四、七百六十五、七百六十六、七百六十七、七百六十八、七百六十九、七百七十、七百七十一、七百七十二、七百七十三、七百七十四、七百七十五、七百七十六、七百七十七、七百七十八、七百七十九、七百八十、七百八十一、七百八十二、七百八十三、七百八十四、七百八十五、七百八十六、七百八十七、七百八十八、七百八十九、七百九十、七百九十一、七百九十二、七百九十三、七百九十四、七百九十五、七百九十六、七百九十七、七百九十八、七百九十九、八百、八百一、八百二、八百三、八百四、八百五、八百六、八百七、八百八、八百九、八百十、八百十一、八百十二、八百十三、八百十四、八百十五、八百十六、八百十七、八百十八、八百十九、八百二十、八百二十一、八百二十二、八百二十三、八百二十四、八百二十五、八百二十六、八百二十七、八百二十八、八百二十九、八百三十、八百三十一、八百三十二、八百三十三、八百三十四、八百三十五、八百三十六、八百三十七、八百三十八、八百三十九、八百四十、八百四十一、八百四十二、八百四十三、八百四十四、八百四十五、八百四十六、八百四十七、八百四十八、八百四十九、八百五十、八百五十一、八百五十二、八百五十三、八百五十四、八百五十五、八百五十六、八百五十七、八百五十八、八百五十九、八百六十、八百六十一、八百六十二、八百六十三、八百六十四、八百六十五、八百六十六、八百六十七、八百六十八、八百六十九、八百七十、八百七十一、八百七十二、八百七十三、八百七十四、八百七十五、八百七十六、八百七十七、八百七十八、八百七十九、八百八十、八百八十一、八百八十二、八百八十三、八百八十四、八百八十五、八百八十六、八百八十七、八百八十八、八百八十九、八百九十、八百九十一、八百九十二、八百九十三、八百九十四、八百九十五、八百九十六、八百九十七、八百九十八、八百九十九、九百、九百一、九百二、九百三、九百四、九百五、九百六、九百七、九百八、九百九、九百十、九百十一、九百十二、九百十三、九百十四、九百十五、九百十六、九百十七、九百十八、九百十九、九百二十、九百二十一、九百二十二、九百二十三、九百二十四、九百二十五、九百二十六、九百二十七、九百二十八、九百二十九、九百三十、九百三十一、九百三十二、九百三十三、九百三十四、九百三十五、九百三十六、九百三十七、九百三十八、九百三十九、九百四十、九百四十一、九百四十二、九百四十三、九百四十四、九百四十五、九百四十六、九百四十七、九百四十八、九百四十九、九百五十、九百五十一、九百五十二、九百五十三、九百五十四、九百五十五、九百五十六、九百五十七、九百五十八、九百五十九、九百六十、九百六十一、九百六十二、九百六十三、九百六十四、九百六十五、九百六十六、九百六十七、九百六十八、九百六十九、九百七十、九百七十一、九百七十二、九百七十三、九百七十四、九百七十五、九百七十六、九百七十七、九百七十八、九百七十九、九百八十、九百八十一、九百八十二、九百八十三、九百八十四、九百八十五、九百八十六、九百八十七、九百八十八、九百八十九、九百九十、九百九十一、九百九十二、九百九十三、九百九十四、九百九十五、九百九十六、九百九十七、九百九十八、九百九十九、千、千一、千二、千三、千四、千五、千六、千七、千八、千九、千十、千十一、千十二、千十三、千十四、千十五、千十六、千十七、千十八、千十九、千二十、千二十一、千二十二、千二十三、千二十四、千二十五、千二十六、千二十七、千二十八、千二十九、千三十、千三十一、千三十二、千三十三、千三十四、千三十五、千三十六、千三十七、千三十八、千三十九、千四十、千四十一、千四十二、千四十三、千四十四、千四十五、千四十六、千四十七、千四十八、千四十九、千五十、千五十一、千五十二、千五十三、千五十四、千五十五、千五十六、千五十七、千五十八、千五十九、千六十、千六十一、千六十二、千六十三、千六十四、千六十五、千六十六、千六十七、千六十八、千六十九、千七十、千七十一、千七十二、千七十三、千七十四、千七十五、千七十六、千七十七、千七十八、千七十九、千八十、千八十一、千八十二、千八十三、千八十四、千八十五、千八十六、千八十七、千八十八、千八十九、千九十、千九十一、千九十二、千九十三、千九十四、千九十五、千九十六、千九十七、千九十八、千九十九、二千、二千一、二千二、二千三、二千四、二千五、二千六、二千七、二千八、二千九、二千十、二千十一、二千十二、二千十三、二千十四、二千十五、二千十六、二千十七、二千十八、二千十九、二千二十、二千二十一、二千二十二、二千二十三、二千二十四、二千二十五、二千二十六、二千二十七、二千二十八、二千二十九、二千三十、二千三十一、二千三十二、二千三十三、二千三十四、二千三十五、二千三十六、二千三十七、二千三十八、二千三十九、二千四十、二千四十一、二千四十二、二千四十三、二千四十四、二千四十五、二千四十六、二千四十七、二千四十八、二千四十九、二千五十、二千五十一、二千五十二、二千五十三、二千五十四、二千五十五、二千五十六、二千五十七、二千五十八、二千五十九、二千六十、二千六十一、二千六十二、二千六十三、二千六十四、二千六十五、二千六十六、二千六十七、二千六十八、二千六十九、二千七十、二千七十一、二千七十二、二千七十三、二千七十四、二千七十五、二千七十六、二千七十七、二千七十八、二千七十九、二千八十、二千八十一、二千八十二、二千八十三、二千八十四、二千八十五、二千八十六、二千八十七、二千八十八、二千八十九、二千九十、二千九十一、二千九十二、二千九十三、二千九十四、二千九十五、二千九十六、二千九十七、二千九十八、二千九十九、三千、三千一、三千二、三千三、三千四、三千五、三千六、三千七、三千八、三千九、三千十、三千十一、三千十二、三千十三、三千十四、三千十五、三千十六、三千十七、三千十八、三千十九、三千二十、三千二十一、三千二十二、三千二十三、三千二十四、三千二十五、三千二十六、三千二十七、三千二十八、三千二十九、三千三十、三千三十一、三千三十二、三千三十三、三千三十四、三千三十五、三千三十六、三千三十七、三千三十八、三千三十九、三千四十、三千四十一、三千四十二、三千四十三、三千四十四、三千四十五、三千四十六、三千四十七、三千四十八、三千四十九、三千五十、三千五十一、三千五十二、三千五十三、三千五十四、三千五十五、三千五十六、三千五十七、三千五十八、三千五十九、三千六十、三千六十一、三千六十二、三千六十三、三千六十四、三千六十五、三千六十六、三千六十七、三千六十八、三千六十九、三千七十、三千七十一、三千七十二、三千七十三、三千七十四、三千七十五、三千七十六、三千七十七、三千七十八、三千七十九、三千八十、三千八十一、三千八十二、三千八十三、三千八十四、三千八十五、三千八十六、三千八十七、三千八十八、三千八十九、三千九十、三千九十一、三千九十二、三千九十三、三千九十四、三千九十五、三千九十六、三千九十七、三千九十八、三千九十九、四千、四千一、四千二、四千三、四千四、四千五、四千六、四千七、四千八、四千九、四千十、四千十一、四千十二、四千十三、四千十四、四千十五、四千十六、四千十七、四千十八、四千十九、四千二十、四千二十一、四千二十二、四千二十三、四千二十四、四千二十五、四千二十六、四千二十七、四千二十八、四千二十九、四千三十、四千三十一、四千三十二、四千三十三、四千三十四、四千三十五、四千三十六、四千三十七、四千三十八、四千三十九、四千四十、四千四十一、四千四十二、四千四十三、四千四十四、四千四十五、四千四十六、四千四十七、四千四十八、四千四十九、四千五十、四千五十一、四千五十二、四千五十三、四千五十四、四千五十五、四千五十六、四千五十七、四千五十八、四千五十九、四千六十、四千六十一、四千六十二、四千六十三、四千六十四、四千六十五、四千六十六、四千六十七、四千六十八、四千六十九、四千七十、四千七十一、四千七十二、四千七十三、四千七十四、四千七十五、四千七十六、四千七十七、四千七十八、四千七十九、四千八十、四千八十一、四千八十二、四千八十三、四千八十四、四千八十五、四千八十六、四千八十七、四千八十八、四千八十九、四千九十、四千九十一、四千九十二、四千九十三、四千九十四、四千九十五、四千九十六、四千九十七、四千九十八、四千九十九、五千、五千一、五千二、五千三、五千四、五千五、五千六、五千七、五千八、五千九、五千十、五千十一、五千十二、五千十三、五千十四、五千十五、五千十六、五千十七、五千十八、五千十九、五千二十、五千二十一、五千二十二、五千二十三、五千二十四、五千二十五、五千二十六、五千二十七、五千二十八、五千二十九、五千三十、五千三十一、五千三十二、五千三十三、五千三十四、五千三十五、五千三十六、五千三十七、五千三十八、五千三十九、五千四十、五千四十一、五千四十二、五千四十三、五千四十四、五千四十五、五千四十六、五千四十七、五千四十八、五千四十九、五千五十、五千五十一、五千五十二、五千五十三、五千五十四、五千五十五、五千五十六、五千五十七、五千五十八、五千五十九、五千六十、五千六十一、五千六十二、五千六十三、五千六十四、五千六十五、五千六十六、五千六十七、五千六十八、五千六十九、五千七十、五千七十一、五千七十二、五千七十三、五千七十四、五千七十五、五千七十六、五千七十七、五千七十八、五千七十九、五千八十、五千八十一、五千八十二、五千八十三、五千八十四、五千八十五、五千八十六、五千八十七、五千八十八、五千八十九、五千九十、五千九十一、五千九十二、五千九十三、五千九十四、五千九十五、五千九十六、五千九十七、五千九十八、五千九十九、六千、六千一、六千二、六千三、六千四、六千五、六千六、六千七、六千八、六千九、六千十、六千十一、六千十二、六千十三、六千十四、六千十五、六千十六、六千十七、六千十八、六千十九、六千二十、六千二十一、六千二十二、六千二十三、六千二十四、六千二十五、六千二十六、六千二十七、六千二十八、六千二十九、六千三十、六千三十一、六千三十二、六千三十三、六千三十四、六千三十五、六千三十六、六千三十七、六千三十八、六千三十九、六千四十、六千四十一、六千四十二、六千四十三、六千四十四、六千四十五、六千四十六、六千四十七、六千四十八、六千四十九、六千五十、六千五十一、六千五十二、六千五十三、六千五十四、六千五十五、六千五十六、六千五十七、六千五十八、六千五十九、六千六十、六千六十一、六千六十二、六千六十三、六千六十四、六千六十五、六千六十六、六千六十七、六千六十八、六千六十九、六千七十、六千七十一、六千七十二、六千七十三、六千七十四、六千七十五、六千七十六、六千七十七、六千七十八、六千七十九、六千八十、六千八十一、六千八十二、六千八十三、六千八十四、六千八十五、六千八十六、六千八十七、六千八十八、六千八十九、六千九十、六千九十一、六千九十二、六千九十三、六千九十四、六千九十五、六千九十六、六千九十七、六千九十八、六千九十九、七千、七千一、七千二、七千三、七千四、七千五、七千六、七千七、七千八、七千九、七千十、七千十一、七千十二、七千十三、七千十四、七千十五、七千十六、七千十七、七千十八、七千十九、七千二十、七千二十一、七千二十二、七千二十三、七千二十四、七千二十五、七千二十六、七千二十七、七千二十八、七千二十九、七千三十、七千三十一、七千三十二、七千三十三、七千三十四、七千三十五、七千三十六、七千三十七、七千三十八、七千三十九、七千四十、七千四十一、七千四十二、七千四十三、七千四十四、七千四十五、七千四十六、七千四十七、七千四十八、七千四十九、七千五十、七千五十一、七千五十二、七千五十三、七千五十四、七千五十五、七千五十六、七千五十七、七千五十八、七千五十九、七千六十、七千六十一、七千六十二、七千六十三、七千六十四、七千六十五、七千六十六、七千六十七、七千六十八、七千六十九、七千七十、七千七十一、七千七十二、七千七十三、七千七十四、七千七十五、七千七十六、七千七十七、七千七十八、七千七十九、七千八十、七千八十一、七千八十二、七千八十三、七千八十四、七千八十五、七千八十六、七千八十七、七千八十八、七千八十九、七千九十、七千九十一、七千九十二、七千九十三、七千九十四、七千九十五、七千九十六、七千九十七、七千九十八、七千九十九、八千、八千一、八千二、八千三、八千四、八千五、八千六、八千七、八千八、八千九、八千十、八千十一、八千十二、八千十三、八千十四、八千十五、八千十六、八千十七、八千十八、八千十九、八千二十、八千二十一、八千二十二、八千二十三、八千二十四、八千二十五、八千二十六、八千二十七、八千二十八、八千二十九、八千三十、八千三十一、八千三十二、八千三十三、八千三十四、八千三十五、八千三十六、八千三十七、八千三十八、八千三十九、八千四十、八千四十一、八千四十二、八千四十三、八千四十四、八千四十五、八千四十六、八千四十七、八千四十八、八千四十九、八千五十、八千五十一、八千五十二、八千五十三、八千五十四、八千五十五、八千五十六、八千五十七、八千五十八、八千五十九、八千六十、八千六十一、八千六十二、八千六十三、八千六十四、八千六十五、八千六十六、八千六十七、八千六十八、八千六十九、八千七十、八千七十一、八千七十二、八千七十三、八千七十四、八千七十五、八千七十六、八千七十七、八千七十八、八千七十九、八千八十、八千八十一、八千八十二、八千八十三、八千八十四、八千八十五、八千八十六、八千八十七、八千八十八、八千八十九、八千九十、八千九十一、八千九十二、八千九十三、八千九十四、八千九十五、八千九十六、八千九十七、八千九十八、八千九十九、九千、九千一、九千二、九千三、九千四、九千五、九千六、九千七、九千八、九千九、九千十、九千十一、九千十二、九千十三、九千十四、九千十五、九千十六、九千十七、九千十八、九千十九、九千二十、九千二十一、九千二十二、九千二十三、九千二十四、九千二十五、九千二十六、九千二十七、九千二十八、九千二十九、九千三十、九千三十一、九千三十二、九千三十三、九千三十四、九千三十五、九千三十六、九千三十七、九千三十八、九千三十九、九千四十、九千四十一、九千四十二、九千四十三、九千四十四、九千四十五、九千四十六、九千四十七、九千四十八、九千四十九、九千五十、九千五十一、九千五十二、九千五十三、九千五十四、九千五十五、九千五十六、九千五十七、九千五十八、九千五十九、九千六十、九千六十一、九千六十二、九千六十三、九千六十四、九千六十五、九千六十六、九千六十七、九千六十八、九千六十九、九千七十、九千七十一、九千七十二、九千七十三、九千七十四、九千七十五、九千七十六、九千七十七、九千七十八、九千七十九、九千八十、九千八十一、九千八十二、九千八十三、九千八十四、九千八十五、九千八十六、九千八十七、九千八十八、九千八十九、九千九十、九千九十一、九千九十二、九千九十三、九千九十四、九千九十五、九千九十六、九千九十七、九千九十八、九千九十九、十千、十千一、十千二、十千三、十千四、十千五、十千六、十千七、十千八、十千九、十千十、十千十一、十千十二、十千十三、十千十四、十千十五、十千十六、十千十七、十千十八、十千十九、十千二十、十千二十一、十千二十二、十千二十三、十千二十四、十千二十五、十千二十六、十千二十七、十千二十八、十千二十九、十千三十、十千三十一、十千三十二、十千三十三、十千三十四、十千三十五、十千三十六、十千三十七、十千三十八、十千三十九、十千四十、十千四十一、十千四十二、十千四十三、十千四十四、十千四十五、十千四十六、十千四十七、十千四十八、十千四十九、十千五十、十千五十一、十千五十二、十千五十三、十千五十四、十千五十五、十千五十六、十千五十七、十千五十八、十千五十九、十千六十、十千六十一、十千六十二、十千六十三、十千六十四、十千六十五、十千六十六、十千六十七、十千六十八、十千六十九、十千七十、十千七十一、十千七十二、十千七十三、十千七十四、十千七十五、十千七十六、十千七十七、十千七十八、十千七十九、十千八十、十千八十一、十千八十二、十千八十三、十千八十四、十千八十五、十千八十六、十千八十七、十千八十八、十千八十九、十千九十、十千九十一、十千九十二、十千九十三、十千九十四、十千九十五、十千九十六、十千九十七、十千九十八、十千九十九、百千、百千一、百千二、百千三、百千四、百千五、百千六、百千七、百千八、百千九、百千十、百千十一、百千十二、百千十三、百千十四、百千十五、百千十六、百千十七、百千十八、百千十九、百千二十、百千二十一、百千二十二、百千二十三、百千二十四、百千二十五、百千二十六、百千二十七、百千二十八、百千二十九、百千三十、百千三十一、百千三十二、百千三十三、百千三十四、百千三十五、百千三十六、百千三十七、百千三十八、百千三十九、百千四十、百千四十一、百千四十二、百千四十三、百千四十四、百千四十五、百千四十六、百千四十七、百千四十八、百千四十九、百千五十、百千五十一、百千五十二、百千五十三、百千五十四、百千五十五、百千五十六、百千五十七、百千五十八、百千五十九、百千六十、百千六十一、百千六十二、百千六十三、百千六十四、百千六十五、百千六十六、百千六十七、百千六十八、百千六十九、百千七十、百千七十一、百千七十二、百千七十三、百千七十四、百千七十五、百千七十六、百千七十七、百千七十八、百千七十九、百千八十、百千八十一、百千八十二、百千八十三、百千八十四、百千八十五、百千八十六、百千八十七、百千八十八、百千八十九、百千九十、百千九十一、百千九十二、百千九十三、百千九十四、百千九十五、百千九十六、百千九十七、百千九十八、百千九十九、千千、千千一、千千二、千千三、千千四、千千五、千千六、千千七、千千八、千千九、千千十、千千十一、千千十二、千千十三、千千十四、千千十五、千千十六、千千十七、千千十八、千千十九、千千二十、千千二十一、千千二十二、千千二十三、千千二十四、千千二十五、千千二十六、千千二十七、千千二十八、千千二十九、千千三十、千千三十一、千千三十二、千千三十三、千千三十四、千千三十五、千千三十六、千千三十七、千千三十八、千千三十九、千千四十、千千四十一、千千四十二、千千四十三、千千四十四、千千四十五、千千四十六、千千四十七、千千四十八、千千四十九、千千五十、千千五十一、千千五十二、千千五十三、千千五十四、千千五十五、千千五十六、千千五十七、千千五十八、千千五十九、千千六十、千千六十一、千千六十二、千千六十三、千千六十四、千千六十五、千千六十六、千千六十七、千千六十八、千千六十九、千千七十、千千七十一、千千七十二、千千七十三、千千七十四、千千七十五、千千七十六、千千七十七、千千七十八、千千七十九、千千八十、千千八十一、千千八十二、千千八十三、千千八十四、千千八十五、千千八十六、千千八十七、千千八十八、千千八十九、千千九十、千千九十一、千千九十二、千千九十三、千千九十四、千千九十五、千千九十六、千千九十七、千千九十八、千千九十九、万、万一、万二、万三、万四、万五、万六、万七、万八、万九、万十、万十一、万十二、万十三、万十四、万十五、万十六、万十七、万十八、万十九、万二十、万二十一、万二十二、万二十三、万二十四、万二十五、万二十六、万二十七、万二十八、万二十九、万三十、万三十一、万三十二、万三十三、万三十四、万三十五、万三十六、万三十七、万三十八、万三十九、万四十、万四十一、万四十二、万四十三、万四十四、万四十五、万四十六、万四十七、万四十八、万四十九、万五十、万五十一、万五十二、万五十三、万五十四、万五十五、万五十六、万五十七、万五十八、万五十九、万六十、万六十一、万六十二、万六十三、万六十四、万六十五、万六十六、万六十七、万六十八、万六十九、万七十、万七十一、万七十二、万七十三、万七十四、万七十五、万七十六、万七十七、万七十八、万七十九、万八十、万八十一、万八十二、万八十三、万八十四、万八十五、万八十六、万八十七、万八十八、万八十九、万九十、万九十一、万九十二、万九十三、万九十四、万九十五、万九十六、万九十七、万九十八、万九十九、十万、十万一、十万二、十万三、十万四、十万五、十万六、十万七、十万八、十万九、十万十、十万十一、十万十二、十万十三、十万十四、十万十五、十万十六、十万十七、十万十八、十万十九、十万二十、十万二十一、十万二十二、十万二十三、十万二十四、十万二十五、十万二十六、十万二十七、十万二十八、十万二十九、十万三十、十万三十一、十万三十二、十万三十三、十万三十四、十万三十五、十万三十六、十万三十七、十万三十八、十万三十九、十万四十、十万四十一、十万四十二、十万四十三、十万四十四、十万四十五、十万四十六、十万四十七、十万四十八、十万四十九、十万五十、十万五十一、十万五十二、十万五十三、十万五十四、十万五十五、十万五十六、十万五十七、十万五十八、十万五十九、十万六十、十万六十一、十万六十二、十万六十三、十万六十四、十万六十五、十万六十六、十万六十七、十万六十八、十万六十九、十万七十、十万七十一、十万七十二、十万七十三、十万七十四、十万七十五、十万七十六、十万七十七、十万七十八、十万七十九、十万八十、十万八十一、十万八十二、十万八十三、十万八十四、十万八十五、十万八十六、十万八十七、十万八十八、十万八十九、十万九十、十万九十一、十万九十二、十万九十三、十万九十四、十万九十五、十万九十六、十万九十七、十万九十八、十万九十九、百万、百万一、百万二、百万三、百万四、百万五、百万六、百万七、百万八、百万九、百万十、百万十一、百万十二、百万十三、百万十四、百万十五、百万十六、百万十七、百万十八、百万十九、百万二十、百万二十一、百万二十二、百万二十三、百万二十四、百万二十五、百万二十六、百万二十七、百万二十八、百万二十九、百万三十、百万三十一、百万三十二、百万三十三、百万三十四、百万三十五、百万三十六、百万三十七、百万三十八、百万三十九、百万四十、百万四十一、百万四十二、百万四十三、百万四十四、百万四十五、百万四十六、百万四十七、百万四十八、百万四十九、百万五十、百万五十一、百万五十二、百万五十三、百万五十四、百万五十五、百万五十六、百万五十七、百万五十八、百万五十九、百万六十、百万六十一、百万六十二、百万六十三、百万六十四、百万六十五、百万六十六、百万六十七、百万六十八、百万六十九、百万七十、百万七十一、百万七十二、百万七十三、百万七十四、百万七十五、百万七十六、百万七十七、百万七十八、百万七十九、百万八十、百万八十一、百万八十二、百万八十三、百万八十四、百万八十五、百万八十六、百万八十七、百万八十八、百万八十九、百万九十、百万九十一、百万九十二、百万九十三、百万九十四、百万九十五、百万九十六、百万九十七、百万九十八、百万九十九、千万、千万一、千万二、千万三、千万四、千万五、千万六、千万七、千万八、千万九、千万十、千万十一、千万十二、千万十三、千万十四、千万十五、千万十六、千万十七、千万十八、千万十九、千万二十、千万二十一、千万二十二、千万二十三、千万二十四、千万二十五、千万二十六、千万二十七、千万二十八、千万二十九、千万三十、千万三十一、千万三十二、千万三十三、千万三十四、千万三十五、千万三十六、千万三十七、千万三十八、千万三十九、千万四十、千万四十一、千万四十二、千万四十三、千万四十四、千万四十五、千万四十六、千万四十七、千万四十八、千万四十九、千万五十、千万五十一、千万五十二、千万五十三、千万五十四、千万五十五、千万五十六、千万五十七、千万五十八、千万五十九、千万六十、千万六十一、千万六十二、千万六十三、千万六十四、千万六十五、千万六十六、千万六十七、千万六十八、千万六十九、千万七十、千万七十一、千万七十二、千万七十三、千万七十四、千万七十五、千万七十六、千万七十七、千万七十八、千万七十九、千万八十、千万八十一、千万八十二、千万八十三、千万八十四、千万八十五、千万八十六、千万八十七、千万八十八、千万八十九、千万九十、千万九十一、千万九十二、千万九十三、千万九十四、千万九十五、千万九十六、千万九十七、千万九十八、千万九十九、万万、万万一、万万二、万万三、万万四、万万五、万万六、万万七、万万八、万万九、万万十、万万十一、万万十二、万万十三、万万十四、万万十五、万万十六、万万十七、万万十八、万万十九、万万二十、万万二十一、万万二十二、万万二十三、万万二十四、万万二十五、万万二十六、万万二十七、万万二十八、万万二十九、万万三十、万万三十一、万万三十二、万万三十三、万万三十四、万万三十五、万万三十六、万万三十七、万万三十八、万万三十九、万万四十、万万四十一、万万四十二、万万四十三、万万四十四、万万四十五、万万四十六、万万四十七、万万四十八、万万四十九、万万五十、万万五十一、万万五十二、万万五十三、万万五十四、万万五十五、万万五十六、万万五十七、万万五十八、万万五十九、万万六十、万万六十一、万万六十二、万万六十三、万万六十四、万万六十五、万万六十六、万万六十七、万万六十八、万万六十九、万万七十、万万七十一、万万七十二、万万七十三、万万七十四、万万七十五、万万七十六、万万七十七、万万七十八、万万七十九、万万八十、万万八十一、万万八十二、万万八十三、万万八十四、万万八十五、万万八十六、万万八十七、万万八十八、万万八十九、万万九十、万万九十一、万万九十二、万万九十三、万万九十四、万万九十五、万万九十六、万万九十七、万万九十八、万万九十九、十万万、十万万一、十万万二、十万万三、十万万四、十万万五、十万万六、十万万七、十万万八、十万万九、十万万十、十万万十一、十万万十二、十万万十三、十万万十四、十万万十五、十万万十六、十万万十七、十万万十八、十万万十九、十万万二十、十万万二十一、十万万二十二、十万万二十三、十万万二十四、十万万二十五、十万万二十六、十万万二十七、十万万二十八、十万万二十九、十万万三十、十万万三十一、十万万三十二、十万万三十三、十万万三十四、十万万三十五、十万万三十六、十万万三十七、十万万三十八、十万万三十九、十万万四十、十万万四十一、十万万四十二、十万万四十三、十万万四十四、十万万四十五、十万万四十六、十万万四十七、十万万四十八、十万万四十九、十万万五十、十万万五十一、十万万五十二、十万万五十三、十万万五十四、十万万五十五、十万万五十六、十万万五十七、十万万五十八、十万万五十九、十万万六十、十万万六十一、十万万六十二、十万万六十三、十万万六十四、十万万六十五、十万万六十六、十万万六十七、十万万六十八、十万万六十九、十万万七十、十万万七十一、十万万七十二、十万万七十三、十万万七十四、十万万七十五、十万万七十六、十万万七十七、十万万七十八、十万万七十九、十万万八十、十万万八十一、十万万八十二、十万万八十三、十万万八十四、十万万八十五、十万万八十六、十万万八十七、十万万八十八、十万万八十九、十万万九十、十万万九十一、十万万九十二、十万万九十三、十万万九十四、十万万九十五、十万万九十六、十万万九十七、十万万九十八、十万万九十九、百万万、百万万一、百万万二、百万万三、百万万四、百万万五、百万万六、百万万七、百万万八、百万万九、百万万十、百万万十一、百万万十二、百万万十三、百万万十四、百万万十五、百万万十六、百万万十七、百万万十八、百万万十九、百万万二十、百万万二十一、百万万二十二、百万万二十三、百万万二十四、百万万二十五、百万万二十六、百万万二十七、百万万二十八、百万万二十九、百万万三十、百万万三十一、百万万三十二、百万万三十三、百万万三十四、百万万三十五、百万万三十六、百万万三十七、百万万三十八、百万万三十九、百万万四十、百万万四十一、百万万四十二、百万万四十三、百万万四十四、百万万四十五、百万万四十六、百万万四十七、百万万四十八、百万万四十九、百万万五十、百万万五十一、百万万五十二、百万万五十三、百万万五十四、百万万五十五、百万万五十六、百万万五十七、百万万五十八、百万万五十九、百万万六十、百万万六十一、百万万六十二、百万万六十三、百万万六十四、百万万六十五、百万万六十六、百万万六十七、百万万六十八、百万万六十九、百万万七十、百万万七十一、百万万七十二、百万万七十三、百万万七十四、百万万七十五、百万万七十六、百万万七十七、百万万七十八、百万万七十九、百万万八十、百万万八十一、百万万八十二、百万万八十三、百万万八十四、百万万八十五、百万万八十六、百万万八十七、百万万八十八、百万万八十九、百万万九十、百万万九十一、百万万九十二、百万万九十三、百万万九十四、百万万九十五、百万万九十六、百万万九十七、百万万九十八、百万万九十九、千万万、千万万一、千万万二、千万万三、千万万四、千万万五、千万万六、千万万七、千万万八、千万万九、千万万十、千万万十一、千万万十二、千万万十三、千万万十四、千万万十五、千万万十六、千万万十七、千万万十八、千万万十九、千万万二十

第一章　序　説……一
第二節　研究史……一
第三節　調査の経過……六
第四節　自然と歴史……九
第五節　小山田古墳……一四
第六節　大谷古墳……一六
第七節　大谷古墳……一九
第八節　大谷古墳……二一
第九節　大谷古墳……二四
第十節　大谷古墳……二六
第十一節　大谷古墳……二八
第十二節　大谷古墳……三一
第十三節　大谷古墳……三三
第十四節　大谷古墳……三五
第十五節　大谷古墳……三七
第十六節　大谷古墳……三九
第十七節　大谷古墳……四一
第十八節　大谷古墳……四三
第十九節　大谷古墳……四五
第二十節　大谷古墳……四七
第二十一節　大谷古墳……四九
第二十二節　大谷古墳……五一
第二十三節　大谷古墳……五三
第二十四節　大谷古墳……五五
第二十五節　大谷古墳……五七
第二十六節　大谷古墳……五九
第二十七節　大谷古墳……六一
第二十八節　大谷古墳……六三
第二十九節　大谷古墳……六五
第三十節　大谷古墳……六七
第三十一節　大谷古墳……六九
第三十二節　大谷古墳……七一
第三十三節　大谷古墳……七三
第三十四節　大谷古墳……七五
第三十五節　大谷古墳……七七
第三十六節　大谷古墳……七九
第三十七節　大谷古墳……八一
第三十八節　大谷古墳……八三
第三十九節　大谷古墳……八五
第四十節　大谷古墳……八七
第四十一節　大谷古墳……八九
第四十二節　大谷古墳……九一
第四十三節　大谷古墳……九三
第四十四節　大谷古墳……九五
第四十五節　大谷古墳……九七
第四十六節　大谷古墳……九九
第四十七節　大谷古墳……一〇一
第四十八節　大谷古墳……一〇三
第四十九節　大谷古墳……一〇五
第五十節　大谷古墳……一〇七
第五十一節　大谷古墳……一〇九
第五十二節　大谷古墳……一一一
第五十三節　大谷古墳……一一三
第五十四節　大谷古墳……一一五
第五十五節　大谷古墳……一一七
第五十六節　大谷古墳……一一九
第五十七節　大谷古墳……一二一
第五十八節　大谷古墳……一二三
第五十九節　大谷古墳……一二五
第六十節　大谷古墳……一二七
第六十一節　大谷古墳……一二九
第六十二節　大谷古墳……一三一
第六十三節　大谷古墳……一三三
第六十四節　大谷古墳……一三五
第六十五節　大谷古墳……一三七
第六十六節　大谷古墳……一三九
第六十七節　大谷古墳……一四一
第六十八節　大谷古墳……一四三
第六十九節　大谷古墳……一四五
第七十節　大谷古墳……一四七
第七十一節　大谷古墳……一四九
第七十二節　大谷古墳……一五一
第七十三節　大谷古墳……一五三
第七十四節　大谷古墳……一五五
第七十五節　大谷古墳……一五七
第七十六節　大谷古墳……一五九
第七十七節　大谷古墳……一六一
第七十八節　大谷古墳……一六三
第七十九節　大谷古墳……一六五
第八十節　大谷古墳……一六七
第八十一節　大谷古墳……一六九
第八十二節　大谷古墳……一七一
第八十三節　大谷古墳……一七三
第八十四節　大谷古墳……一七五
第八十五節　大谷古墳……一七七
第八十六節　大谷古墳……一七九
第八十七節　大谷古墳……一八一
第八十八節　大谷古墳……一八三
第八十九節　大谷古墳……一八五
第九十節　大谷古墳……一八七
第九十一節　大谷古墳……一八九
第九十二節　大谷古墳……一九一
第九十三節　大谷古墳……一九三
第九十四節　大谷古墳……一九五
第九十五節　大谷古墳……一九七
第九十六節　大谷古墳……一九九
第九十七節　大谷古墳……二〇一
第九十八節　大谷古墳……二〇三
第九十九節　大谷古墳……二〇五
第百節　大谷古墳……二〇七
第百一節　大谷古墳……二〇九
第百二節　大谷古墳……二一一
第百三節　大谷古墳……二一三
第百四節　大谷古墳……二一五
第百五節　大谷古墳……二一七
第百六節　大谷古墳……二一九
第百七節　大谷古墳……二二一
第百八節　大谷古墳……二二三
第百九節　大谷古墳……二二五
第百十節　大谷古墳……二二七
第百十一節　大谷古墳……二二九
第百十二節　大谷古墳……二二一
第百十三節　大谷古墳……二二三
第百十四節　大谷古墳……二二五
第百十五節　大谷古墳……二二七
第百十六節　大谷古墳……二二九
第百十七節　大谷古墳……二二一
第百十八節　大谷古墳……二二三
第百十九節　大谷古墳……二二五
第百二十節　大谷古墳……二二七
第百二十一節　大谷古墳……二二九
第百二十二節　大谷古墳……二二一
第百二十三節　大谷古墳……二二三
第百二十四節　大谷古墳……二二五
第百二十五節　大谷古墳……二二七
第百二十六節　大谷古墳……二二九
第百二十七節　大谷古墳……二二一
第百二十八節　大谷古墳……二二三
第百二十九節　大谷古墳……二二五
第百三十節　大谷古墳……二二七
第百三十一節　大谷古墳……二二九
第百三十二節　大谷古墳……二二一
第百三十三節　大谷古墳……二二三
第百三十四節　大谷古墳……二二五
第百三十五節　大谷古墳……二二七
第百三十六節　大谷古墳……二二九
第百三十七節　大谷古墳……二二一
第百三十八節　大谷古墳……二二三
第百三十九節　大谷古墳……二二五
第百四十節　大谷古墳……二二七
第百四十一節　大谷古墳……二二九
第百四十二節　大谷古墳……二二一
第百四十三節　大谷古墳……二二三
第百四十四節　大谷古墳……二二五
第百四十五節　大谷古墳……二二七
第百四十六節　大谷古墳……二二九
第百四十七節　大谷古墳……二二一
第百四十八節　大谷古墳……二二三
第百四十九節　大谷古墳……二二五
第百五十節　大谷古墳……二二七
第百五十一節　大谷古墳……二二九
第百五十二節　大谷古墳……二二一
第百五十三節　大谷古墳……二二三
第百五十四節　大谷古墳……二二五
第百五十五節　大谷古墳……二二七
第百五十六節　大谷古墳……二二九
第百五十七節　大谷古墳……二二一
第百五十八節　大谷古墳……二二三
第百五十九節　大谷古墳……二二五
第百六十節　大谷古墳……二二七
第百六十一節　大谷古墳……二二九
第百六十二節　大谷古墳……二二一
第百六十三節　大谷古墳……二二三
第百六十四節　大谷古墳……二二五
第百六十五節　大谷古墳……二二七
第百六十六節　大谷古墳……二二九
第百六十七節　大谷古墳……二二一
第百六十八節　大谷古墳……二二三
第百六十九節　大谷古墳……二二五
第百七十節　大谷古墳……二二七
第百七十一節　大谷古墳……二二九
第百七十二節　大谷古墳……二二一
第百七十三節　大谷古墳……二二三
第百七十四節　大谷古墳……二二五
第百七十五節　大谷古墳……二二七
第百七十六節　大谷古墳……二二九
第百七十七節　大谷古墳……二二一
第百七十八節　大谷古墳……二二三
第百七十九節　大谷古墳……二二五
第百八十節　大谷古墳……二二七
第百八十一節　大谷古墳……二二九
第百八十二節　大谷古墳……二二一
第百八十三節　大谷古墳……二二三
第百八十四節　大谷古墳……二二五
第百八十五節　大谷古墳……二二七
第百八十六節　大谷古墳……二二九
第百八十七節　大谷古墳……二二一
第百八十八節　大谷古墳……二二三
第百八十九節　大谷古墳……二二五
第百九十節　大谷古墳……二二七
第百九十一節　大谷古墳……二二九
第百九十二節　大谷古墳……二二一
第百九十三節　大谷古墳……二二三
第百九十四節　大谷古墳……二二五
第百九十五節　大谷古墳……二二七
第百九十六節　大谷古墳……二二九
第百九十七節　大谷古墳……二二一
第百九十八節　大谷古墳……二二三
第百九十九節　大谷古墳……二二五
第二百節　大谷古墳……二二七
第二百一節　大谷古墳……二二九
第二百二節　大谷古墳……二二一
第二百三節　大谷古墳……二二三
第二百四節　大谷古墳……二二五
第二百五節　大谷古墳……二二七
第二百六節　大谷古墳……二二九
第二百七節　大谷古墳……二二一
第二百八節　大谷古墳……二二三
第二百九節　大谷古墳……二二五
第二百十節　大谷古墳……二二七
第二百十一節　大谷古墳……二二九
第二百十二節　大谷古墳……二二一
第二百十三節　大谷古墳……二二三
第二百十四節　大谷古墳……二二五
第二百十五節　大谷古墳……二二七
第二百十六節　大谷古墳……二二九
第二百十七節　大谷古墳……二二一
第二百十八節　大谷古墳……二二三
第二百十九節　大谷古墳……二二五
第二百二十節　大谷古墳……二二七
第二百二十一節　大谷古墳……二二九
第二百二十二節　大谷古墳……二二一
第二百二十三節　大谷古墳……二二三
第二百二十四節　大谷古墳……二二五
第二百二十五節　大谷古墳……二二七
第二百二十六節　大谷古墳……二二九
第二百二十七節　大谷古墳……二二一
第二百二十八節　大谷古墳……二二三
第二百二十九節　大谷古墳……二二五
第二百三十節　大谷古墳……二二七
第二百三十一節　大谷古墳……二二九
第二百三十二節　大谷古墳……二二一
第二百三十三節　大谷古墳……二二三
第二百三十四節　大谷古墳……二二五
第二百三十五節　大谷古墳……二二七
第二百三十六節　大谷古墳……二二九
第二百三十七節　大谷古墳……二二一
第二百三十八節　大谷古墳……二二三
第二百三十九節　大谷古墳……二二五
第二百四十節　大谷古墳……二二七
第二百四十一節　大谷古墳……二二九
第二百四十二節　大谷古墳……二二一
第二百四十三節　大谷古墳……二二三
第二百四十四節　大谷古墳……二二五
第二百四十五節　大谷古墳……二二七
第二百四十六節　大谷古墳……二二九
第二百四十七節　大谷古墳……二二一
第二百四十八節　大谷古墳……二二三
第二百四十九節　大谷古墳……二二五
第二百五十節　大谷古墳……二二七
第二百五十一節　大谷古墳……二二九
第二百五十二節　大谷古墳……二二一
第二百五十三節　大谷古墳……二二三
第二百五十四節　大谷古墳……二二五
第二百五十五節　大谷古墳……二二七
第二百五十六節　大谷古墳……二二九
第二百五十七節　大谷古墳……二二一
第二百五十八節　大谷古墳……二二三
第二百五十九節　大谷古墳……二二五
第二百六十節　大谷古墳……二二七
第二百六十一節　大谷古墳……二二九
第二百六十二節　大谷古墳……二二一
第二百六十三節　大谷古墳……二二三
第二百六十四節　大谷古墳……二二五
第二百六十五節　大谷古墳……二二七
第二百六十六節　大谷古墳……二二九
第二百六十七節　大谷古墳……二二一
第二百六十八節　大谷古墳……二二三
第二百六十九節　大谷古墳……二二五
第二百七十節　大谷古墳……二二七
第二百七十一節　大谷古墳……二二九
第二百七十二節　大谷古墳……二二一
第二百七十三節　大谷古墳……二二三
第二百七十四節　大谷古墳……二二五
第二百七十五節　大谷古墳……二二七
第二百七十六節　大谷古墳……二二九
第二百七十七節　大谷古墳……二二一
第二百七十八節　大谷古墳……二二三
第二百七十九節　大谷古墳……二二五
第二百八十節　大谷古墳……二二七
第二百八十一節　大谷古墳……二二九
第二百八十二節　大谷古墳……二二一
第二百八十三節　大谷古墳……二二三
第二百八十四節　大谷古墳……二二五
第二百八十五節　大谷古墳……二二七
第二百八十六節　大谷古墳……二二九
第二百八十七節　大谷古墳……二二一
第二百八十八節　大谷古墳……二二三
第二百八十九節　大谷古墳……二二五
第二百九十節　大谷古墳……二二七
第二百九十一節　大谷古墳……二二九
第二百九十二節　大谷古墳……二二一
第二百九十三節　大谷古墳……二二三
第二百九十四節　大谷古墳……二二五
第二百九十五節　大谷古墳……二二七
第二百九十六節　大谷古墳……二二九
第二百九十七節　大谷古墳……二二一
第二百九十八節　大谷古墳……二二三
第二百九十九節　大谷古墳……二二五
第三百節　大谷古墳……二二七



第一章　序　説

第二章　発掘調査……
第一節　桜ヶ丘古墳……
一　墳丘……
二　内部主体……
三　遺物……
金属製品　武器　武具　工具　馬具　装飾　装身具
第二節　鈴鹿山古墳群……
一　第二号古墳……
第一節　墳丘　第二節　埋葬施設　第三節　遺物
2　内部主体……
3　遺物……
土師器類大　土製品類大　鉄製品類大　武器
一　第三号古墳……
1　墳丘……
2　内部主体……
3　遺物……
金属　武具　馬具　工具　装身具
二　第三号古墳……
1　墳丘……
2　内部主体……
3　遺物……
金属　武具　馬具　工具　装身具
第三章　考察……
第一節　桜ヶ丘古墳の特質と築造年代……
第二節　鈴鹿山古墳群の特質と築造年代……
第三節　桜ヶ丘古墳発見石室の研究……
（補）日本最新古墳発見地名表
第四節　鎧石城について……
古墳　鎧石城の特質　設置者の問題
結……
大橋　勝　坪
あとがき……
土師村教育委員会委員長　大

図版
口絵　大正　諏訪湖全景
第一図　桜ヶ丘古墳遠景（北西から）
第二図　桜ヶ丘古墳遠景（北から）
第三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第八十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第九十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百二十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百三十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百四十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百五十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百六十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百七十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百八十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第百九十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百二十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百三十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百四十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百五十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百六十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百七十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百八十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第二百九十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百二十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百三十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百四十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百五十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百六十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百七十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百八十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第三百九十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百二十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百三十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第四百四十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百二十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百三十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百四十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第五百五十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百二十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百三十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第六百四十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十五図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十六図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十七図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十八図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百二十九図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百三十図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百三十一図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百三十二図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百三十三図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百三十四図　桜ヶ丘古墳　墳丘全景
第七百三十五図　桜

行するにいたったのである。

この間、大橋群氏所蔵のもとに調査と執筆に努力された金谷克己氏の逝去をみたことについて、衷心から哀悼の意を表する次第である。

また先きの調査にひきつづき、本書の出版についても、地主各位をはじめ各方面の御尽力を得たが、とくに感謝に堪えないのは昭和三一年九月二八日、県・市・町村議会議員選挙の当日、三笠宮殿下がわざわざ来臨されて、本書のために御揮毫を賜わられ、また御激励を賜わったことである。

ここに、終始御尽力と御協力とを下さった各位に対し、改めて厚く感謝の意を表して序文とする。

昭和三一年一〇月二八日

長野県埴科郡松代町　三浦忠夫

例言

一　本書の執筆分担は次のとおりである。

第一章　序　説　……　三浦　忠夫（長野県埴科郡松代町）

第二章　発掘調査　……　金谷克己（故人　元長野県文化財委員）

第三章　考　察　……　大橋群雄（長野県埴科郡松代町）

一　本書の編集については、長野県文化財専門委員武井博士・長谷川氏の懇切な指導を受けた。

本文目次

題辞……三笠宮殿下
序文……三浦　忠夫一
例言……一
第一章　序　説……一
第一節　立地と環境……一
一　我が国古墳の立地……三
二　我が国古墳の立地的特徴……四
三　砂場山古墳群の立地……四
四　近辺の古墳群……七
第二節　調査の経過……八
一　第一次調査……八
二　第二次調査……三
三　現状の調査……三

序

浅間温泉をもち、アルプスを望み、風光にめぐまれたわが本郷村は、観光・保養・スポーツ・農業・文化の村をとしていもじるしく発展を遂げつつあるが、一朝、早く古代から開かれているので、知られた史跡も多く、開発文化財また多く残存している。

たまたま、去る昭和二九年六月、女鳥羽小学校生徒によって発見された坂ヶ丘古墳から出土した優れた遺物を見る機会を得たので、この古墳を調査することによっては、本村古代史の一側面が究明できるやに考え、松本市寿小学校小学校長篠原義雄氏に諮ったところ、同氏の熱意により、国学院大学教授文学博士大場磐雄氏に協賛し資料を挙げて実施することとした。ついで、村誌編纂の資料を得るため、鈴蘭山古墳群の調査をも併せてすることとし、前後二回にわたって発掘を行なったのである。

坂ヶ丘古墳調査中、金銅天冠の出土したことは、全国的に為兼な事例を提供するものであって、これによって本村の歴史の原に於いて、古代から中央に通じていたことの有力な傍証ともなるものであるとえいえて、その出土の意義は開かれ、古代文化における本村の位置は的確さを加めるにいたったといえよう。

本村としては、まのりにその保護保存の方策について、教育、長野県文化財専門委員久保博士、元長野県、松本城址史跡等保護委員会委員の指導、調査報告により、金銅に推移変更を加え、今回の古墳の調査報告書として刊行したのである。その後、種々の事情により、金銅に推移変更を加え、今回の古墳の調査報告書として刊行

信濃浅間古墳

長野県東筑摩郡本郷村

長野県松本市　桜ケ丘古墳　再整理報告書　抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし　さくらがおかこふん　さいせいりほうこくしょ
書名	長野県松本市　桜ケ丘古墳　再整理報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	No.170
編著者名	内堀　団
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-8620　長野県松本市丸の内3番7号　TEL 0263-34-3000(代表) (配録・資料保管：松本市立考古博物館　〒390-0823　松本市中山3738-1　TEL 0263-86-4710)
発行年月日	2003(平成15)年3月25日(平成14年度)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
さくらがおか 桜ケ丘	ながのけんまつもとし 長野県松本市 あさまおんせんいいじほら 浅間温泉飯沖洞1315番	20202	103	36度 15分 28秒	137度 59分 36秒	20020401～ 20030325	—	既出遺物の保存修復完了

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桜ケ丘	古墳	古墳	竪穴式石室の系統 主室　1 副室　1	金銅製遺物 金銅製天冠(鉢巻式冠形)　1 *シャーレ裏面分を含む数 二角板革綴衝角付冑　1 革綴打延短甲　1 長方板革綴短甲　1 刀　1 剣　5 鉾　1 鏃(鏃身6、篦被17、茎8)　31 武具類破片　75 武器・武具類破片　132 *破片は同一個体内破片を含まない数 石製遺物 勾玉　1 臼玉　5 ガラス製遺物 丸玉　9 小玉　32 大刀付着遺物 壁撫　1 布　1	金属製遺物の保存修復処置を完了したことに伴い、石製、ガラス製を含む既出遺物の再実測を行った。 東京文化財研究所に、墳丘実測図・石室実測図・遺物実測図(複写)が所管される。 國學院大學日本文化研究所に、本古墳に関係する乾板写真が所蔵される。 新たな鏃の実測図と写真を発見し、参考資料とした。内訳は、鏃身8、篦被9、茎2の計19である。 金銅製天冠レプリカは、松本市立考古博物館、國學院大學考古学資料館(報告書掲載品)、長野県立歴史館がそれぞれ所蔵している。

松本市文化財調査報告No.170

長野県松本市
桜ケ丘古墳
再整理報告書

発行日　平成15年3月25日

発　行　松本市教育委員会
郵便番号390-8620
長野県松本市丸の内3番7号
電話番号0263-34-3000(代表)

印　刷　川越印刷株式会社
郵便番号390-0875
長野県松本市城西1丁目5-21
電話番号0263-32-0131